授業評価報告書

－　よりよい授業への改善をめざして　－

2005

四條畷学園短期大学

Shijonawate Gakuen Junior College

序

この度、本学の「自己点検・評価」の一環として実施された平成17年度の前期、後期にわたる「学生による授業評価」の集計、分析が終了し、「授業評価報告書－よりよい授業への改善を目ざして－2006」として公表されることになった。今回の調査では、「学生による授業評価」のみに留まらず、教員自身による「自己点検評価」も併せて実施された。学生と教員による授業評価を双方向的に分析することで両者による評価の一致性や離隔性が示され、今後目指すべき改善点をより明らかにすることができるのではないかと考えたからである。

さらに教員に対しては両者による分析結果を知らせるだけでなく、結果に基づいた意見や授業の改善点などについての自由記述を求めたが、その回答率は 98.69%と極めて高かった。専任、非常勤を問わず殆ど全ての教員が、本学の教育の質的向上を目的とした今回の「授業評価」の意義について十分にご理解くださり、快くご協力下さったことに深甚の謝意を表したい。

本報告書の公表が教員の意識改革を図る機会となり、その内容が学生の学習意欲を高めるための授業の質的向上やシラバスの見直しに資するものとして活用されることを心より願うものである。

本報告書はプライバシーの侵害や特定の個人の不利益にならないように配慮され、その限界内で可能な限りの情報が伝えられるようにまとめられたものである。調査の実施、結果の集計と分析、報告書の作成などに多大なる時間と労力を割かれた担当教員、また事務局の方々に心から感謝する次第である。

今日、「学生による授業評価」は実施の普及期から、その評価を授業にどのように反映させるかということが課題になってきているといわれている。本学では、1991年の「短期大学設置基準」の改正の後、比較的早期に「自己点検・評価」の一環として「学生による授業評価」を実施したが、その時は実施した授業担当者自らが分析した評価結果を自身の授業改善に還元するという形で終わり、組織的な形で取り扱われることはなかった。以来、学科の改組、新設が続き、授業評価についての組織的改善システムを確立する余裕がないまま今日に至ったため、本格的な授業評価を実施したのは今回が初めてである。大学審議会は「短期大学教育の改善について」（答申）の中で「不断の自己点検・評価をおこない、改善への努力をおこなっていくことが重要」と継続性の必要性と意義を述べている。短期大学にとってとりわけて重要な授業評価が遅れたことを反省し、今回を機に今後毎年継続的に授業評価を実施してその結果を授業に反映させる努力を重ねる一方で、教員の教育力を高めるためのＦＤ活動を導入して相互に研鑽し合う機会を多くするなど、組織的に教育効果の向上を図るための授業改善システムを確立していきたいと考えている。

平成18年6月　　四條畷学園短期大学副学長　　石　村　哲　代

もくじ

1　はじめに

授業評価の目的と意義……1

2　学生による授業評価の実施方法……3

調査の対象

調査の内容と手続き

調査の時期

3　教員による自己評価の実施方法……3

調査の対象

調査の内容と手続き

4　教員による自己点検評価報告書の実施方法……3

調査の対象

調査の内容と手続き

5　授業評価と自己評価の結果……4

授業への出席について

学生による授業評価と教員による自己評価の総合的結果

A　教員の授業実施態度、学生への対応について

B　授業内容について

C　学生の授業への意識について

D　授業環境について

E　実技・実習について

6　教員による自己点検評価報告書の結果……16

7　全体的な考察と今後の問題……17

付表

1　教員による自己点検評価報告書（保育学科）……20

2　教員による自己点検評価報告書（ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科）……29

別紙

1　授業評価の実施要領 ……41

2　学生による授業評価ｱﾝｹｰﾄ……42

3　教員による自己評価ｱﾝｹｰﾄ……43

4　教員による自己点検評価報告書 ……44

1 はじめに

授業評価の目的と意義

本学では過去に授業評価は実施したものの、そこで得られた結果を、その後の授業のあり方に反映することなく、単なる結果として取り扱った経緯がある。本来、評価のひとつの意義が、評価結果を教員にﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸし、次の授業のあり方を考える際のひとつの指標として利用することにあることを考慮すれば、従来の授業評価は不十分といえる。

今回の授業評価を実施するにあたって、学生からの授業評価の結果を、授業担当者が次年度の授業計画に役立てることができるように、授業内容に反映されることを第一に考えた。

評価のひとつの機能は、単に評価された結果をﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸすることで終わるのではなく、ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸされた内容を被評価者（授業担当者）がどのように受け止め、次への行動のステップとして生かしていくかが重要な機能であるとされる。この評価―結果のﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ―授業再編のｻｲｸﾙが循環することによって、授業の活性化が図られ、より完成された授業へと発展していくと考えられる。つまり授業担当者が学生から受けた評価をもとに今年度の授業を見直し、次年度の授業のあり方への一資料として利用されてはじめて、授業評価を実施した意味があるといえる。つまり、学生からの授業評価を授業担当者自身がどのように受け止めていくことができるかが、授業内容の改善へとつながるひとつの要素といえる。

このような観点に立って、今回の授業評価では単に学生からの評価結果を分析するだけではなく、今後授業担当者がその結果をどのように教員自身の授業の中で生かせるかということを念頭において実施することにした。

そこで、この目的を達成するために、今回の授業評価においては学生の授業評価に加えて次の 2 つの方法を導入した。そのひとつは、教員自身にも担当の授業についての自己評価を求めたことである。これは、教員自らが自分の授業を振り返ることによって、再度授業のあり方について認識することが重要であると思われるからである。

つまり、学生が実施した授業評価に加えて、教員自身による自己評価の結果を求め両者を合わせて考えることによって、学生からの授業評価の結果がさらに意味のあるものになると思われる。

2 つ目は学生からの授業評価と教員自身の自己評価の 2 つの結果を教員にﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸする際に、それらの 2 つの結果について教員がどのように考えているかについて、記述を求めた。自分の授業について、学生と教員の両評価の結果について再度考えることにより、授業のあり方に関してより深く認識されることを期待したからである。つまり、単に結果のﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸで終了するのではなく、ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸされた結果について教員自身がどのように感じ、考えたかについて知ることがよりよく授業を改善すると考えられたからである。

このような意図に基づいて「教員による自己点検評価報告書」（付表参照）を作成した。もちろん、この報告書の提出を求めなくても、各教員が毎年の授業について改善を重ねていることは予測されてはいるが、教員自身が考えたそのことを客観的に明らかにすることが、さらなる授業改善への意識の向上につながるのではないかと考えられたからである。

「教員による自己点検評価報告書」は次の３つの質問から構成されている。

１．学生による授業評価の集計結果について
２．教員による授業の自己点検評価からみた集計結果について
３．今後の改善点について

即ち、1では学生によってﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸされた評価について教員がどのようにとらえているかについての考えを問うたものである。２は、自己評価とのからみから学生からの授業評価についての考えを求めたものである。そして、３は授業評価で得られた結果を今後の授業にどのように生かしていくのかについての考えを求めたものである。

このように、教員の授業についての自己評価と「教員による自己点検評価報告書」で記述を求めたように、評価結果を今後の授業にどのように生かすのかという観点があって初めて授業評価の目的が達成されると思われる。

授業評価は学生が一方的にするものではなく、双方向的であることは言うまでもない。学生からの授業評価をもとにして授業担当者である教員が授業のありかたについて振り返ることが大切だろうと思われる。とりわけ、教員が精力を注いで授業を展開したことを、学生がどのように把握していたかについて、教員自身が知ることは、今後の授業について考える際に重要な要因といえる。学生からの反応を敏感に感じ取り、それらを視野に入れながら授業の進行を行わねばならないことはいうまでもないことである。授業は授業担当者自身の独りよがりになることもなく、かといって学生に迎合するような授業であってはならないといえる。そのためには、学生からの率直な評価と自身の自己評価をあわせ考えることを基本にして、授業のあり方について振り返ってみることが授業改善の一歩となるのではないかと考え、上記の「教員による自己点検評価報告書」を実施することにした。

当然のことながら、学生による授業評価の得点が授業の内容の良否を表しているものではないことはいうまでもない。授業によっては、人数が極端に少なく、授業担当者と個人的なふれあいを感じることができる授業から、多人数の講義の授業では、従来からの一方向的な授業形態にならざるをえない授業までを、ひとつの尺度で測定し、それらを同じ土台の上で判断することができないことは充分承知の上で結果を考察することは大切である。さらに、学科によっては非常に実用的な実習授業から科学的、哲学的な抽象的な内容の授業もあり、それらをひとつの授業評価の尺度で測定するという非常に危険な要素も含まれていることを念頭において結果を見ていかねばならないと考えている。

しかしながら、ここで得られた結果をわれわれ授業担当者は真摯に受け止めて、今後の授業のあり方に反映していかねばならないことはいうまでもないことと考えている。

2 学生による授業評価の実施方法

調査の対象

授業評価ｱﾝｹｰﾄを実施した学生は保育学科 232 名（1 年 112 名、2 年 120 名）とﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科 236 名（1 年 115 名、2 年 121 名）、合わせて 468 名であった。

調査の内容と実施方法

学生による授業評価は、21 項目から作成された。それらは授業への出席状況についての１項目と授業の評価に関する 20 項目から構成されている。授業の評価に関する 20 項目は、授業の実施や教授態度に関する 6 項目（問１、２、８、９、10、11）、授業内容に関する５項目（問３、４、５、６、７）、学生の授業への意識に関する 4 項目（問 12、13、14、16）、授業環境に関する 1 項目（問 15）の計 17 項目がすべての授業に関しての評価項目であり、さらに実習・実技の授業に関してのみ 4 項目（問 17、18、19、20）が追加された。実習・実技授業については計 21 項目の評価項目から構成されていた。これらの具体的な項目内容は別紙 2 に示すとおりであった。

学生による授業評価は前期、後期の最終授業時間の最後に授業担当教員が実施した。実施の仕方は文書（別紙 1）にて予め授業担当者に伝え、統一を図るようにした。学生による授業評価用のｱﾝｹｰﾄ用紙（別紙 2）を配布し、回答はﾏｰｸｼｰﾄ方式で実施した。ｱﾝｹｰﾄの回収にあたっては、学生の代表が回収し、即座に袋詰めにして封印し、授業担当者が直接回収することを回避した。これは、結果の客観性を堅持するためには重要なことと思われる。

ｱﾝｹｰﾄ実施に要する時間はおおよそ 15 分程度であった。

3 教員による自己評価の実施方法

調査の対象

開講されている授業を担当している全教員が調査の対象であった。ただし、実習などｱﾝｹｰﾄ実施が困難である場合は除いた。その結果、保育学科では 55 名、ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科では 71 名の教員が調査の対象であった。

調査の内容と手続き

各授業担当者全員に学生に授業評価を実施すると同時に教員にも自己評価のｱﾝｹｰﾄを実施した。質問項目は学生の授業評価項目に対応するもので、内容は変えずに、記述表現を教員向けにしたものである。実際に使用した項目は、別紙 3 に示すとおりであった。

教員の自己評価のｱﾝｹｰﾄは学生がｱﾝｹｰﾄを記入していると同時に教員にも記入を求め、学生用ｱﾝｹｰﾄとは別にして回収した。

4 教員による自己点検評価報告書

調査の対象

本学で開講されている授業担当者全員を対象とした。しかし、実習などでｱﾝｹｰﾄ実施が困

難である場合、また教員によって実施を拒否された場合、事務上の手続き不備により実施できなかった場合は省いた。その結果、保育学科 55 名、ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科 69 名が調査の対象であった。

調査の内容と実施方法

この報告書は学生の授業評価の結果を授業担当者にﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸする際に同封して、回答を求めた。次の 3 項目について自由記述で回答を求めた。

ひとつは、学生による授業評価の結果を見て、どのように感じ、考えたかについて記述してもらった。次に、学生による授業評価の結果と自己評価の結果とを考え合わせて、自己の授業のあり方と学生の違い（ズレ）について考察を求めた。3 つ目は、上記の 2 つの回答を踏まえて、今後授業をどのように改善していけばいいのかについての記述を求めた。いずれも字数の制限は設けずに、自由に記述する方法をとった。

実際に使用した報告書は別紙 4 のとおりであった。

5 授業評価と自己評価の結果

授業評価は授業ごとに実施したので、表に示すような実施数になった。また、表 1 では受講者数について、平均受講者数と最大、最小人数を示している。

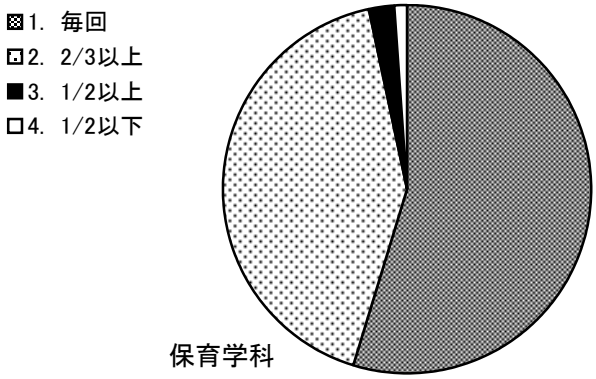
表 1　　授業評価を実施した授業科目数と受講者数

	保育学科	ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科
授業数	146	203
延べ人数	6548 人	5124 人
科目あたりの受講者数（平均）	44.23 人	25.24 人
最小受講者数	3 人	2 人
最大受講者数	114 人	125 人

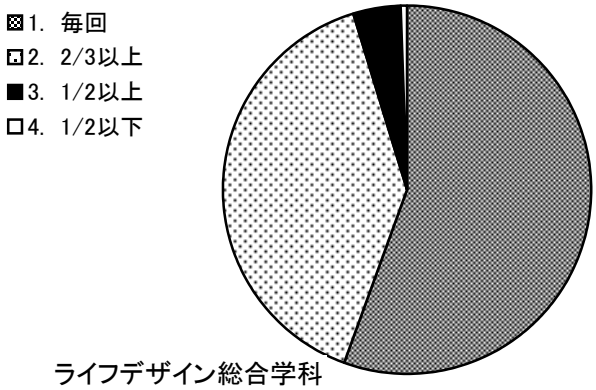
表 1　に示す述べ人数のうち、不完全な回答を省いた結果、有効回答率は保育学科では 93、33%、ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科では 78.9%であった。また、教員の有効回答率は保育学科で 100%、ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科で 98.6%であった。

授業への出席について

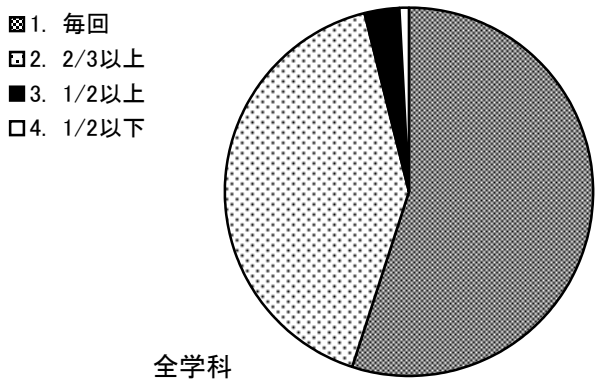
授業への出席状況を学科別、及び 2 学科全体で示すと図 1 のとおりであった。両学科とも非常に類似した傾向を表しており、ともに約 55%の学生が全回出席であった。また、2/3 以上出席している学生は約 40%であり、約 95%の学生が授業の 2/3 以上は出席しているといえる。いずれの学科においても出席状況は非常にいい状態といえる。



保育学科



ライフデザイン総合学科



全学科

図1　出席状況

学生による授業評価と教員による自己評価の総合的結果

出席状況についての質問項目を除いた 20 の質問項目を次の５つ（A～E）に分類して結果の分析をした。

A　教員の授業への取り組み姿勢
B　授業内容に関して
C　授業に対する学生の反応、意識
D　授業の物理的環境
E　実習、実技に関して

各項目は（そう思う、どちらかといえばそう思う、どちらでもない、どちらかといえばそう思わない、そう思わない）の５件法で回答を求めた。肯定的な回答を５点とし、５点から１点に得点化した。

A　教員の授業への取り組み姿勢

授業の進行に際して、担当教員の「発話の明瞭性と速度」（問１）、「説明の丁寧さ」（問２）、「板書の仕方」（問８）、「授業に対する熱意」（問９）、「学生への適切な応答」（問 10）、「授業環境への配慮」（問 11）の 5 項目を教員の授業への取り組み姿勢として分析した。

学生による授業評価と教員による自己評価について科目ごとに平均値を算出し、さらに各項目ごとに学科別に平均値を算出した結果が表 2 である。また、それらの平均について保育学科、ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科、全学科に分けて図示したものが図 2 である。

全体的には、6 つのいずれの項目おいても学生評価と教員自己評価に有意な差がみとめられた。そして、板書に関する項目を除いては教員自己評価が学生評価を有意に上まわった結果であった。保育学科においては、すべての項目において学生評価と教員自己評価に有意な差が見られ、板書のわかりやすさの項目を除いて、教員自己評価が学生評価を上回る結果であった。このことは、教員の授業への取り組み方に関して、学生と教員で大きなへだたりがあり、教員の熱意が学生にはあまり伝わっていなかったことを示している。ただ板書に関しては学生と教員自己評価の関係

表2．　教員の授業への取り組み姿勢の結果

項目番号	項目	保育			ライフ			全学科		
		学生評価	教員自己評価	有意差	学生評価	教員自己評価	有意差	学生評価	教員自己評価	有意差
問1	教員は大きな声で聞き取り易い速さで話してくれた。	4.13	4.57	**	4.24	4.59	**	4.20	4.59	**
問2	教員は授業内容が良く理解できるように丁寧に説明してくれた。	3.99	4.40	**	4.14	4.38	**	4.08	4.41	**
問8	板書はわかりやすかった。	3.72	3.46	*	3.98	3.87		3.88	3.75	*
問9	授業に対する熱意や真剣さが伝わってきた。	4.11	4.60	**	4.19	4.55	**	4.16	4.59	**
問10	教員は学生の質問や発言などに適切に対応した。	4.04	4.37	**	4.18	4.46	**	4.13	4.40	**
問11	教員は授業態度の悪い学生に注意し、授業に集中できる静かな環境をつくってくれた。	3.95	4.31	**	4.13	4.16		4.06	4.22	**

＊ p<.05, ** p<.01

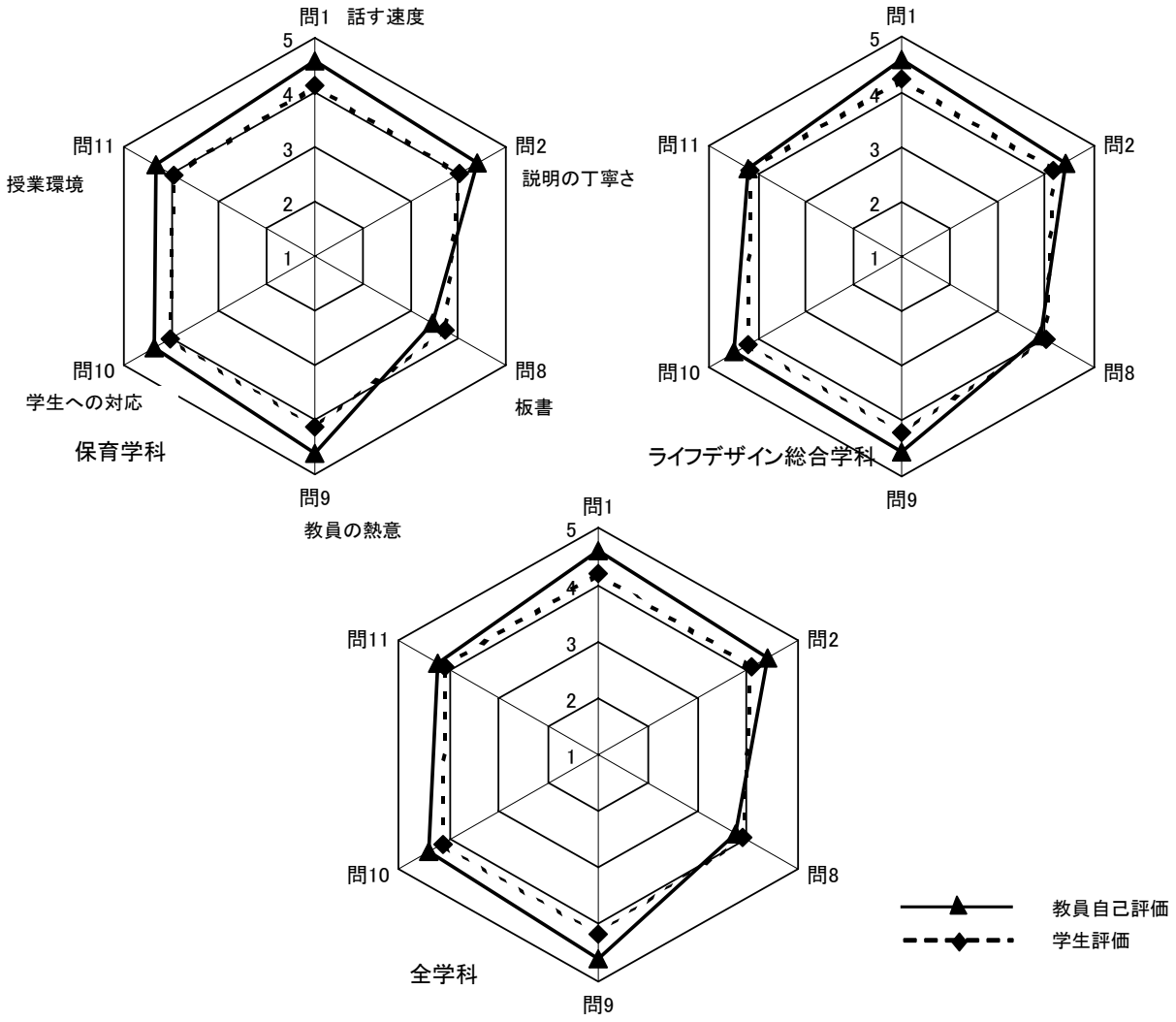


図2. 教員の授業への取り組み姿勢の結果

が逆になっており、教員は自分であまり上手には板書しているとは思っていないが、学生はそんなにもわかりやすくないとは感じていないといえる。

ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科においても良く似た結果であった。問 1、問 2、問 9、問 10 においては教員自己評価が学生評価を上回り、保育学科同様教員の取り組み姿勢が学生には伝わりにくいといえる。しかし、ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科では、板書の項目と授業環境への配慮という問 11 にも有意な差はなく、学生も教員同様静かな授業環境づくりへの教員の取り組みを認識していたといえる。

問 11 の授業環境についての両学科の違いを生む原因のひとつは受講者数の違いによるものと考えられる。保育学科では講義形式の授業で現行では 50 人ほどの学生が受講している。このように人数のわりには小さい教室で受講していることが関係しているのではないかと思われる。実際、ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科では、少人数の授業が多く、これは 1 授業あたりの平均受講者が保育学科では 44.23 人、ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科では 25.24 人ということからも考えられることである。

ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科では専門科目が 6 つの専門領域（以後ｴﾘｱと呼ぶ）から成っている。 6 つのｴﾘｱに基礎教育を加えた 7 つの領域ごとに平均値を示したのが表 3 と図 3 である。ｴﾘｱによって評

価得点には差が大きく見られるが、各ｴﾘｱでの人数に偏りが大きく、国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｴﾘｱやｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟでは受講者数が極端に少なく（平均受講者数は各々16・62、18・16)、最小の科目ではたった 2 人にすぎない科目もあった。また、国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｴﾘｱでは中国人留学生の割合が高く、すべてが留学生という科目もあった。従って、ｴﾘｱごとの平均値についてはこの点も充分に考慮に入れると、参考程度に結果を見る方が妥当であろうといえる。

表3.　ライフデザイン総合学科におけるエリア別の結果

項目番号	項目	基礎教育	専門教育					
		共通 人文教養 くらしと健康	ライフ	医療福祉	心理学	情報ネットワーク	国際コミュニケーション	ステップアップ
問1	教員は大きな声で聞き取り易い速さで話してくれた。	4.02	4.24	4.03	4.32	4.15	4.68	4.37
問2	教員は授業内容が良く理解できるように丁寧に説明してくれた。	3.89	4.17	3.83	4.19	4.05	4.64	4.43
問8	板書はわかりやすかった。	3.78	3.95	3.74	3.97	3.83	4.50	4.38
問9	授業に対する熱意や真剣さが伝わってきた。	3.93	4.22	3.96	4.28	4.12	4.67	4.32
問10	教員は学生の質問や発言などに適切に対応した。	3.90	4.24	3.99	4.17	4.07	4.65	4.36
問11	教員は授業態度の悪い学生に注意し、授業に集中できる静かな環境をつくってくれた。	3.88	4.15	3.89	4.16	4.03	4.65	4.35

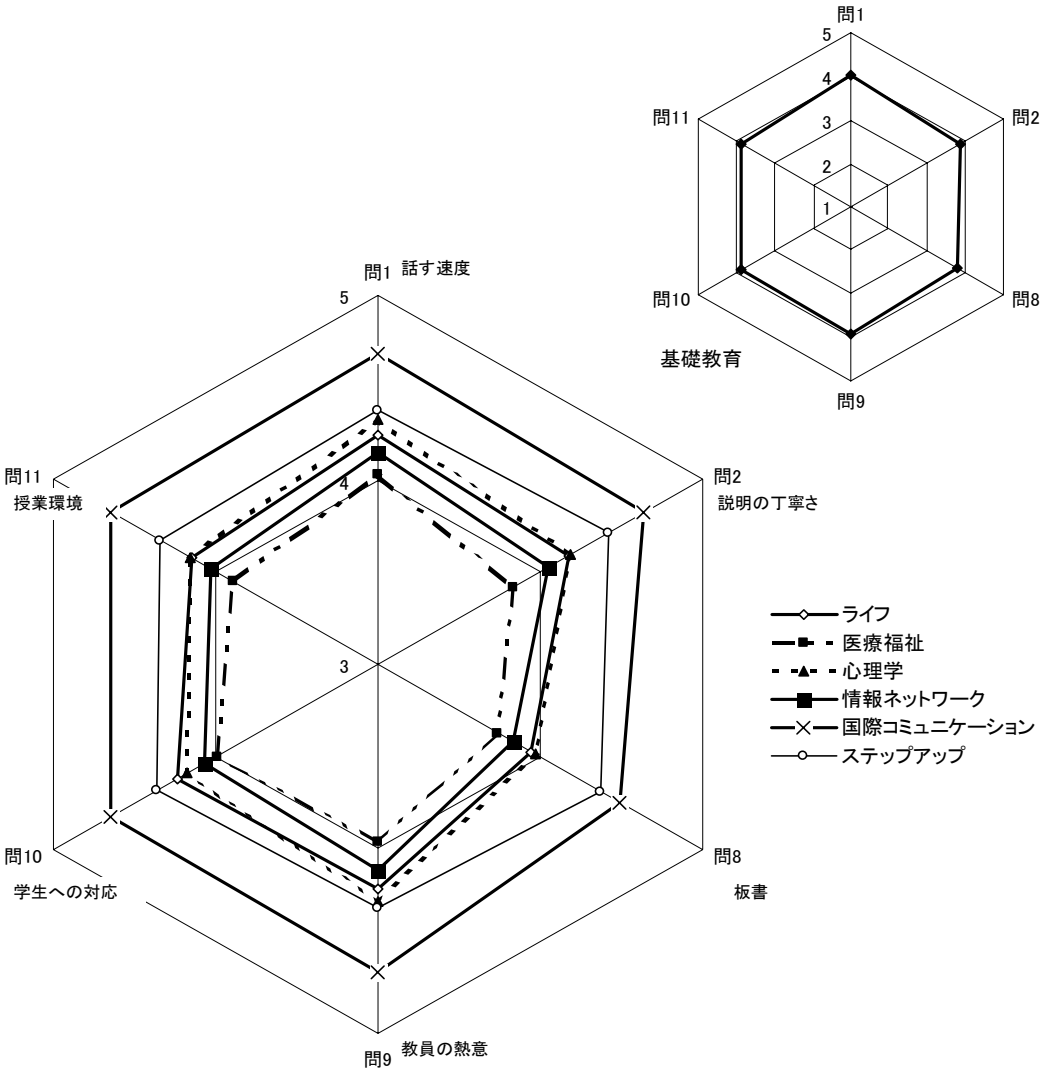


図3.　ライフデザイン総合学科におけるエリア別の結果

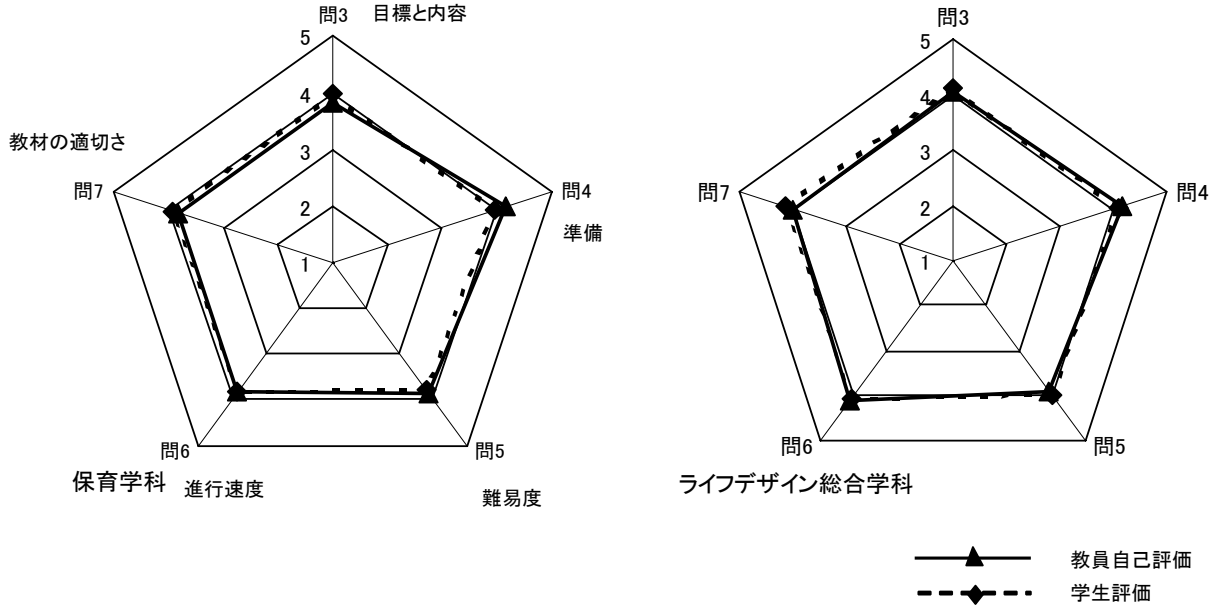
B 授業内容について

授業内容については、「シラバス通りの内容」（問 3)、「授業への準備と工夫」（問 4)、「授業の難易度」（問 5)、「授業の進行速度」（問 6)、「教材の使い方」（問 7）の 5 つの質問項目がこれに該当する。学科別及び、全体の平均値は表 4、図 4 に示すとおりであった。学生の授業評価と教員の自己評価間に有意な差がみられたのは、保育学科における「授業への準備と工夫」（問 4）においてのみであった。保育学科においては、教員は授業への準備や工夫について高く評価しているにもかかわらず、学生は教員ほどには評価していないことが分かる。しかしながら、「授業への準備と工夫」についての評価は他の項目の評価よりも高く、教員は授業に臨むにあたって充分に準備をしていることが分かる。

表4. 授業内容についての結果

項目番号	項目	保育			ライフ			全学科		
		学生評価	教員自己評価	有意差	学生評価	教員自己評価	有意差	学生評価	教員自己評価	有意差
問3	授業はシラバスに示された目標や内容に沿って行われた。	3.97	3.80		4.11	4.04		4.06	3.95	
問4	授業には充分な準備と工夫がなされていた。	3.98	4.16	*	4.12	4.18		4.07	4.20	*
問5	授業の難易度のレベルは適切であった。	3.80	3.86		4.03	3.93		3.94	3.89	
問6	授業の進行速度は適切であった。	3.83	3.83		4.09	4.11		3.99	4.00	
問7	テキストやプリント、視聴覚教材の使い方は適切であった。	3.96	3.81		4.14	4.03		4.07	3.96	

＊ p<.05, ＊＊ p<.01



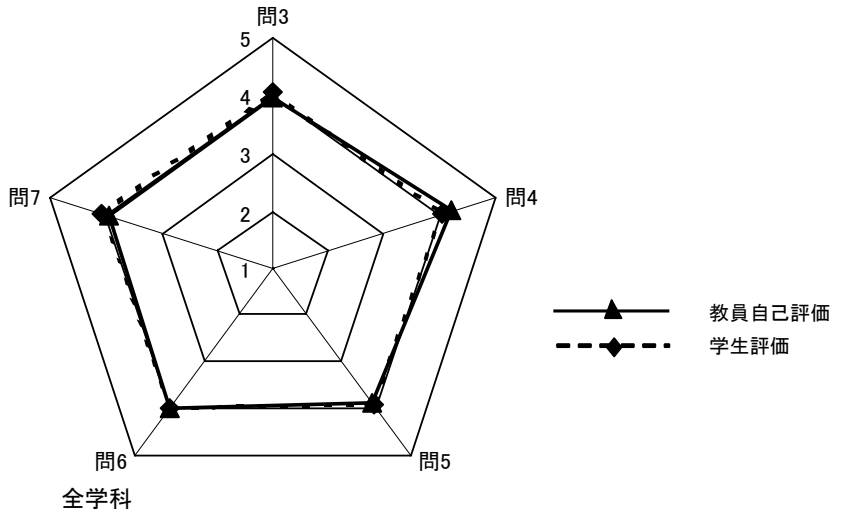


図4．授業内容についての結果

授業内容に関する５つの項目についての平均値を算出すると、保育学科では 3.91（学生）、3.89（教員）、ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科では 4.10（学生）、4.06（教員）と総じて評価得点が高いといえる。このことは、教員は授業への準備を周到に行い、シラバスに沿った内容で、学生に理解しやすいように工夫をして、適度な速度で授業を進行しているといえる。また、これらのことに関しては学生も教員の授業の進め方に関して適切な評価をしていることを示しているといえる。

ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科について、ｴﾘｱと基礎教育の７つの分野についての平均値は表 5 と図 5 に示す通りであった。先と同様に、受講者人数の関係でﾃﾞｰﾀに偏りが見られる。この場合も先の A の結果と同様にｴﾘｱごとの人数や授業での受講者数が極端に少ない場合などの原因により、数字どおりの結果としてうけいれるには危険性があると考えられる。ひとつの資料として参考にされたい。

表5．ライフデザイン総合学科におけるエリア別の結果

項目番号	項目	基礎教育	専門教育					
		共通 人文教養 くらしと健康	ライフ	医療福祉	心理学	情報ネットワーク	国際コミュニケーション	ステップアップ
問3	授業はシラバスに示された目標や内容に沿って行われた。	3.92	4.12	3.88	4.12	4.07	4.55	4.16
問4	授業には充分な準備と工夫がなされていた。	3.92	4.14	3.85	4.18	4.05	4.58	4.24
問5	授業の難易度のレベルは適切であった。	3.81	4.05	3.76	3.99	3.95	4.52	4.27
問6	授業の進行速度は適切であった。	3.91	4.05	3.83	4.19	3.93	4.59	4.35
問7	テキストやプリント、視聴覚教材の使い方は適切であった。	3.96	4.13	3.92	4.12	4.05	4.59	4.34

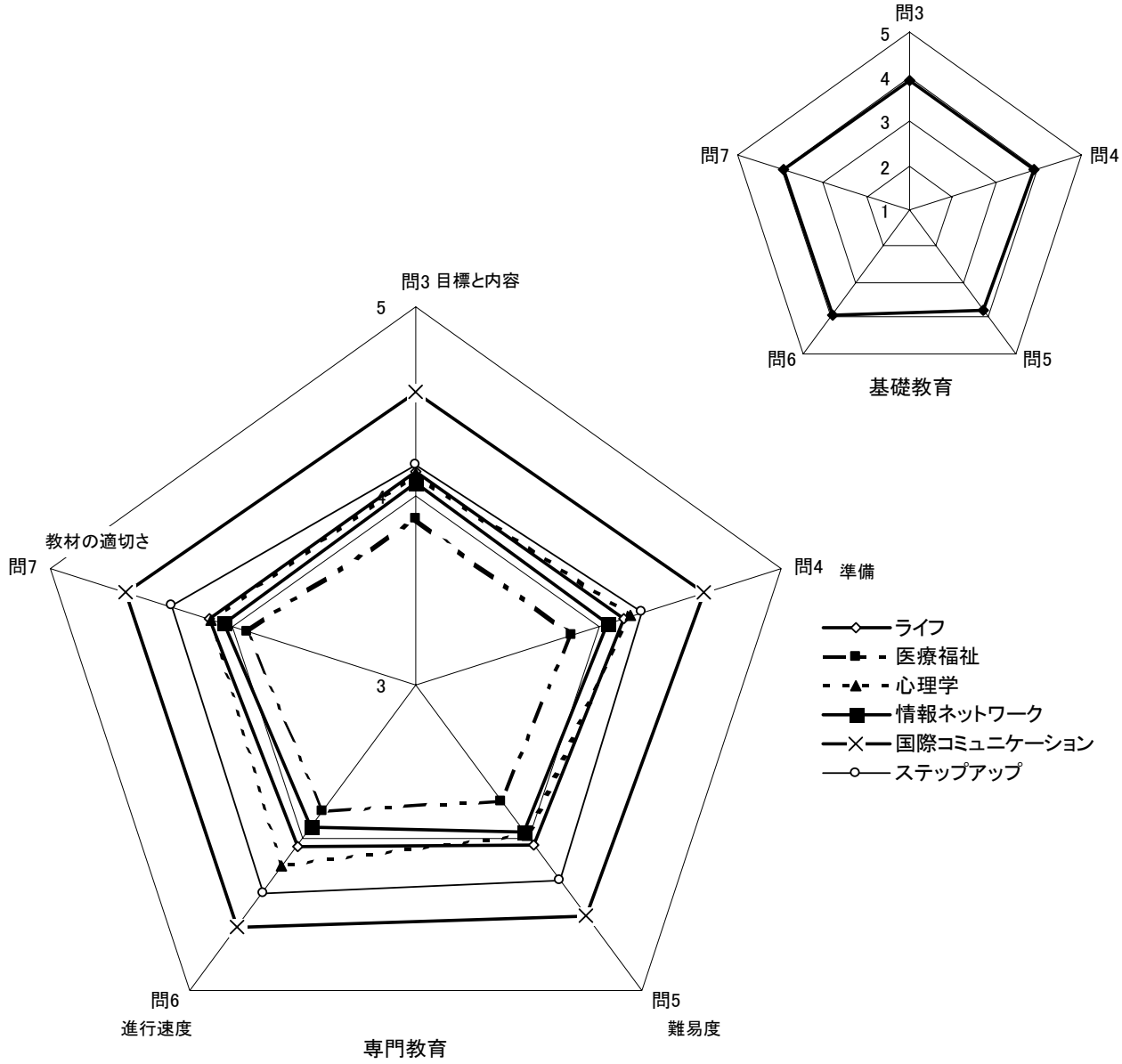


図5. ライフデザイン総合学科におけるエリア別の結果

C 学生の授業への反応、意識

次に、受講者である学生達が授業についてどのような意識を持っているのであろうかということについて分析した。「授業への興味」(問 12)、「授業内容の理解」(問 13)、「より深い関心」(問 14)、「満足度」(問 16) の 4 つの項目は主として学生の授業への意識的な面を測定する項目として分類した。学生達が授業にどんな意識で出席し、理解の程度がどうであったのか、またどの程度の満足感をもったのかという学生の反応については授業担当者としては、最も知らなくてはならない一面であろうと思われる。

表 6 と図 6 には、学科別及び全体の平均値が示してある。表及び図からわかるように、学生の反応、意識の 4 項目のすべてにおいて、学生の授業評価が教員の自己評価より高い評価を示して

表6.　学生の授業への反応・意識の結果

項目番号	項目	保育			ライフ			全学科		
		学生評価	教員自己評価	有意差	学生評価	教員自己評価	有意差	学生評価	教員自己評価	有意差
問12	授業に興味をもって熱心に取り組むことができた。	3.92	3.84		4.04	3.95	**	4.00	3.83	**
問13	授業の内容を良く理解することができた。	3.86	3.62	**	4.02	3.75	**	3.96	3.67	**
問14	授業により新しい知識や考え方、必要な技能を習得でき、もっと深く勉強したくなった。	3.84	3.79		3.98	3.98		3.93	3.88	
問16	総合的にみてこの授業を受けて満足している。	3.99	3.81	*	4.14	3.87	**	4.09	3.83	**

＊ p<.05, ＊＊ p<.01

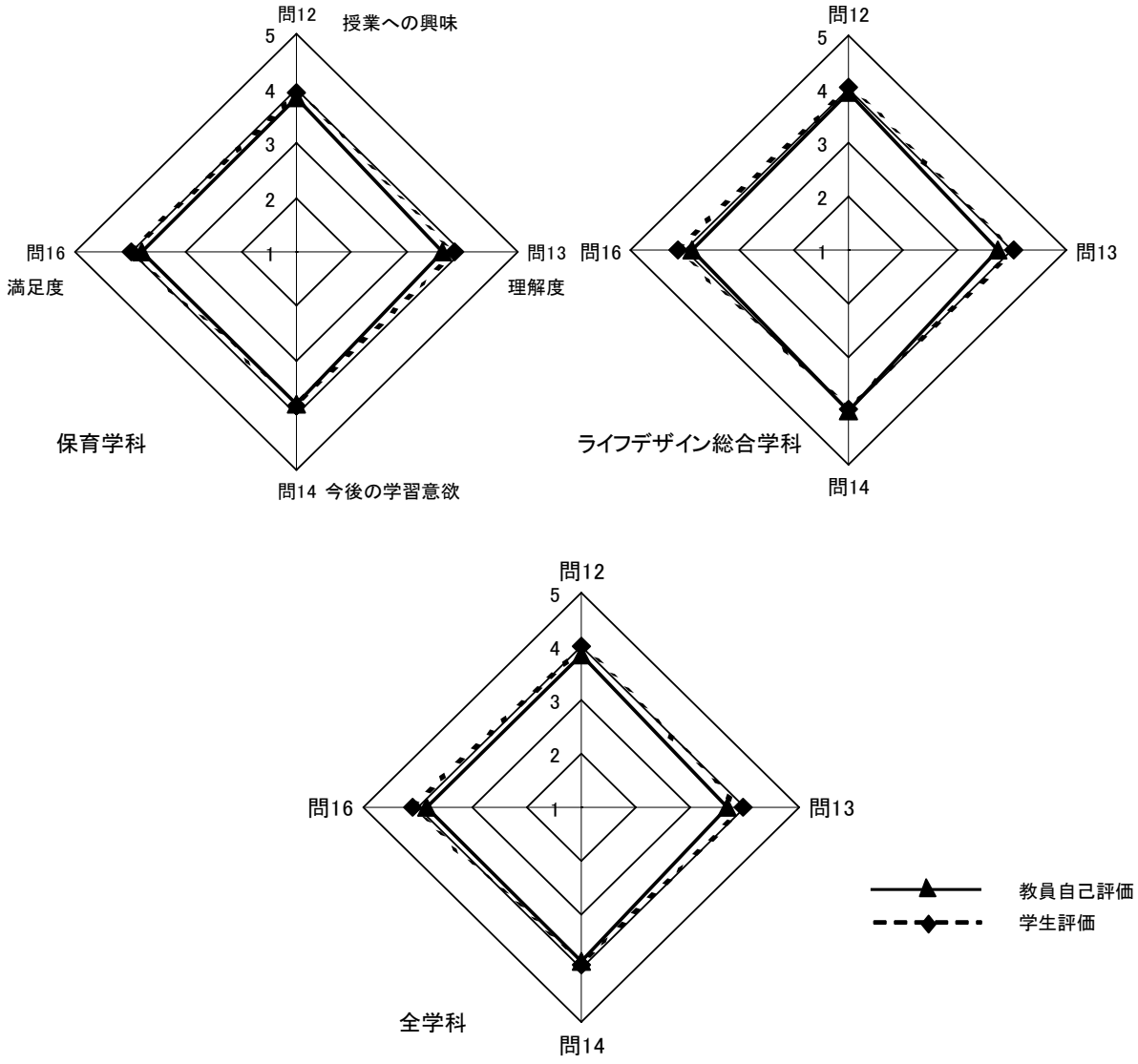


図6.　学生の授業への反応・意識の結果

いる。このことは、「授業に対するより強い興味を持ち」「授業内容をよく理解し」「さらに勉強したくなり」「授業に満足している」という、より高い意識で学生たちが受講していたといえる。学生の授業評価と教員の自己評価に見られるこの差についてのｔ検定の結果、ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科では「授業への興味」「授業内容の理解」「授業への満足度」、保育学科では「授業内容の理解」「授業への満足度」の項目において、学生の授業評価が教員の自己評価よりも有意に高い評価得点を示している。この結果は、授業への満足度や理解度について、教員が評価している以上に、学生の方がより高く評価していることを表している。

いずれの学科においても、学生の評価が教員の自己評価を上回っているといことは、教員自身の自己評価が厳しく評価されたことを示すとも考えられるし、また学生たちが前向きな姿勢で受講していることを表しているとも考えられる。

次に、「授業への学生の反応・意識」おける評価の結果とＡの「教員の授業への取り組み姿勢」の結果と比べると、学生と教員の評点の差が逆転していることがわかる。

「授業への学生の反応・意識」では保育学科では、学生の平均が 3.90、教員が 3.77、ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科では学生の平均が 4.05、教員が 3,89 でいずれの学科においても教員の評価よりも学生の評価が上回っている。これに対して「授業への取り組み姿勢」では、保育学科では学生の平均が 3.99、教員が 4.29 であり、ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科では学生の平均が 4.14、教員が 4.34 であり、教員が自己評価しているほどには学生からの評価が得られなかった。このような 2 つの結果を考え合わせると、教員の熱心さは教員が評価しているほどには学生には伝わっていないにも関わらず、学生自身は授業をよく理解し、受講には満足感を感じているという意識の高さがうかがえる。この点については学生は教員以上に高く評価しているといえる。教員の自己評価が低いことは教員自身の評価への自己制御なのか、学生からの反応が、感じられないのかは定かではない。教員自身が「授業がうまくいっていない」と思うほどには学生は感じていないことが推察される。

表 7 と図 7 はﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科におけるｴﾘｱと基礎教育についての平均値を示している。

表7．　ライフデザイン総合学科におけるエリア別の結果

項目番号	項目	基礎教育	専門教育					
		共通 人文教養 くらしと健康	ライフ	医療福祉	心理学	情報ネットワーク	国際コミュニケーション	ステップアップ
問12	授業に興味をもって熱心に取り組むことができた。	3.77	4.08	3.78	4.06	3.95	4.54	4.31
問13	授業の内容を良く理解することができた。	3.78	4.05	3.69	4.02	3.93	4.59	4.29
問14	授業により新しい知識や考え方、必要な技能を習得でき、もっと深く勉強したくなった。	3.68	3.97	3.75	3.97	3.91	4.57	4.27
問16	総合的にみてこの授業を受けて満足している。	3.88	4.13	3.87	4.17	4.07	4.68	4.40

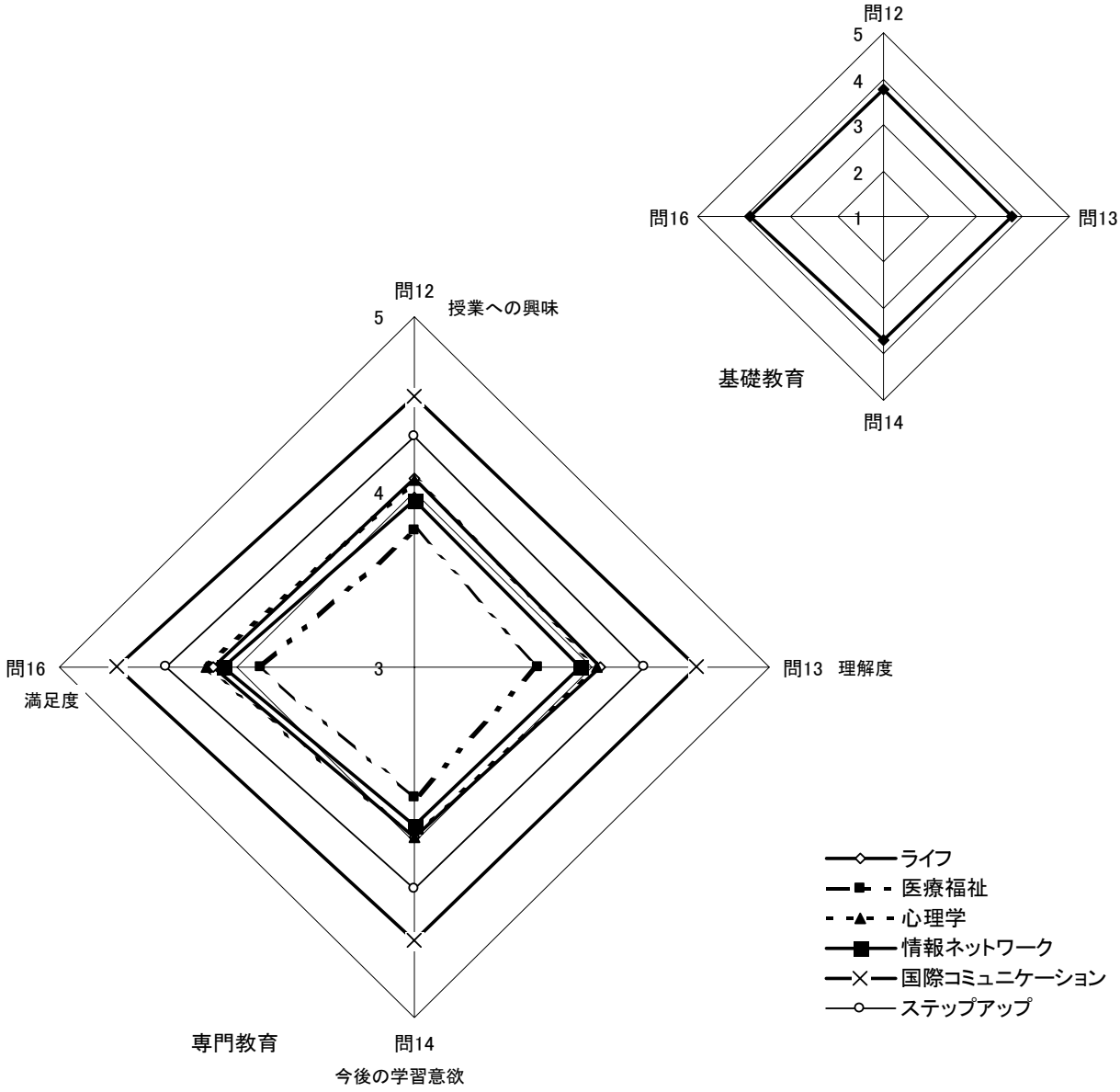


図7． ライフデザイン総合学科におけるエリア別の結果

D 設備

教室の大きさや設備についての評価を求めた問 15 の結果は表 8 に示すとおりであった。保育学科の教員の自己評価が有意に低く、ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科では学生評価と教員の自己評価に有意な差はなかった。保育学科の教員の得点の低さは、現在の本学の特殊事情（注）によるところが大きいとされる。

（注）現在保育学科校舎を新築中であり、ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科の校舎にて授業を行っているので、設備、教室面で充分ではないという実情がある。この問題については 2006 年後期より解消する予定である。

表8.　設備についての結果

項目番号	項目	保育			ライフ			全学科		
		学生評価	教員自己評価	有意差	学生評価	教員自己評価	有意差	学生評価	教員自己評価	有意差
問15	この授業の教室の大きさや設備（視聴覚機器や教材など）は適切であった。	4.03	3.48	**	4.19	4.01		4.13	3.83	**

＊ p<.05, ＊＊ p<.01

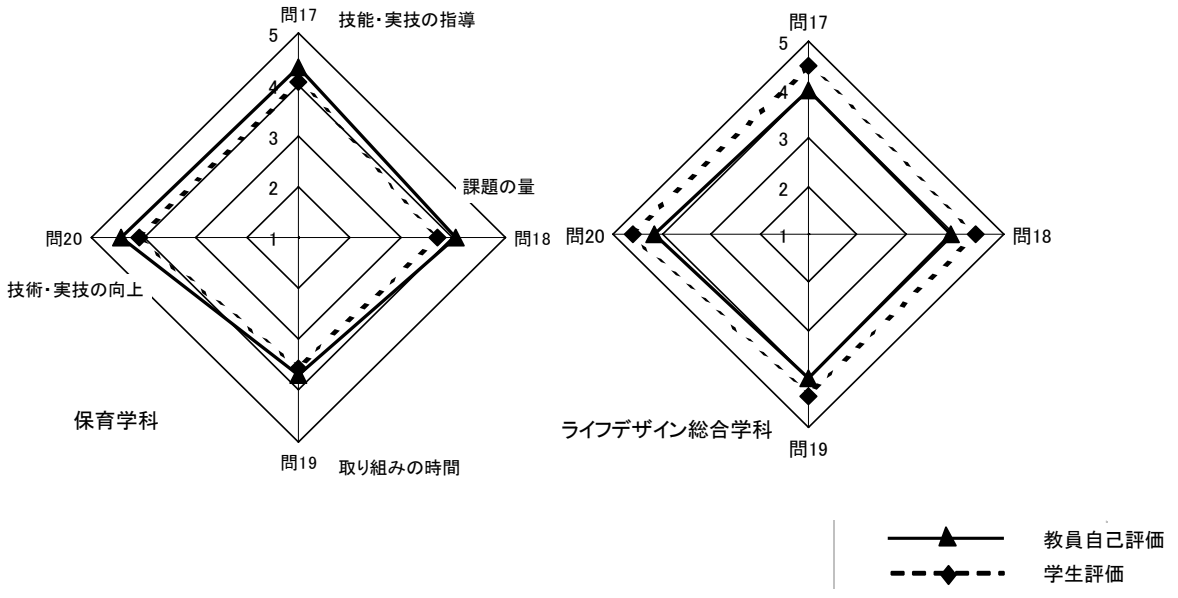
E 実技・実習

実技や実習について、「実技指導の適切さ」（問 17）、「課題の量」（問 18）、「時間の量」（問 19）、「実技の向上」（問 20）の 4 項目が、実技・実習授業のみに付け加えられた。保育学科では 19 科目、ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科では 20 科目の授業が実技・実習授業に相当し、これらの授業についての平均値は表 9、図 8 に示す通りであった。保育学科では、すべての項目において教員の自己評価の方が学生の授業評価より上回り、教員が評価しているほどには学生は評価していないことが分かる。ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科においては、保育学科とは全く逆であり、すべての項目において学生の評価が教員の自己評価よりも高い得点であった。つまり、ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科では学生達は実習・実技授業を充分にこなし、実技の向上に役立つものと認識していることが分かる。

表9.　実技・実習についての結果

項目番号	項目	保育			ライフ			全学科		
		学生評価	教員自己評価	有意差	学生評価	教員自己評価	有意差	学生評価	教員自己評価	有意差
問17	教員の技能や実技の指導は適切に行われた。	4.03	4.34	＊	4.49	3.97	＊	4.17	4.24	
問18	この授業で課せられる課題の量は適切であった。	3.69	4.02	＊	4.41	3.92		3.91	4.04	
問19	与えられた課題に取り組む時間は充分にあった。	3.56	3.69		4.37	3.97	＊	3.81	3.73	
問20	授業の内容は技術や実技の向上に役立つものであった。	4.09	4.43	**	4.58	4.16	＊	4.24	4.37	＊

＊ p<.05, ＊＊ p<.01



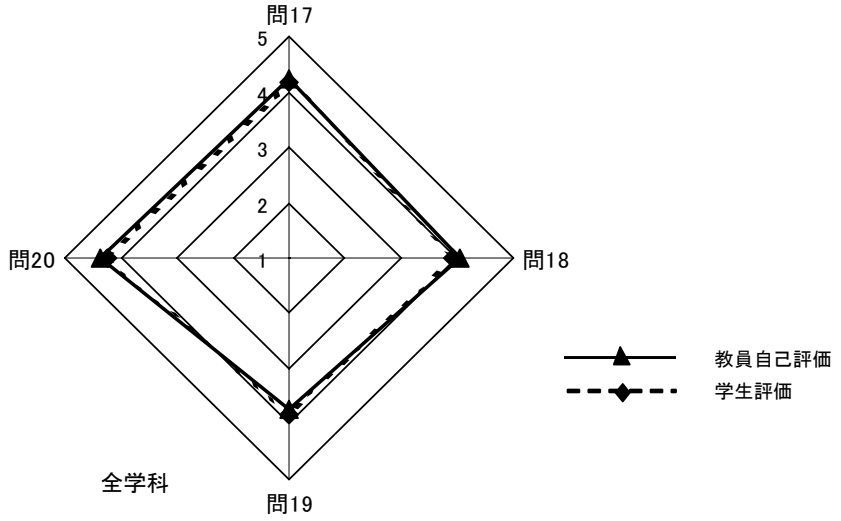


図8.　実技・実習についての結果

6 教員による自己点検評価報告書の結果

学生の授業評価と教員自身の自己評価の結果について教員の意見を、3つの観点（別紙3参照）から自由記述によって報告書を求めた。記述された回答は付表1と付表2に示すとおりであった。同一科目を複数の教員で分担する科目については、すべての担当教員に報告書の提出を求めた。教員からの回収率は98.69%（保育学科：98.36%、ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科：98.91%）であった。この調査の目的のひとつは、教員自身が自らの結果をどのように認知し、次年度の授業に向けて生かしていくのかということであった。そこで、回答された項目のうち「今後の改善点」について内容を6つに分け、その割合を示すと図9の通りであった。

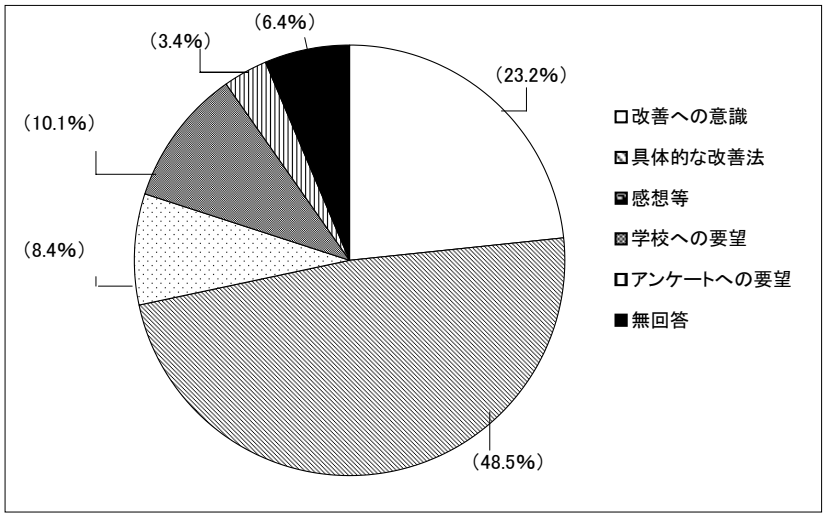


図9　報告書の改善点についての結果

改善点の中でもっとも多く述べられていた内容は「改善点を具体的に明記している」記述であり、全体の 48.5%を占めた。ついで「意識的に改善をしよう」という一般的、抽象的な改善についての記入が 23.2%であった。具体的な改善方法を述べているか述べていないかの違いはあるが、いずれも授業について教員自身が改善しようという意図がはっきりと読み取ることができるものが合わせて 71、7%にものぼり、教員がｱﾝｹｰﾄ結果を真摯に受け止め、授業を改善しようとする非常に高い向上心を読み取ることができる。

「改善点を具体的に明記している」記述では、例えば使用するテキストや資料の工夫、補助教材への工夫、板書の仕方、AV 機器の使用などに改善法が述べられているものや、教員の話し方、説明のしかたなど授業方法に関しての改善を述べられているものが多かった。また、科目の性質により改善点は相当多岐にわたっており、実技を伴うものはとくに詳しく記述されていた。その多くの記述から、授業内容が学生によく理解されるためにはどのように授業を進めていけばよいのか、という姿勢を読み取ることができた。

この他の回答は、「受講人数の調整、授業環境の改善」など学校への要望が 10.1%、「ｱﾝｹｰﾄの感想」が 8.4%、「ｱﾝｹｰﾄへの要望」が 3.4%であり、「とくになし」と回答されたものが 6.4%であった。

受講者人数については、学科によって状況が異なっていること、教員によって多いと感じる人数が授業の内容によって異なることなど、単に人数の多少の問題だけではないと思われた。講義、演習、実習、実技などによってそれぞれ条件は異なってくるので、個々それぞれに対応することが求められる。しかしながら、全体的に、「受講者が多すぎる」という指摘は 9 件あり、実技・実習・演習科目がほとんどであり、講義科目では 1 件であった。内訳は、一人の教員が 4 件に該当していること、8 件がﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科の科目であった。また、少なすぎる場合も授業としては成立しにくいという記述も 1 件見られた。

「ｱﾝｹｰﾄへの要望」では、設問内容についての貴重な意見もあり、今後のアンケート作成に役立てていきたい。また、この結果を学生に公開したほうがいいという意見もあったが、ｱﾝｹｰﾄ結果をまとめた報告書は図書館に備えて、学生が閲覧できるようにする予定である。

7 全体的な考察と今後の問題

授業評価の目的は、単に学生からの評価を得るだけにとどまるのではなくて、その評価に基づいて、授業担当者が授業内容や授業方法について考察し、今後の授業改善に役立てることにある。評価―ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ―授業の改善という循環があって初めて授業評価の意味がある。今回の授業評価では、教員自身の自己評価を実施し、さらに学生による授業評価と教員による自己評価の結果から、教員に授業に対する考え方について報告書の提出を求めることによって上記の授業評価の目的を達成しようとした。

教員の自己評価及び報告書のいずれにおいても教員からの回収率は高く、教員の授業への真摯な態度を読み取ることができる。このことは、教員が日常の授業のあり方に関して強い関心をもって臨んでいるひとつの証拠であろうといえる。

さて、個々の結果についてはすでに述べたので、ここでは全体的な結果と問題点をあげることにした。結果の分析では、評価項目を「教員の授業への取り組み」「授業内容」「学生の授業への

意識」「授業環境」「実技・実習」の 5 つのカテゴリに分けて分析し、各カテゴリによって傾向が異なることが示された。5 つのカテゴリ間の傾向と学科による違いについてみるために、学生評価と教員自己評価の平均値を学科ごとに示したのが表 10 である。

表 10　学生評価と教員評価の学科別平均

	保育学科		ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科	
	学生評価	教員自己評価	学生評価	教員自己評価
教員の授業への取り組み	3.99	4.29	4.14	4.34
授業内容	3.91	3.89	4.10	4.06
学生の意識	3.90	3.77	4.04	3.89
授業環境	4.03	3.48	4.19	4.01
実技・実習	3.84	4.12	4.46	4.01

「教員の授業への取り組み」については、学生の授業評価が教員の自己評価を下回っていた。この結果は、教員はいろいろと創意工夫をして、教員自身は非常に高い意識をもって授業に臨んでいるといえるが、学生には教員が自己評価するほどには高く評価されていないことを示している。実際、教員の授業への努力を学生たちに伝えるにことはなかなか困難なことである。学生と教員の結果の不一致はどこに原因があるのだろうか。授業や学習への認識が教員と学生に隔たりがあるのかもしれないし、また学生の授業や学習への動機づけが内発的に動機づけられたものではなく、強制的に授業に出席しているという認識を学生がもっているからかもしれない。しかしながら、今回の調査ではこの原因を探ることはできない。

「学生の授業への意識」に関しては、まったく逆の傾向を示した。教員が感じた以上に学生は熱心に授業に取り組み、授業に満足していたといえる。教員の授業への努力はなかなか学生には伝わらなかったが、学生たちは思いの外満足感を感じていたといえる。しかしながら、教員としての授業努力を学生が理解するには、より一層の授業への努力が求められるといえる。

また、「授業内容」については学生と教員の意識に不一致はみられなかった。

これらを総合的に考えると、シラバスに示された内容や難易度などの授業内容というよりも、授業内容の伝達の方法、教員の授業ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽに関わる問題が重要であることが指摘される。教員の知識や伝達内容に関してはとても深いものがあると考えられるので、それらをいかにして学生に伝達するかという方法に更なる努力が求められるといえよう。まさに、伝達のﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽが大切なのかもしれない。従来からの講義一辺倒だけでは学生の目や耳を開かせることはできないのだろうか？　教育機器に頼ることだけが、適切な教授方法であるともいえない。科目の性質にもよるが、よく考えて教員の話を聴いて自分の知識とするという、従来型の授業には現代の学生は苦手なのかもしれない。しかしながら、自分の耳で人の話を聴くという態度を身につけることも大切だとも思われる。このようなことに関しては、教育方法についての各教員の意見が分かれるところであろうと思われる。

表 10 からは、上記の 3 つのカテゴリの平均値を比較することができる。学生評価も教員の自己評価にも共通して「教員の授業への取り組み」の平均値が最も高く、ついで「授業内容」「学生の

授業への意識」の順に低くなっている。このことは学生においても授業への意識の高さよりも教員の授業へ取り組みの熱心さを認めていることを表すものであるといえる。

さらに、「授業への取り組み」と「学生の意識」の得点間の差異についてみると、保育学科とﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科のいずれにおいても、学生評価におけるよりも教員自己評価におけるほうが、両者の差異は大きく（保育学科：学生　0.09、教員　0.48、ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科：学生　0.10、教員　0.45）、「授業への取り組み」が「学生の意識」よりも高得点であった。この結果は、「教員としては一生懸命授業に取り組んでいるが、学生の授業への意欲が感じられない」という意識が教員により強いことを表しているといえる。このような、授業への意識の不一致は教員に求めた報告書においても、「一生懸命に授業した」「熱意をこめて話した」・・・というコメント（付表１，２）が数多くあることからもうかがい知ることができる。

次に、保育学科とﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科の２つの学科の得点に若干の差異が見られることが表 10 から示される。学生評価と教員の自己評価のいずれにおいても、ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科が保育学科よりも平均値が高かった。この２つの学科の評価の違いをうみ出す原因は、ｶﾘｷｭﾗﾑの性質の違いと受講者数にあるのではないかと考えられる。

ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科と保育学科のｶﾘｷｭﾗﾑは本質的に異なっている。ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科では、科目の履修が基本的には自発的であり、必修科目の拘束性は保育学科に比べてはるかに低く、自由度は非常に高いといえる。他方、保育学科ではほとんどの学生が幼稚園教諭２種免許状と保育士資格の両方を取得するので、資格取得のために定められた科目が多く、ほとんどが必修科目という特色がある。この両学科のｶﾘｷｭﾗﾑの違いは、学生評価の平均が総じてﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科の方が保育学科よりも高いことの一因であるとも考えられる。即ち、ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲ総合学科では、自ら選択した授業を受講する機会が多く、保育学科では、必修であるから受講するという、学生の授業への動機づけの違いが影響しているのではないかと考えられる。ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科のｶﾘｷｭﾗﾑの特色がもたらした積極的な結果だといえる。

また、２学科に違いを産み出すもう一つの要因は１授業あたりの受講者数の違いにもあるといえる。表１からも分かるように、保育学科の１授業あたりの受講者数はﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科より上回っており、平均して保育学科ではﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科の約 1.7 倍の受講人数で授業が実施されている。このことは、他大学に比べると保育学科であっても多い人数とはいえないが、ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科ではそれよりもさらに少ない人数で授業が実施されているので、授業内容も伝わりやすく、教員が個々の学生の要求にも応えられることは容易であるという利点が生かされた結果であるといえる。

教員に求めた自由記述による報告書からは、その回収率の高さと自由記述の量の多さと内容の豊富さは、教員が前向きに授業評価の結果を捕らえていることを示すものである。今回授業評価を実施して、総じて教員側に授業に対する熱心な態度が客観的に示されたことは大きな収穫であったと思われる。しかしながら、このような財産が学生たちの気持ちを揺さぶり、熱い気持ちで授業への取り組みができるようになり、学生たちのその姿勢が教員に伝わってきてこそ、真の授業といえるのではないだろうか。各教員がそれぞれの授業で更に創意・工夫することが求められる。

今回の結果を各教員が、来年度の授業構築に際して、積極的に利用されることを期待している。

付表1　教員による自己点検評価報告書（保育学科）

科目名	担当者	学生による授業評価調査の集計結果について	教員による自己点検評価から見た集計結果につい	今後の改善点について
子ども文化	淡路	回答の4，5が多いものの、1，2で14%の結果が出ている。多人数のクラス授業は問題点が多い。	準備など工夫して授業に臨んだが、設備面で適切でない要素があった（白板が小さすぎる）。	大きな声で聞き取りやすいように話してきたつもりだが、教室の大きさと学生数にはマイクが必要だった。「音楽」なのでマイクはふさわしくないが、改善したい。
子どもの音楽	淡路	ほぼ予想通りの評価だった。	複数で担当する教科なので、声の大きさ、聞き取りやすさなどについては、学生が回答しにくいと思った。	授業内容の理解・板書の項目で、1．そうは思わない　の回答が（たぶん1名）あった。善処したい。
子どもの音楽	島長	この授業は特に後期に大きな行事を控え、また5時間目ということもあり、授業を進めるにあたり厳しい状況でもありましたが、全体的には学生は、この授業に何らかの満足感をもってくれたのではないかと思います。問8の質問については、前期も書かせて頂いたのですが、授業の形態が一般の講義科目と少し異なるので、答えにくい面もあるように思いました。	問10、11では、教員側にその意欲は充分あるものの、前述の通り、大きな行事をやり遂げるために、一時的に個々の学生への対応が結果的に不十分なものになったのではないかという自己反省も含めた結果かと思います。	バラエティに富んだ授業の中で、将来保育者として必要なこと、また参考になることを的確に指導し、かつ充実感を与えるべく今後とも努力していきたいと思います。
子どもの美術	木村			板書をていねいにしなくてはと思う。
くらしと環境	藤田	前任者のシラバスに基づいての授業だったので内容的に若干の無理があったように思う。しかし学生の評価は予想以上。	学生に対する講義内容とその理解力の把握が不十分であった。問11にみられるように当方の意気込みが空回りした感がある。回答数25名であるため1名の講義に対する受け取り方、考え方が今後の集計の問題となろう。	他人のシラバスにあわせて講義する難しさを痛感した。学生には講義初日に十分了解はえてはいるが、後期も担当致します「総合演習」（2年次）にこの結果を生かします。
日本国憲法	沼口	板書の仕方がややまずかったようだ（問8）。内容を良く理解させる点で少し問題があった（問13）。授業により新しい知識や考え方、必要な技能を習得し、授業内容に対する関心を高める点でも問題があった（問14）。	全体として日本国憲法をわかりやすく理解させ、これからの憲法改正論議の準備作業を学生にやってもらうために暗記させることより、考えさせる方向での講義をめざしたつもりだが、問13，14にあるようにかえって不消化に終わった様だ。	板書はもっときれいに大きく書くように心がける必要がある（問8）。長く説明せず、短く簡潔に説明する必要がある（問13、14）。
英語（英会話A）	伊藤	2つのクラスの内1つは本当にやりにくいクラスだったので問12～14の回答はもっと悪いとおもっていたので少し意外でした（もっとも決して良い結果とは言えませんが）。	問15に関して2をつけたのは「会話」の授業で講義用大教室のレイアウトはやりにくいものがあったからです。また会話の授業では学生同士喋らさなければならず人数が多いとどうしてもうるさくなり教室管理が困難でした。	英語が好きでない学生にどうすれば少しでも好きになってもらえるか考えるのですが、うまくいきません。「英会話」はあくまで選択制にし、全員が「英語」の授業が必要なら英語の絵本や英語圏の子供番組を教材にできる総合英語的な授業の方がいい。ただ、少人数制になるのなら会話でも大丈夫。いずれにしてもﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝのあまり高くない学生が「会話」の授業を受けるのは担当者にとってはかなりの負担になります。
英語（英会話B）	モールデン	The students did not think the course was interesting. They thought it was boring and difficult to understand. They thought I followed the syllabus well and controlled the class well.	My own scores(self rating) were higher than the student's ratings of course and my teaching.	I need to speak more loudly and clearly during class. I need to write more neatly on the whiteboard and use more prints. I need to make the activities in the textbook more interesting. I need to be more patient and gentle.
英語（英会話B）	モールデン	The lowest score was for #8, my writing on the blackboard. Items #2 and #13 were low.	My ″Self ratings″ wrere mostly higher than the ″students rating″ (except #5, #12-16).	I will use more prints, write more neatly　onthe board. I will use more time　to explane　points in the textbook.
英語（英会話B）	伊藤	総合的に見た満足度が、自己評価より学生による評価のほうが高かったことが嬉しいが意外でもある。	声の大きさや丁寧な説明、授業への準備など、自分では最善を尽くしたつもりであったが、いずれも学生評価が下回ってしまったことが残念に思われる。	来年度は担当しないので自分の今後の改善点にはならないかもしれないが、もし今後も「英語」を「英会話」という形態で行わなければならないのなら、ある程度のレベル分けをしてもう少しクラスあたりの人数を少なくするか、選択性にしたほうが、効果が上がると思います。
英語Ⅱ（ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ）	伊藤	授業の難易度のﾚﾍﾞﾙ、及び進行速度に関して他の項目より学生評価が低かったのは意外であった。	少人数のクラスなので学生は比較的意欲を持って予習等に取り組んでいるが、少人数であるため多少予習に負担がかかっていたかもしれない。テキストは勉学に取り組むのに内容や難易度のﾚﾍﾞﾙに関しては適切な教材であると思う。	今後個々の学生により一層目配りしつつ、授業がマンネリ化しないよう、創意工夫をこらして授業内容に変化を持たせ、充実したものにしていきたい。
英語Ⅱ	伊藤	大体において学生側と教師側に、極端な評価の違い（問11を除く）はないように思う。	授業態度に関しては、少人数のクラスであったので、騒がしくなるということはなかった。	板書にもう少し工夫が必要だと思う。
スポーツⅠ	黒石	水泳は女性から敬遠される種目にかかわらず4．3と高いのにはおどろいている。もっとも回答数が3分の1であったので必ずしもこの通りとはいえない。授業の難易度、課題量、取り組み時間等項目に低い点が見られるのは、平泳ぎ、クロール、背泳ぎ、バタフライがかなりのハードルになっていると考えられる。	授業の難易度に学生の抵抗があるようである。実技種目の場合学生の得手、不得手に差異があり、両者を満足する課題の与え方が今後の課題と考えられる。	泳ぐという実技面（単位取得）にとらわれている側面は否定しがたい事実であるが、水泳を通して健康・体力づくりの意義を理解させ、生涯スポーツへの取り組みについて考えさせることが大切であると思われる。
スポーツⅠ	鎗	有効回答数が総受講生の半数以下だが、よい評価がえられたと思う。	自己評価で5をつけた問10の内、授業の進行速度の問に学生との評価の違いがあった。	課題の量や取り組む時間について十分余裕を持たせたい。
スポーツⅡ	黒石	予想していた評価とほぼ同程度の内容であると思う。授業内容はかなり難易度の高い内容にもかかわらず、よくがんばってくれていると思う。	評価は、4程度ではないかと思っていたが、配布資料が学生の理解力を助けたのではないかと考えている。	授業内容が理論中心のため、学生にとっては、難しい側面があるが、学生の実習等の経験を授業内容に反映させるべき努力が必要であると思う。
スポーツⅡ	鎗	学生の評価の平均が、4以上有り、5も全体の50%以上あって、良かったと思う。	学生評価と自己評価の差があまりなく、良かったと思う。	実技・実習科目のみの解答欄の評価を上げるため、今後努めていきたい。
情報基礎	渡邉	妥当な点が多いと思います（もう少し細かい項目があればいいかもしれません	大体予想通りであったが、低い評価はさらに高めていく必要があると思います。	授業内容（形態）によって質問内容を変えた方が良いのではないでしょうか？

保育者基礎演習A	工藤 近藤	教員の授業のねらいや取り組み姿勢が概ね評価されていると思われる。(工藤)　初めての授業内容だったので手探り状態ですすめていた割には、学生は興味をもってくれたと思いました。しかし、よく理解できていない学生もいる状況は今後の課題です。ただ、ｸﾗｽによって授業への参加の熱意に大きな差異があったように思いますが、その違いがデータから読み取れないのが残念です。(近藤)	授業評価の高さと学生の実際の理解度(試験結果等)が必ずしも一致しないことに注意しながら授業を改善したい。(工藤)　自分なりに努力をし、工夫したつもりですが、まだまだ改善の余地はあります。机を動かすことが多いので、教室の設備の点でやりにくいところは多々ありました。(近藤)	前半と後半で担当者がかわるので、学生の評価がどの程度影響されているのかがわからない。(工藤) 内容をもっと磨き、さまざまな授業方法を試みてみたい。授業に工夫が必要と思いました。(近藤)
保育者基礎演習A	近藤	2人の担当者の平均なので正確な数字なわかりませんが、今年度初めての授業であり、これまでの授業にはないスタイルで授業を進めたので、授業への取り組みは自分としては努力したつもりです。学生たちも思いのほか理解していたように思います。	授業のﾚﾍﾞﾙや速度という授業内容に関した項目については学生からの授業評価のほうが自己評価よりも高く、また、満足度の高かったと思います。平均が4以上あるので、授業の目的はほぼ伝わったと思います。	授業の目的が学生に伝わったとしても、授業においては理解しているが、日常の学生の行動にこれが反映されてこそ初めて授業の意味があると思われるので、この点を今後どのようにすればいいのかが大切なことと思いました。
保育者基礎演習A	工藤	学生は教員が思っている以上に自分は熱心に授業に参加したと思っているようである。この教員との評価の差が、今後の問題点だとオまわれる。	概ね教員の評価通り学生も評価してくれ満足行く結果であった。	学生がこちらの狙い通りのスキルを獲得してくれたかどうかは、授業の満足度だけでは図ることができないが、少なくとも、授業に不平や不満が無く、楽しく授業に出席しているかどうかは、学生生活における重要な要素なので、次年度も頑張りたい。
保育者基礎演習B	淡路 石村	概ね4，5と回答している。7，8割方授業に満足している(問16)。(淡路)　今年度はじめて導入した授業であるが、学生は総じて真面目に取り組んでくれた。評価は比較的良好な結果であった。特に当方の熱意が学生に伝わった事は嬉しい。(問9)(石村)	教員が5と評価したが学生の評価が低いのは、学生の私語(少人数)が原因であろう。(淡路)　自己評価が学生評価を上回るのは自己評価を高くつけすぎたため(問1，2，4，5，9，11)。しかし授業は毎回全力投球なので学生評価を自己評価に近づくように努力したい。(石村)	授業への取り組みについては約80%は興味を持って取り組んでくれているが、興味を持てない者が約9%も存在する(問12)。興味を持てない理由がどのようなところにあるかを今後の課題としてより満足度の高い授業をめざしたい。(石村) 授業態度の悪い学生にかなり苦慮し、対処したが、真面目な学生は教員にもっと期待していると思うので工夫したい。(淡路)
保育者基礎演習B	石村	学生評価の4と5の占める割合が67.8%を占めており、1と2の占める割合が10.4%であることから、この授業への満足度は比較的高いと評価される。しかし、3にあたる「どちらともいえない」の評価が30%を超える問3のシラバスとの関係、問7のテキストやプリントの使い方、問13の授業内容への理解などについては、大いに反省点としなければならない。	学生評価が自己評価を下回った項目は、問4の授業の準備、問9の授業への熱意、問11の静かな環境づくり、問14の授業内容への関心で、自身は全力投球したつもりであったが、不十分であることがわかった。	保育学科の専任4名が1／4期ずつのオムニバスで担当した本年度初めての授業科目である。Bは学生のコミュニケーション能力を高めるための自己表現力を、"身体表現"、"マナーの面"からアプローチしたものであったが、学生の関心を高め、意欲的に取り組ませるためには一層の工夫が必要であることが示唆された。
保育者基礎演習B	淡路	学生からは想以上に良い評価を得た項目があった。	開講初年度の科目で、難易度、授業内容について、不安があったが、学生はほぼ満足している評価であった。	実技を伴うので、態度の悪い学生、やる気のない学生の対処に追われた授業もあった。教室、授業隊形など工夫したい。
言葉と表現Ⅰ	工藤	教員の授業に対する取り組み姿勢、理解してもらいたい内容などが概ね伝っている結果となった。	教員としては常に授業に対して「熱意を込めて真剣に行う(問9)」べきであると思うし、そうしてきた自負がある。しかし100%その思いが伝わっていないのは残念である。当然ともいえるが限界という考え方もある。「真剣に授業に臨んだ学生」か「いい加減に参加した学生」かからの評価であるのかという問題は消えない。その見極めは難しい。	学生のアンケート結果を照らし合わせながら常に向上を心がけることが益々求められるだろう。
言葉と表現Ⅱ	工藤	学生評価が極めて高く、嬉しい反面、逆に信憑性を疑ってしまう。いろいろな評価があってこそ改善点も見えてくるのであるが。	概ね評価が一致し嬉しいが、プリントや視覚教材などほとんど使用しない授業であるにもかかわらず、高い評価をいただいたいるが、どの部分が評価されたのか、担当者本人としても、よくわからない。	授業難易度は十分考慮して授業を組み立てているつもりであるが、やはり少しのズレは存在する。その部分をどのように埋めていくかが、今後の課題である。
音楽Ⅰ	淡路 向山	ほとんどの学生が5に近い評価をしていた。ピアノは個人差があるので、難易度のﾚﾍﾞﾙについて15.8%の学生は難しいと考えているようだ。(淡路) これだけでは何組の結果かわかりませんが、ほぼ大半の学生が満足しているように見受けられます。(向山)	学生もこちらの熱意を感じとってくれているようだ(問1，2，9)。(淡路)　この授業は9名の教員で担当しているため、9名の平均と思われますが、全員の教員が熱心に授業に取り組んでいたと思う。(向山)	実技科目であるので問17～20の結果を踏まえて後期課題、進行について考えたい。(淡路) 個人差が大きくでる科目なのでそれぞれのﾚﾍﾞﾙに応じた授業を心がけ、少しでも教員と学生間の意識の差をうめていけたらと思う。(向山)
音楽Ⅰ	大村 向山	学生評価の2に集中する質問については難易度のﾚﾍﾞﾙが高いと思われていると感じた。しかし、問14では5の評価が多いことから、ﾚﾍﾞﾙを変更するよりは各学生の能力別に対応すべきと考えられる。(大村)　大半の学生が真面目に取り組み、理解し、満足しているようだ。(向山)	教員の立場としては全力で授業に取り組んできた方向はそれでいいと思うが、よりきめ細かな柔軟な対応を個別に行うべきだと考えた。(大村)　9名の教員が概ね熱心に真剣に授業を行ったと思われる。(向山)	音楽Ⅰは実技指導であるので、問8は必要ないと思われる。(大村) 個人差が大きくでる科目なので、それぞれのﾚﾍﾞﾙに応じた授業を心がけ、少しでも教員と学生の意識の差を埋めていけたらと思う。(向山)
音楽Ⅰ	淡路　阿部	4，5の回答が80%を越え、満足しているかという項目でも5が50%近い。全体的に学生の評価は高い。(淡路)　3の回答が少なくないので、学生がどのように感じているのかを知りたい。(阿部)	教員の熱意は学生に伝わっていると思う。(淡路) 問17に関して8割以上の学生が4，5なので、方向性はそのままで、自分の実技の向上にも努め、さらによりよい指導ができるようにと思う。(阿部)	入学時の学生の差(ピアノ実技)をよりいっそう改善できるように考えたい。(淡路) 全体的には良い方向で授業が進んでいるととらえられるが、少数でも授業に不満を持っている学生がいる点については、これから少しでも工夫して改善していかなければならないと考えている。(阿部)
音楽Ⅰ	大森 島長	ほぼすべての項目で授業内容を理解し、技能や実技の向上に役立ったと考えて良い(大森)。　学生の結果を見ていると「課題が多い」「たいへんだ」「いろいろと忙しいのにピアノばっかりできない」という声が聞こえてきそうです。しかし2年間で現場で通用する力をつけるためにはまだまだ充分とはいえず、これからも努力したい。(島長)	学生の音楽に対する姿勢が前向きと感じ、嬉しく思う。課題の量や時間については検討しなければならない。(大森)　教員は3、学生は2という傾向にあるが、問16では双方似通っているのが目にとまりました。短期間での技術の習得に向けて教員も工夫・熱意をもって臨みたいと思います。(島長)	学生の技術が向上するよう、また、就職後に困らないよう課題や時間を検討する。学生にもその必要性を理解できるようにｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを取りながら授業を進める。(大森) 問8の板書についての項目は実技科目なのでとまどったと思われます。いつも前に進んでいるつもりでもこういう機会に一度立ち止まって考慮し、それがまた違った意味での前進になるようこれからも努めていきたいと思います。(島長)
音楽Ⅰ	淡路	どの項目も5そう思う　の項目がほぼ80%の良い評価を受けたと思う。	ピアノは学生の進度がまちまちなので、レベルや満足度の項目で教員評価は低かったが、学生は満足している結果が出たので、驚いた。	一年生のピアノ実技課題を再検討し、一層の実力アップを計りたい。

音楽Ⅰ	増谷	全体の質問に対して「そう思う」と答えた学生が多かった。その結果はとても嬉しいことだと思う。	授業の進行速度が適切であったという部分では、自己評価より学生評価が上まわっているので、こちらが不安に思っていたことが学生にはよく伝わっていたようで安心しました。	音楽が嫌いにならないように楽しみながら内容の濃い授業にしていきたい。
音楽Ⅰ	杉田	学生評価の平均値が問8を除き4以上である点に関して授業は全体的に良かったように思う。ただ音楽Ⅰの場合、通常は半分が声楽、半分がピアノに分かれている上、ピアノは担当が複数なので、他の科目よりも学生は評価がしにくいと思われるし、自分自身、結果を受け止めにくい。	20問のうち3問しか5がつけられなかった点は反省すべきだ。問8について、板書はないので仕方がない（評価3）。全体的に学生評価より上まわっているのは、自己満足で終っている点があったのかもしれないので、学生の立場にも立ちながら、もう一度考え直して授業にいどみたい。	保育学科は数年前に比べ、学生数が増えているにも関わらず、授業の部屋、学生の練習室は増えていない。まして、工事のため、北条校舎との往復に不便も出ている。限られた場所、時間の中で、とりわけ進度の遅い学生にいかに対応していくか問題である。学生評価で1や2をついえる学生が一人も居ないようにしなければならない。
音楽Ⅰ	石井	こちらが思っている程に、学生に伝わっていない。熱心に授業を行ったとしても、全員の生徒がそれに気づいてくれないし、ほんの一部理解しているようでは問題が残る。	授業を与える教員側は、それが正しいと思い、生徒に教えているので、生徒が不満に思わなければ、成り立っていくと思う。しかし、与えているだけでは、何の成果もなく、お互いに進んでいくことが出来るような授業が目的とされる。	この授業は先生1人に対して、生徒3～4人なので、生徒とは密接にできる授業だと思う。しかし、入学してすぐの一年生に対し、ましてピアノの初心者は時間がかかる。その面は課題もとても多いので、考えるべきである。2年間という短い学生生活の中で、保育士に育てるのは、とても難しく、今のニーズに（親や上司）対応できる、保育士までに育てるには、とても大変なことだ。学生にも認識してもらいたい。
音楽Ⅰ	早川	学生の授業に対する熱意が教員が思っている以上に高かったと思う。	教員の自己採点がひかえ目すぎるのではないかと思う。	学生の熱意に答えるように教員も自信を持って授業を行う必要があると思います。
音楽Ⅰ	多田	すべてにおいて「どちらかといえばそう思う」というあたりさわりのない回答ばかりだと思う。	実技の取り組む時間は充分にはなかったと思うが（実習など）、学生は充分あったと答えている。しかし実技テストの結果からみると時間はあるが課題に充分に取り組めていない。	教員だけでなく、この違いを教員と学生にしっかり見せていかないといけないと思う。
音楽Ⅰ	中谷	音楽Ⅰは、実技課題中心の科目故、問8の設問には少々疑問を抱きますが、音楽Ⅰの学生は入学して初めての学年であったために、活気があり、意欲に満ちている者が多く、集計結果もそれを現していると感じます。	学生の評価に比して、教員による自己点検結果は辛い点数を与えたようである。しかし問19などはこちら側の正直な気持ちである。学生達のレッスンから感じることは、アルバイト等で十分な練習が出来ていないのに平気でレッスンに来ている＜甘え＞を感じます。	今後は2年という短い期間で就職、それも幼児教育に入っていく学生が多いということを我々教える側も学生ももっと意識しなくてはならないと思います。
音楽Ⅰ	中谷　大村	学生の評価は意外にも、ほぼどの質問に対しても、ほぼ目標に到達しているように集計結果は出ている。教師側の立場から見ると、技術や実技の向上には、個人差が大きく表れていたように感じていた。まだまだ不十分な到達度な学生は自覚が足りないのかもしれない。	学生が熱心に授業に取り組んでいると評価する教員はさほど多くなくても、学生は自身が熱心に取り組むと評価している。教員の熱意と学生との間にはある意味「温度差」ともいうすれ違いが、生じているのかもしれない。	音楽Ⅰの授業計画と目標に到達することに焦点をしぼらずに学生の技術向上に役立つように柔軟に対応し、確実に技術を見につけられるよう留意すべきだと思う。個人の能力を正しく見極めて適切な指導を心がけるべきであるといえる。
音楽Ⅰ	吉岡	全体的にそれぞれの学生が授業内容を理解し、目標に向かって課題をこなし、技術や表現を身につけられたように感じた。	学生にとっての練習時間や研究時間が授業中だけでなく、日常生活にも及ぶため、こちらが必要だと考える技術や表現と、学生の向上心との差が表れている部分もあった。	各学生に適した課題選びと進め方、技術にあわせた指導法をこまめに研究すべきだと思う。
音楽Ⅰ	松本	集計結果をみて、学生が授業に対する思い、理解度など、改善していくべき問題が把握できた。	学生が授業に対しての知識、考え方など関心を高めるということがあまりできていない。また学生の質問や発言の適切な対応が大切である。	学生の質問や発言に適切に対応し、学生により良い知識・考え方・技能の習得、授業への関心を高められるような授業の取り組みをする。課題に取り組む時間の配慮を考え、学生が意欲、やる気が持てるような環境作りを大切にし、授業を進めていく。
音楽Ⅱ	村田 大村	ﾋﾟｱﾉの個人ﾚｯｽﾝと声楽のｸﾞﾙｰﾌﾟﾚｯｽﾝという形の授業であるため、どの教員への回答かが不明である。しかし、平均値が4.0という結果から学生がこの授業の必要性を感じ、毎週の成長を実感できたのではないかと思う。（村田） 2の評価の集中する項目は難易度が高いと思われているように感じた。しかし問14では5の評価が多いことから、各学生の能力に合わせて柔軟に個別に対応することでﾚﾍﾞﾙの問題は解決できると考えられる（大村）。	難易度のﾚﾍﾞﾙ（問5）、課題の量（問18）、課題に取り組む時間（問19）に学生評価との差異がある。特に問5，18は学生のﾚﾍﾞﾙｱｯﾌﾟを目的としたもので他校との競争に負けないためにも落とすわけには行かない。問19についてはやむをえない結果である。また、問8についてほとんど板書がないので学生の72%が3をつけた意味がわからない。（村田） 各学生に対して、万全に準備をして授業にとりくんできたつもりだが、低い評価の項目について改善したい。（大村）	授業の熱意がさらに伝わるように努力したい（問9）しかしながら、学生の満足度について（問16）80%の学生が4または5の評価をつけたことに自信をもって授業を続けていきたいと思う。（村田） 問8は必要ないと思う。（大村）
音楽Ⅱ	兼 木谷	3がもっとも多いことからして学生があまり授業に興味を示していない印象を受ける。授業への教員の熱意、実技指導、学生からの質問に対する適切な対応などの評価が高かったことは望ましいことである。（兼） 課題の量とそれに取り組む時間に対して大変さを感じていることがわかる。実技授業であるため、課題をこなすのには時間外の取り組みが必要です。ただ、授業内容が技術の向上に役立ったかという問いには高い値がでており、大変でありながらも充実感を感じているように思います（木谷）	すべての質問において、学生評価よりも上回っていることが目立つ。教員と学生の間に温度差があるように感じられる。（兼） すべての問において教員の自己評価が学生の評価よりも高く、特に差の大きいものは謙虚に受け止めなければならないと思います。しかし学生一人一人の普段の授業への取り組む姿勢もまちまちであるため、授業全体としてどう評価するかということは難しい面もあります（木谷）。	学生は授業での課題の量やそれに取り組む時間の確保などに不満を感じているが、同じ質問に対し教員の問いに比べると良い評価ではないことから見て、課題について検討する必要があるように思う。その上、「授業の内容をよく理解している」や「授業に対する関心が高かった」の評価があまり良いものではないので残念である。（兼） 学生が授業を受けてどう思ったかがはっきりと数字で表されたのでその結果を踏まえて今後の授業に生かしていきたいと思います。（木谷）
音楽Ⅱ	吉岡 角野	全体的には学生自身授業内容を理解し、意欲的に取り組んでいたように感じた。しかし性質上問い8,11は一斉授業用なので集計結果を判断しかねるものもあった（吉岡）。 学生評価と自己評価に大きなずれがあったのは授業の課題量と取り組む時間についてでした。課題量に対して時間が不足していると感じている学生が多いことが気にかかります（角野）。	こちらが授業を進めることに対して心がけていること、工夫していることは伝わっていると感じた。また、こちらが問題に感じていること（時間、課題）は学生も同じように感じているように思った。（吉岡） 授業に対する準備、工夫、レベル、進行速度など教員自身もｱﾝｹｰﾄで5と答えられないのは少し問題があると思います。（角野）	授業でのﾋﾟｱﾉ実技の時間はしっかり指導する上では十分に時間が与えられているとはいえない。その時間をいかに有効に使うかが重要になる。そのためには授業までに学生が時間外でできる限り準備（練習や理解）ができるよう指導していく必要がある。（吉岡） ﾋﾟｱﾉの上達には毎日の練習の積み重ねが不可欠なので学生が自主的に効率よく勉強できるようにそれぞれの学生のペースも考慮しながら工夫していきたいと思います。（角野）
音楽Ⅱ	杉田 石崎	（ミスにより正しい結果出ていないので回答できません）	特に問18,19では学内平均値が低く、自己評価も低め。卒業後現場でのことを考えると、勢い課題が増えがちです。（石崎）	今後は記入の仕方などよく理解して臨みたい。（杉田） 短時間ですが1対1の授業形態を生かし、意識の差を埋めるべく努力したいと思います。（石崎）

音楽Ⅱ	石崎	学生達からは平均4.14の予想を越えた評価を頂きました。授業に意欲的に取り組んでくれたことが伺えます。	学生評価と自己評価は概ね似通った結果でしたが、課題量と進行速度について評価に大きな隔たりがあり、"時間が不十分"との感想が目立ちました。	卒業後、現場でのことを考えると課題が増えがちです。より効率のよい習得方法を学生達個々に工夫し、授業したいと思います。
音楽Ⅱ	松本	集計結果をみて、学生が授業に対する思い、理解度など、改善していくべき問題が把握できた。	学生1人1人の難易度のレベル、進行速度が集計結果を見て、適切でなかった。学生が授業内容を理解し、技術・実技の向上に役立つように板書が必要である。	学生1人1人のレベルを十分に考え、レベルに合った量の課題をわたせるようにし、課題に取り組む時間の配慮を考え、授業を進めていく。学生が授業内容をより良く理解できるよう、技術・実技の向上に役立つよう板書する。学生が授業に対して、興味・関心が持てるように、必要に応じて、テキストやプリント、視聴覚教材を使う。
音楽Ⅱ	兼	全ての解答が"どちらでもない""どちらかといえば"に集中している所から、学生が授業に対してあまり満足感を得ていないように感じられた。	学生とは逆に、とても良い評価が目立つ。教員の自己満足が多く見られる。	今一度、学生の気持ちを第一に考えた上での指導が必要なのかも知れない。問6.13.19のように、学生、教員ともに意見が一致しているのならば、授業の内容（音楽の場合、入試でピアノ試験を行う等）の改善が必要だと思う。
音楽Ⅱ	中谷	音楽Ⅱの学生は一年生の時の気持ちの新鮮さが失われていると感じるときが少なくありません。それが集計結果に出ていて、ある種の＜情熱の欠如＞が出ているようであるように感じます。	学生が4点を出している問の結果が1つもなく残念である。実習や学内の定期演奏会等、授業以外の要因で集中して、また継続して学習できなかったことも彼らの評価に含まれているのでは？と感じます。	やはり音楽Ⅱは学生達が就職活動、そしてその後の就職に直結するものですから、やる気と工夫を自ら作り出してほしい。そしてその持続も必要だと思います。
音楽Ⅱ	小関	思ったより高いと思います。問8の板書は実技のためほとんどしません。	問16の値が平均でそろっています。もう少しのびる工夫が必要だと思いました。	同左
音楽Ⅱ	増谷	全体的に自己評価より学生評価が下まわっている。少し授業内容に工夫が足りなかったのかもしれない。	教員の結果より学生結果がやや下まわっているには、こちらに問題があるのではないか。授業内容に満足させるには、こちらの工夫が重要視されるように思う。	1人1人の学生に満足してもらうことは、難しいことだが、少しでも達成感の感じてもらえる授業にしていきたい。
音楽Ⅱ	淡路	項目によって学生・教員の評価に差が出た。しかし、4・5の評価の合計は7～80%の高評価だった。	複数の教員で分担するので、評価しにくい項目が多い。	与えられた課題に取り組む時間は、まだ学生に余裕がある、という結果を踏まえ、課題について考えたい。
音楽Ⅱ	多田	あたりさわりのない回答。	アンケートをとる上で学生から「何故こんなことをするのか」という声があった。結局あやふやなままアンケートは始まったが、結果あたりさわりのない、みんな同じ答えになっている。	このアンケート内容を学生にもしっかり把握してもらうため、何故アンケートをとるのか、そして結果も学生にもみせないといけないと思う。
図工Ⅰ	元木	評価に意外にバラツキがあった。どれかにまとまってしまうのではないかと思っていた。	問2，6と3，5の関連、またこの4問の相互関連はあると認められるが、3の反応の違いは不明。	上記2に注意しながら授業を行う。特に問3と問17～20の関連について内容をみる必要あり。
図工Ⅰ	木村	学生がこのアンケートの」内容、意味を理解してくれているなら満足な結果である。		いい学生の入学に心がける。
図工Ⅰ	中路	問6（授業の進行速度）問18（課題の量）問19（とりくむ時間）が平均的以下に、学生の不満もあきらかにでている。もっともだと納得できる。	授業の進行速度をもっとゆったりと急がずに作品制作させるべき。課題の量が多い為進行速度の問題がおこる。要するに、時間が作品においつかない。時間が足りない事に尽きる。	課題の量は適切である→これ以上減らしたら適切な教育はできない。 つまり→時間がたりない→135分授業を180分に戻すのが最低条件。もう一つの方法は学生数を24人から12人にして授業する。これなら135分でもしっかり指導できるはず。
図工Ⅱ	木村	学生と教員との認識に大きなギャップがあるようだ。	特にない。	現行が完璧だとは言えないが、全体的に見て特に問題は感じない。
図工Ⅱ	叶	参考にしたいと思います。	問2は丁寧に説明したいと思います。	参考に改善したいと思います。
図工Ⅱ	元木	意外にバラつきのないものであった。	問3、問5との関連での作品制作の手順の必要性への認識を再確認すること。	安定した採光条件・十分な広さなど条件の良い場で絵を描いたり、作業をしたりすることが、作品の質に関連していることを認知できるようになれば良い。
図工Ⅱ	中路	妥当なところだと思う。	教員として全力を、否、120%以上の気持ちを込めて授業しているが、学生との、設備、環境、そして授業時間の少なさetcのズレから、100%まで、全員を指導するというのは、本当に難しいものである。	落ちこぼれた生徒も、すくい上げられるくらいのゆったりとした授業時間が欲しい。実技授業には、ゆったりとした広い空間が不可欠だと思われる。現代にはコンピュータを使った授業も必要となってきている。絵画、グラフィックス、デザインetcに適切なマッキントッシュのPCetcを設置し、 またそれを使いこなさせるようにさせること。しかし、それを使いこなせるには、アナログ的なイマジネーションが必要。先ず見る→考える→感じ取る→イメージする→創る。
幼児体育Ⅰ	黒石	授業の難易度、課題の量、課題に取り組む時間について学生評価が少しさがっているが、全体の平均が4.3であるのには驚いている。一般的には鉄棒、跳び箱、マット、縄跳びなどといった個人種目は敬遠されがちであるが、保育学科の特殊性がこの評価につながっていると考えられる。好きな種目ではないが、将来の事を自覚しているものと考えられる。	授業の難易度、課題の量、課題に取り組む時間について考える余地がある。特にﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙでのｵｰﾊﾞｰﾊﾟｽ、ｱﾝﾀﾞｰﾊﾟｽ30回の規定は学生には難しかったと考えられる。鉄棒も学生が苦手とする種目であるが、最低限慣れておく必要がある種目であると考えている。	課題として与えた運動種目群は、少し量が多すぎた嫌いがあるので、今後の課題としては、運動種目群の選定を考えなければいけないと考えている。
幼児体育Ⅱ	舘	学生の評価が、学内平均を上回っていて、いい評価をもらったと思う。	学生評価と自己評価の差があまりなく、良かったと思う。	「そうは思わない」や「どちらかといえば」という1・2の評価の学生がいなくなるよう努力していきたい。

保育者論	山田	学生からの評価は割合に高く、できるだけ分かりやすく、実践事例をたくさん取り入れたので、理解もしやすかったのであろう。	プリントを毎時間用いて具体的な事例等を提示したのだが、統一された様式や形式ではなかったので、学生にすれば見にくかったのではないかと反省している。しかし学生には内容について理解できるプリントであったので、評価が高かったのであろう。	保育者論では理論だけでなく、深く自分を振り返り、理想とする保育者像を見つけ出すことを目的としている。そこでグループディスカッションなどを取り入れているが、慣れていないために話が深まらないことが多かった。もっと理論を踏まえた深い内容の事例を多く取り入れ、きちんと自分と向き合い、思いを出し合えるような授業にしていきたい。
教育原理	今井	多くの項目において、学生が肯定的に評価してくれたことが嬉しい。中でも問2、問12、問15、問16が高い値が出ている。反対に少数ながらも、問8、問11、(問4)に対して否定的な結果が出ているので改善したい。	今回、初めて非常勤講師ということで、授業内容を始め、学生との接し方、学生への注意の仕方、学習環境への設定など、分からないことばかりで、常に反省の毎日だった。自己評価が低いにも関わらず、学生は高い評価をつけてくれたが、学生も考慮してくれてのことだと思う。今後、講師の自己評価と学生の自己評価が一致するよう努力したい。	今回は、授業内容、配布資料の準備及び、授業の進行に苦心した。今後は、学生らの評価、特に「板書」「静かな環境」「授業の工夫」に留意しながら進めていきたい。
保育学原論Ⅰ	山田	授業の難易度、進行速度の点数が低く、教材や板書についても低くなっている。うわさで、この授業は早く進むしむづかしくてよくわからないというのを聞いたことがあるが、学生が実際にそのように感じていることがわかった。幼稚園現場で使用する保育用語や専門用語を解説もなく使ったり、実際こどもに触れてみてわかる事を理論で伝えようとしたことが難しかったようだ。しかし教えるべき事なので、学生のﾚﾍﾞﾙにあった教え方を考え直さなければと思っている。	学生が満足できる授業にはまだまだ至らないと思っているが、学生も満足していないようで点数が低い。保育者になろうとしている学生にとって一番基本である「保育」についての授業なのでこの結果をみて非常に反省している。	学生が理解しやすい言葉でわかりやすく授業を改善していかなくてはならないと感じている。改善すべき点は山ほどあるので(教材・プリント・板書等)しっかり見直していきたい。特に、今後努力してﾊﾟﾜｰﾎﾟｲﾝﾄなども導入し、よりわかりやすい授業を目指したい。
保育学原論Ⅱ	山田	学生からの評価は予想外に高かった。しかし、難易度のレベルが適切ではなかったようで、学生には少し難しかったようである。保育の歴史や現状、課題など保育現場で働くためには非常に重要な内容で、国の施策なども知る必要があり、表現も難しいのだと思う。	板書や教材については、もっと工夫をしなければならないと感じているが、学生の評価は割合高かったので少し驚いた。	もっと、楽しく分かりやすい授業、学びがいのある授業を目指して、視聴覚教材を充実させたり、学生が難しいと思っている内容を分かりやすい言葉で教授したりする必要があると考えている。
教育心理学	倉戸	予測していましたが、学生からの評価の平均はあまり高くありません。この点についてはとくに申し上げることはありません。一部の態度に問題のある学生に対応しきれず、講義そのものへの配慮が十分できていなかったことも考えられます。	とくにありません	とくにありません
発達心理学	近藤	授業内容が難しかったのかとびっくりしています(問5)。これまでよりも授業のﾍﾟｰｽは遅いし、内容もあまり深くははいっていないのですが。ノートの取り方がとても下手というのが実感です。うまくﾉｰﾄをとれないことは理解できていない事ですね。	授業の進みが遅くｼﾗﾊﾞｽ通りにはいかないことが多かった。「発達心理学」は理論的なことが多く、1年前期ではむずかしいことが多かったと思われます。	講義形式の方法でいいのかなと迷っているところです。具体的な改善案を考えていかねばと思っています。
発達心理学Ⅱ	近藤	少人数の授業だったので、学生の発言には、答える余裕がありました(問10)。また、授業内容もいくつか用意し、学生のニーズに合わせるようにしたので、その意味では満足度の程度は高いと思う(問12)。したがって、シラバスの内容とはかけはなれてしまいました(問3)。	北条で授業しましたが、学生達は嫌がることもなく、暑い中4時間目に北条へ来てくれました。箱庭の出来る場所が学園町にほしいと思います。ゆっくりとしたペースで授業ができたと思います。	学生のニーズと私のニーズが、少々ズレてしまい、本当は、もう少し、子どもに関する理解を深めたいのですが、この点を改善していきたいです。
精神保健	碕谷	普段、授業に参加しないような学生が大半かと思われたが、どこで評価していたのか不思議に思った。	学生には難しいと思われる内容であったことは確かです。よって、もっと評価を厳しくするならば、学生が危機感をもって授業に取り組んでもらえるのではないかと考察している。	板書をすること。見やすい授業を心がける。
小児保健	吉田	学内評価を下回る評価であり、学生が興味を持てるような授業を押し進めたい。	自己認識と学生との評価に少し差異があり、学内評価を下回る結果である。自己の思いこみが先走っている。	自己を見つめ直し、学生が楽しく、私語の少ない授業ができるように努力したい。
小児保健	吉田	学内平均評価であり、より一層授業に興味を持てるよう工夫したい。	授業中の活発な意見交換の中では、学生は満足していない点が多くあると思われた。しかし、学生評価においては平均を下回る結果ではなかった。学生が楽しく私語の少ない授業が出来るよう努力したい。	学生評価を参考に授業の進め方を工夫し、わかりやすい授業を心掛けたい。
小児保健実習	吉田	学内評価を上回る学生の評価に感謝している。	概ね学生がよく理解して気持ちよく学んで貰ったと思う。	学生評価の高い部分は継続し、低い評価についてはより一層努力したいと思う。
小児栄養Ⅰ	石村	総合的に見て高い評価を得たとは言いがたい結果であった。平均値が低いのは問6、問11で、授業の進行速度や内容に満足していない学生の多いことが伺えた。	私自身は全力投球のつもりで授業しているので自己評価を高くつけたが、学生の評価は予想以上に低いものであった(問1，2，9，11)真剣に熱意をこめて授業しているつもりであるが、学生に伝わっていないことを反省している。	①ｽﾋﾟｰﾄﾞを落とす。もっとゆっくり話しをするように心がけたい。 ②授業内容が難しく、多すぎるようである。内容を再度検討して量を減らすこと、もっとわかりやすく説明するように心がけたい。
小児栄養Ⅱ	石村	学生評価の4と5の占める割合は66.2%、1と2の占める割合が8.4%であることから、この授業への満足度は比較的高いと評価される。しかし問5の授業の難易度、問6の進行速度、問18の課題の量、問19の課題に要する時間などについての評価は高いとはいえない。今後わかりやすい授業の実践、学生の負担軽減について改善していきたい。	問1の大きな声、問2のわかりやすい説明、問9の授業への熱意は学生評価に比べて自己評価が高過ぎたようである。毎回自分自身は授業には全力投球で臨んでいるつもりであるので、この学生評価との開きの原因を分析し、当方の熱意が伝わるような授業展開を図っていかなければならないと反省している。	今後の改善点は、授業の進行速度、内容の難易度、課題の負担軽減である。授業の質を落とすことなくこれらの点についての満足度が得られるような授業内容の検討をしていきたい。
小児栄養Ⅱ	奥田	学生が多くの課題と難易度の高い内容に、ついていくのに精一杯であったという現状がよく理解できた。そのような状況であっても学生が授業に興味を持ち、内容の理解と、技術、実技の向上に熱心に努力していた事がよくわかった。	多くの内容を、熱意を込めてわかり易く指導する事に努めたが、学生の速さや学生の理解度に合せてチェックしながら進めるという点には不十分であったと反省している。今回の結果を次年度の授業に生かせるようにしたい。	授業の理解度がやや低いため、内容を減らす、進行速度を少し遅くするなどにより、理解度アップに努める。

障害児保育	曽和	学生による授業評価の集計結果の項目の中で、問8の「板書は適切であったと思う」の平均値が他の項目のそれに比べて、最もそのスコアが低いという結果になっています。その理由として、パワーポイントを用いての授業であった関係で、板書が殆どなされなかったことが挙げられると思います。	教員（曽和）による授業の自己点検結果からみて、問13の「学生は授業の内容を良く理解することができたと思う。」という項目について、「どちらかといえばそうは思わない」と自己評価を行いました。かかる自己評価と学生による授業評価とのギャップが大きくなりました。その分析として、毎週の授業というルーティーン・ワークにおいて、授業内容が本当に学生に理解されたか疑問に思ったからです。ある意味で、学生の理解度を過小評価しなかったかという問題点が感じとられるところです。	授業の難易度を問う項目（問5）と授業の理解度を問う項目（問13）とは高い相関関係にあると推測されます。両項目ともに、学生評価の平均値からみれば低いスコアであります。学生に対して、平易な表現に心がけるとともに、専門用語の概念くだきを行うことで、授業の質（内容）を落とさないで学生の理解を得られるように努力していきたいものです。
人権保育	井上	興味、理解、関心といった項目で学生の評価が自己評価を上回っていたことを嬉しく思う。	授業環境の維持等最大限に努力したつもりだったが学生には十分に伝わっていなかったことが残念である。	これまで以上に興味、理解、関心を高めてくれることを望む。
乳児保育	福岡	全体的に評価が高すぎると思う。平均が高いということは学生が授業に満足していることになるのであろうか。 自分の評価が学内平均以下であることは意外で残念。 問9、11については、4と5の評価であり、適切に評価され学生も理解していると思われる。	双方に差があることは学生に授業態度（私語、集中することなど）をきちんと求めるためと思われる。 同じ科目を他校3校で授業し、他校では別の評価（良い）を受ける。学生の気持ちを理解し、学生に理解できる方法を工夫する必要もあると考える。	私の授業はｵｰｿﾄﾞｯｸｽﾀｲﾌﾟと思っている。この様なタイプも必要と思っている。また、他校の学生が受け入れ、良好な反応が本学にも受け入れられると思っている。
乳児保育	福岡	授業評価アンケートを学生達は、3～5分でサラサラと記入する。考えるところ、3又は4を決めて教科ごとに決めている様子。	授業は学生の反応がよく、終わりの頃はよく努力していると思われた。担当者は毎回熱意をもって多幸に比して努力しているが、学生には、甘い優しい教員が評価されていると思われる。	基本的には変わらないが板書を増やそうと思う。
児童福祉	牧野	私が熱意をこめて一方的と思えるような授業であったが、思っていたよりも好意的であった。しかし内容の把握と授業内容への反応は今ひとつであった。	熱意をこめて真面目一方で授業を進めても、1/3の学生には好結果かもしれぬが、2/3の学生にはしんどいかもしれない。ｼﾞｮｰｸや裏話も織り込めていかないとついてきてくれないのではないか。	授業態度の良くない学生をどう傾聴に引き込むか。そこまでゆかなくても静かにしていられる学生の割合を高める努力をする。学籍番号順に初日から座ってもらうようにする。
家族援助論	曽和	授業態度の悪い学生への注意喚起の項目について学生の評価はシビアである。私の力量不足（学生指導上）とも相まって教室の環境（すしづめ教室）の改善も必要ではないかと感じた。	教員による自己点検評価と学生の授業評価とのギャップは顕著でないといえる。2年次だけに1年の半年の間の授業を通してその結果として妥当なところに相互評価がなされたのではないか。	授業内容への関心度を問う項目（問14）のスコア（平均値）がもっとも低くなっている。教員である私自身切磋琢磨して内容の充実のための研究を企画していきたいと考える。
社会福祉	合田	教員と学生が全体的にほぼ同様の評価値になっており、認識等に大きなズレは少ない様に感じた。	授業の難易度及び進行速度について日頃より気になる点である。授業内容は基本・基礎を中心に展開しており、応用的な内容ではない。ただ、教授範囲が広く「社会福祉」の基礎を半期で解説するのは相当困難で短期集中的な説明になる。	厚労省の求める教授内容を伝えるようにするにはかなりの無理がある。しかし、専門家養成の上から専門知識の少ない学生を送り出すわけには行かない。すこしでも、学習効果を高めるためにはﾃｷｽﾄ、資料以外にﾌﾟﾘﾝﾄの活用も取り入れる段階にある様に思われる。
社会福祉援助技術	合田	授業のねらい、目的が十分に伝わっていないことが理解できた。	通年授業で年間を通じての授業の流れがあり、ｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟすることを意図して実施している。しかしながら、学生にはその流れが把握できていない様である。「演習」授業について内容を再考する必要があると感じた。	援助技術の基本的知識を教授してからの授業展開を考えたい基礎を習得することで、目的、ねらいがより明確になると思われる。
社会福祉援助技術	川出	授業中に全生徒にアピールし、注意および配慮ができていたのかと改めて考えさせられる結果でした。	授業内容が少し難しすぎたのかと思っておりましたが、学生は満足してくれていた様でよかったです。	目立ちやすい生徒、目立たない生徒、均等に配慮し、できるだけ多くの学生に質疑応答し、コミュニケーションできるように頑張りたいと思います。
養護原理	曽和	学生による授業評価の集計結果で、全体の平均値を下回っていた項目として、問3の授業計画に即した目標や内容かを問う項目、問5の授業の難易度を問う項目、問6の授業の進行速度の適切さを問う項目、問8の板書の適切さを問う項目、問12の学生の授業への取り組みの熱心度を問う項目、問13の授業内容への理解度を問う項目、問14の授業内容への関心度を問う項目が挙げられます。その中でも、問13、問8、問5といった項目の評価が低いという結果がみられました。	教員（曽和）は、問5及び問13の項目について、自己評価が低いのですが、学生のその集計結果をみても同様の評価であり、マイナス価値という意味での相関関係がやや高いという結果が導かれたと思います。	今後の改善点について、授業内容への理解度を促していくために、より一層授業の平易度を高めていく努力を続けることが大切であると痛感いたしました。そのための方法として、視聴覚教材の適切な使用はもとより、授業への学生の参加を促す学習形態（参加型学習形態）を模索していきたいと思います。
養護内容	合田	学生の評価が16項目中、12項目が教員の自己評価より上回っている結果をみれば、授業が順調にすすんだといえる。しかしながら、教員自身が懸念しているのは、数値が示すように、学生にとり本当の意味で学習効果があったとはいい難い点である。授業形態がが「演習」形態ということもあり、可能な限り学生も自らが問題意識をもち、課題に向けた取り組みを期待するところではあるが、実際には自らが取り組むまでに到達できていないのが現状である。	教員の自己評価が低い項目が16項目中、7項目もあるにも関わらず、学生の評価はその評価と裏腹に高い評価を示している。教員のつけた低い項目内容は、何れも授業内容や技術習得を問う内容で、決して学生が示しているように、それらの項目に多くの学習効果があったとはいえないと考える。	厚生労働省の求める学習内容をそのまま学生に伝えていくには、相当の工夫が必要となる。学生に関心をもたせるための工夫と厚生労働省が求める教授内容とマッチさせるための努力を試行錯誤しながら取り組んでいきたい。
教育課程総論	大方	学生からは予想を上回る評価をいただき総平均が4.21であった。全ての項目において4.0を上回り、学内平均を超えていることは安堵である。しかし4項目において0.3%の学生が1であることは重要な反省点である。ひとりひとりの学生の視点にたった、今後の課題を考察したいと思う。	問1以外の項目において、学生評価が自己評価を上回っていた。問2の丁寧な説明、問5の難易度、問9の熱意、問11の集中できる環境、問15の適切な設備は、自己評価を高くしていたが思いが通じていたことがわかり嬉しく思う。本務校が忙しく十分ではなかったことが自己評価が低くなった理由である。	出席状況において、毎回が32.4%であり、2/3以上が60.6%であることがまず第1の改善点であり、全出席を目標に努力する。ひとりひとりの学生の満足度を大切に、観察の視点を毎回もちたい。到達度を考えていきたいと思う。
保育計画論	曽和	有効回答数が5名であり、少人数での授業ということで、その集計結果についてみれば、バイアスがかかり、ある一定の評価への偏りがみられるといえます。その意味で、正鵠を得るコメントは困難ではないでしょうか。	1において述べた理由により、その分析と問題点を剔出することはきわめて困難ですが、あえて分析すれば、問14の授業への満足度において、学生評価と自己評価との間の齟齬はあまり見受けられないといえます。	シラバスに即した授業内容の展開をより徹底化させていくとともに、授業内容の理解を促すことに努めることで、授業の改善を図っていきたいものです。
保育内容健康	黒石	予想していた評価とほぼ同程度の内容である。やはり学生にとっては難易度の高い内容ではなかったかと反省している。	1年次からの発展的授業のため1年次での理解不足がこのような結果になったと考えられる。	2年次での配布資料が多かったために、説明不足があったのではないかと反省している。今後は資料を精選する必要がある。

保育内容 人間関係	長谷	学生評価全体については、教員から伝えたいポイントが伝わっていて安心した。同時に評価3点台のポイントについては検討するべきだと思った。	アンケート内容のうち、3点が教員の自己評価より低い値だったので、特にこの点に関して次年度に向けて再考する必要があると感じた。	全体にはこちらの伝えたいことは学生には伝わったようだが、授業方法等で再考すべき事もハッキリとした感じである。
保育内容 環境	大方	補講を集中でした後の印象は何とか学生の満足度を例年程度に上げられたかとおもいますが、補講後では正直もっとﾎﾟｲﾝﾄが低いかと思っていました。平均3．94は今回に限り少し安心した点です。5が42.8%も嬉しかったです。	多少のズレはあるが自己評価と学生評価がほぼ一致している。私自身がもう少し頑張れば相互のﾎﾟｲﾝﾄはもっと伸びたであろう。大変残念である。学内平均よりは自己、学生とも高く安心した。授業の進行速度は補講をして追い上げたため、平均した進め方ではなかった。内容は適切なﾚﾍﾞﾙであったようだが、学生自身の自主演習、発表は効果的であった。	とにかく、校務とのﾊﾞﾗﾝｽをとり、補講計画をうまく見通していきたい。例年のように、1回1回を積み重ねることで少なくとも学生のﾎﾟｲﾝﾄは上向きになると思う。
保育内容 言葉	曽和	1年次ということもあり、そもそも授業評価とは何かといったことが充分に理解できているかについてやや疑問に感じる。というのは学生評価の全体の平均値が4.42と一般的に言えば肯定的評価の度合いが高いように感じるから。	単純集計だけでは項目間の動向が充分に把握できないので、ｸﾛｽ集計があればより深く分析できるのではないかと考える。標準偏差を提示すれば、回答のﾊﾞﾗﾂｷ度が見えてくる。それをふまえて自己点検評価からみれば学生評価とｷﾞｬｯﾌﾟがありすぎるのではないか。	2のｷﾞｬｯﾌﾟを埋めるために、日常的によりｷﾒの細かい丁寧な授業実践を展開する努力をしていきたいと思う。
保育内容 表現Ⅰ（音楽）	向山 吉岡	大半の学生がほぼ満足し、授業内容を理解していると思います。ただ、設問の内容を十分理解せずにｱﾝｹｰﾄに答えているのでは・・・と思われるところが多い。（どちらでもない・・が多すぎるのでは）（向山）多くの学生は授業内容を理解し、満足していると思われる。ただ授業の性格上質問の答えが明確にでないため、評価を出す上での学生それぞれの考え方に差がでてしまうのが問題である。（吉岡）	表現Ⅰに対しては不適当な設問もあり、答えにくい部分があった。教員が熱心に真剣に授業を行うのは当然でそのように努力することも当たりまえ。（向山） 授業を進める上でこちらが心くばりした面は伝わっていると感じた。授業内容について評価に差があるのは質問の捕らえ方の違いもあると思うが授業に関するそれぞれの意図が伝わりきってないとも考えられる。（吉岡）	教員と学生間の意識の差が少しでも埋まればよいと思います。（向山） 担当が2人であるために進行速度がうまくいかなかったり、学生全員に目がいきとどかなかったりする。内容が濃い分授業の狙い通りに学生が理解し、実際の現場で役立たせることができるよう、工夫してすすめていかなくてはならない。（吉岡）
保育内容 表現Ⅰ（音楽）	村田 野間	授業の目的として学生の自主性、個性、ｸﾞﾙｰﾌﾟやｸﾗｽ内の協力性やﾘｰﾀﾞｰ性を尊重し、学生主体の授業になるように進めてきたもので、当てはまりにくい項目もあったが、全体的に3という評価が目立つのは少し残念である。（村田）	毎回の授業で”表現する”ということに関してあらゆる取り組みを行ってきたが、こちらが熱心にと理解説明し、十分な内容を提供したと思っている程、学生には伝わっていなかったと思われる。ただ、満足度を表す項目では7割近くの学生が4または5の評価をつけていることから、学生間の協力を要する課題の多い授業であったが、習得できたものも大きかったと理解できる。（村田）	明確な到達点のないこの授業で如何にひとつひとつの取り組みに対して、興味を持たせ、考え方の視野を広げていってもらうか、について授業の進行や与える課題についてもさらなる工夫をしていきたい。（村田）
保育内容 表現Ⅰ（音楽）	淡路 早川	3の回答が多い。5が少ないように思う。（淡路） 学生は積極的に評価することを避けていると思う。それは3と4の回答が多いからである。（早川）	すべての設問において学生評価のほうが下回っているのだが、このｸﾗｽは一部学生の受講態度に問題があり、他の学生への影響も大きかった。しかし、問16において半数以上の学生が満足している、どちらかといえば満足していると回答している。（淡路）教員が評価した授業内容を学生が理解していないように思える。（早川）	ｸﾞﾙｰﾌﾟ授業のｸﾞﾙｰﾌﾟの分け方について工夫したい。（淡路） 教員に授業に対する熱意を学生が理解してくれるように、なお一層の努力したり、話合いが必要である。（早川）
保育内容 表現Ⅰ（音楽）	安部 麹谷	3と答える学生があまりにも多すぎて、この授業評価アンケートの内容と、この授業に対する意見が少し食い違っているのではないかと思う。（阿部） 今後授業を進めていく上で学生の授業に対する取り組みが客観的に把握でき、参考になりました。（麹谷）	教員と学生の間に温度差を感じる。こちらの熱意がつたわってないと思う。特に問14と問20に対してはこの授業が自分にとってプラスになったと感じている学生が半分にも満たない結果に自分自身反省し、後期の授業につなげていきたい。（阿部） 授業を計画通り進めることが時間的に難しい。その事による学生との充分な研究・考察する時間が充分なかったと思います。（麹谷）	これから学生が保育士になるときに授業で勉強し、体験したことがきちんと生かされるよう、授業内容を考えるとともに、この授業に関しては学生の自主性、協調性、技能や知識だけではなく、そういう部分が成長していくように手助けしていきたいと思う。（阿部） 学生も2年間に多くのことを消化していかねばならない中、大変だとは思うが、保育士として現場に出れば音楽的要素はどうしても避けて通れない以上、できるだけ内容、教材に工夫し、指導していきたい。（麹谷）
保育内容 表現Ⅱ（造形）	木村	自分の思いとの誤差が大きい。	設備、環境等の改善についてどうするのか。この評価結果によって改善に向かうのだろうか。	このアンケート用紙について。学生用、教員用、用紙の文言を変えたほうがよい。
保育内容 表現Ⅲ（身体）	谷	何を書くのかよくわからない。質問が適切なのか疑問である。	よくわからない。データ分析の結果どうしたら良いのか提示願いたいものです。	アンケートの数値だけ見ても授業のﾚﾍﾞﾙ（内容）を高度にした方が良いのか、低くしたほうがよいのかよくわからない。実技なので個人差があるため、高度な技能をすでに持っているものにとっての評価と逆の者の評価では答え方に違いがみられるので、具体的に書かせてほしい。また、補講後、テスト後にｱﾝｹｰﾄを行ってもらわないと全体がわからないと」思う。
保育内容総合表現	淡路	ほぼ予想通りの評価だった。	各学生の意識の差が大きく、授業に支障を来たしたと評価したが、学生の評価は5．4の評価が上回り、小安堵した。	授業内容について理解を深めてもらえるよう、ガイダンスも含め善処したい。
保育内容総合表現	吉岡	授業の内容、目標があまり学生に伝わっていないと感じた。授業形態が決められているわけではないので、各授業、各指導への反応や理解がそれぞれ違い、こういった評価のばらつきが出てしまっているように感じる。	“こどもげきじょう”公演という大きな目標があるため、授業自体の目標やねらいをあまり理解することなく、進められがちである。団体授業であるため、こまかいフォロー、確認が適切にできていない。	1つの演目をクラス全体で作り上げていく上で、さまざまな問題にぶちあたったため、本来の目的、目標を見失いがちであると感じた。学生の“気持ち”も大切であるが、授業のねらい、団体の中での考え方など、もう一度学生とともに考えなおし、いかにその目標を理解し、学んでいくかを導いていかなければならない。
保育内容総合表現	向山	1．そうは思わない2．どちらかと言えば…の値が低かったのは評価できると思う。問8は授業の内容上、ほとんど板書しないので設問として不適切である。学生はほぼ満足していると思う。	例年、この授業は、音、図、体の3教科で1つの演目を仕上げ、「こどもげきじょう」に挑んでいたのが、本年は校舎建て替えの関係で、音、体の2教科で受け持った。授業時間数が例年の2／3の中で完成度の高い作品を作り上げていくことは、かなり難しかったと思う。そういう意味では授業の進行速度や難易度のレベルは学生にとっては厳しかったのかもしれない。	この授業は発表の日時が決められているので、その日に向けてクラス全体がいかにまとまっていくかが、学生の満足度に大きく左右するように思う。教員も冷静さを失わず、テンション高く、crescendoの気持ちが必要と思う。
保育内容総合表現	阿部	「どちらでもない」という回答がとても多く、質問の内容が授業内容と一致していないと思う。	授業へ対する熱意は学生に伝わっていた様だが、問14に対して「どちらでもない」と答えている学生が多く、授業を少し改善していかなければいけないのではないかと思う。	「こどもげきじょう」を通して、どのように学生全体に知識や技能を伝えていけるよう、特に実際に保育の現場で役立つよう、授業形態を考えていかなければならない。

保育内容総合表現	大森	授業で課した課題の量や、それに取り組む時間が十分でなかったというところは、今後の授業改善点として考えなければならない。	1. と同様、時間が充分でないと言う点は、大きな問題である。	学生のアイデアを最大限に生かしながら、保育の現場で役立つよう指導し、無駄な時間を使わないように授業計画を立てる。
保育内容総合表現	早川	教員の授業に対する取り組みにはあまり関心がないように思いますが、授業内容については理解するように努力してくれているようです。	教員の熱意があまり理解されていないようで、学生の希望との間で、少し差があるようです。	現在の授業からより丁寧に理解してもらえるように熱心に取り組んでいきたいと思う。
保育内容総合表現	野間	全体的に「どちらでもない」「どちらかといえば」の回答が8～9割なので、ほとんどの学生は授業に対して不満をもっていたわけではないことが分かった。	1の回答に反するかもしれないが、教員の自己評価に比べ、学生の評価が低いことが全体的に見受けられる。特に、問16の評価が低いことが目立っている。	総合的にみて満足できるような授業内容を考えなければならない。今年は美術面も見なければいけないこともあって、手が回らなかった部分もあると思う。来年ももしそうなのであれば、準備をもう少し早くしないといけないかもしれない。
保育内容総合表現	杉田	1が問19を除き0%という結果は全員が授業に対して前向きな姿勢だったと考えてよいと思う。ただ5が比較的少数であることは残念であり、予想外だった。	全問学生評価より高い結果である。とりわけ問9と問16に関しては差が激しい。前期後期に分かれているが、内容としては通年授業である。にもかかわらず担当が前期と後期で変わるので進めにくいところがあった(コマの関係で)。	今年度は工事の関係で美術の表現がなくなり、体育と音楽だけになったため、通年の2／3のコマ数の中で専門でない美術の分野も取り入れながらの授業になったので戸惑う面が多かった。したいことがすべて出来なかったり、学生の美術に関しての質問に的確に答えられなかった点が学生との自己評価の相違を生んだように思う。「総合表現」というからには、美術・体育・音楽が三位一体にならなくてはいけないのではないか。
保育内容総合表現	木村	特にないが、学内平均よりも私に対する学生の評価が低いのは私の怠慢であろうか。	自己評価より学生の評価が高いのはどうなのだろう。	教員間の意志の疎通に努める必要があろう。
保育内容総合表現	谷	総合表現の授業の発表会は、このアンケートを実施したより後にあり、学生の授業に対する満足度は、低いと考えるにも関わらず、そう思う、どちらかといえばそう思うの回答が、合計で52．9%と低いと思う。アンケートの実施時は、発表に向けて取り組みの最中で、完成度の低いものであるので、発表会以降に実施する必要があると思う。	問い5の授業の難度レベルであるが、担当教師全員で総合表現の完成度を高める努力はしているものの、授業時間だけでは不足のため、時間外にも多大な努力をしている。与えられた時間だけでは総合表現の発表会の無いようにこぎつけることは不可能であるが、学生の回答は、57．2%と半数の学生が、レベルが適切であったの問いにそう思う、どちらかといえばそう思うと答えている。授業終了後も毎日のように大学に残り、発表会前日前々日は、深夜に至るなど大変な時間を使っている授業であるにも関わらず半数以上が適切であったと答えていることから考えると、果たしてこのアンケートが正しい学生の考えなのかと疑問がわく。また、問い6の授業進行も、製作(物、配役、音楽、せりふなど)があり、各クラスによってもバラバラであり、進行やテキストプリントなどの使い方なども、適切でないと判断している。問い18，19の課題の量についても、学生には重すぎる内容であると感じるが、これも半数がはいと答えている。アンケートを実施する時期を、授業内容によって変え、教師が最終と判断した時期に行えるようにしていただきたいと考える。	こちらとしてももっともっと学生の本音を聞きたいとは思うが、授業の時間数が不足する事から考えて、押し付けの授業になっている可能性もあると思う。こうしなさい、ああしなさいと言うことも多く、学生が自主的に作品を作り、積極的に製作(物、配役、音楽、せりふなど)をしていくことが、この授業でつける力であると考えるが、そこまで育てる時間が少ない。やらされている授業から、する授業への転換をはかって行きたいと思う。また、どちらでもないと答えている学生も4割ほどいることは、この授業の必要性を感じているのか疑問になる。授業に、幼稚園保育園での生活発表会などのビデオ鑑賞や現場で活躍している教諭保育士の生の声などを聞けるように工夫したら、学生の意欲もわくのではないかと感じる。それに向けた視聴覚教材を準備することも考えてみる。
指導法の研究	山田	学生からの評価が平均より低く、非常に反省している。補講などで同じ日に2回授業があったり、実習などの事情で授業時間が飛んだりしたので、できるだけ興味を持ち、集中して取り組めるような内容を心掛けたが、学生には合わなかったようである。	自己評価も低かったので、学生の評価は予想していたものであった。いろいろな面で反省しなければならないと思っている。	指導案作成や保育教材作成など実際に書いたり作ったりすることも取り入れたが、作業をまじめにやらなかったり、関係ない話をしていたりする学生もいた。また、保育教材等の発表も行ったが、人数が多いのでそれに時間が掛り、間延びしてしまうような時間もあった。指導法についての理論と具体的な作業をうまく絡み合わせて、実りの多い授業となるよう工夫していこうと考えている。
情報機器演習	渡邉	特にありません	平均値をとること(比較すること)に意味があるかが疑問だと思います。	アンケート対象の学生の抽出方法や内容の正確性が必要だと思います。例えば、単位が取れたものがするとか、記名制にするとか。授業内容により項目を変えるとかだと思います。
情報機器演習	谷口	比較的高い評価を得たが、授業の難易度や進行速度、技能指導および課題量に低い評価があった。これらについては考慮して対応したつもりであるが、まだ配慮が足りなかった部分があると思われる。	学生の評価より高い項目がいくつかある。自己満足な授業にならないように注意したい。	難易度の適切さについて、特に疑問をもつ学生が1割強存在した。アンケート結果からは、難しすぎたのか易しすぎたのかわからないが、学生の反応をよくみて、学習段階に合わせた、よりきめ細かな指導を行っていきたい。
幼児臨床心理学	北村	ほぼ学内の平均と一致しており、特別悪い点はないが、ホワイトボードの字が見にくいなどの指摘は個別にうけているため、今後気をつけたい。	自己点検評価が学生評価をかなり下回っており、自己評価を良いほうに修正する必要があるのを感じた。	授業の内容の理解が3.75と全体から見て少し低いため、今後は具体的な事例などを紹介して理解度upにつなげたい。
幼児臨床心理学	近藤	だいたいは4の評価であるが、授業への理解や関心といった項目が少し低かったと思われる。授業を受講することが本当はその授業への関心を高め、より興味を持つことが理想であろうと思われる。何とか工夫の余地があると思います。	授業に対する姿勢は自分としてはいつも全力投球であると重いっているので、どうしても自己評価は高くなるところがある。やはり一番気になるところはシラバスどおりに行かないところです。	先にも述べましたが、どうしてもシラバスどおりには行きません。それは私の関心がいつも同じではなく、動いている社会にあわせた問題を取り上げたいと思う気持ちが強いと授業内容をかえることがしばしばです。幸い学生たちはあまり気にしていないのでホットします。今後の問題点と思っております。
教育相談	森石	真摯に受け止め、改善が求められる点はより良い方向性を検討し、実行したいと考えます。	ほぼ一致がみられたと考えますが、これからも学生との対話を重視して、授業を進めたいと考えています。	問11は静かな環境づくりの責任の所在が明確でなく、学生の努力の促進につながらないのではないかと思います。ご検討いただけたらと思います。

総合演習	合田 村井	短期間の授業のためか、教員が予想していたよりも理解度が低いのが意外であった。同様に進行速度についてもいえる。（合田） 学生たちは真面目に回答しているとは思えない。その理由は 総合演習は村井と合田が1学期の前半と後半で同じ内容の授業を2ｸﾗｽごとにそれぞれ行ったものである。しかし学生の評価は、1，2組と3，4組とではほとんどの項目において異なったものになっている。例えば、問2の場合、1，2組では学生評価が学内平均に比べて高いが、3，4組ではその逆になっている。16項目中両組が一致するのはわずか4つにすぎない。理解できない評価結果である。同一教員が同一内容の授業に対する評価がなぜこうも大きく異なるのだろうか。学生たちが真面目に評価していないと疑わざるを得ない。（村井）	「虐待」という重いテーマを短期間に学習させることの難しさを改めて感じた。しかし、学生は少しでも現状認識してくれたようである。（合田） ほとんどの問いについての学生の数値がほとんど似たり寄ったりである。これは、やはり真剣さを欠く評価によるものだと思わざるを得ない。（村井）	現在のところ考えていない。現状をもう少し維持し、効果を見たいきたい（合田）
総合演習	曽和	問8の板書の適切さを問う項目の学生評価の平均値が最も低く、それに次いで問13の授業内容の理解度を問うそれの平均値が低くなっています。また、問14の授業内容への関心度を問う項目のそれもスコアが低いといえます。 全体的に見て、学内平均よりも各設問の平均値のスコアが低いことについてどう分析すればよいのかの検討が必要だと思います。	教員2名の自己評価と学生評価との乖離は、各設問ともにほとんど見受けられず、その意味で問題点は顕在化していないと思います。ただし、問13の設問について、教員の側は学生が授業内容をしっかりと理解していないのではないかと危惧して、自己評価が低くなっています。学生も授業内容への理解が不確かに感じて、低い授業評価となったのだと思います。	学生が興味関心を持つテーマを積極的に取りあげるとともに、演習授業であるので学生が主体的に自分の調べた研究結果の発表の場をよりもたせることが必要だと思います。
総合演習	藤田	非常勤講師として、本年度最初の担当科目であり、受講学生達の理解力の程度を充分把握せず、やや厳しい自己評価だが、学生達の評価は平均的に上まわる評価であった。しかし、評価基準の4.「どちらかといえば」の曖昧さが学生達の好意的な評価を得たような気がする。	学生評価1.「そうは思わない」2.「どちらかといえば」に評価した学生が全体の10%前後あり、これら評価した学生達に対する、講義内容および方法を再考する必要がある。	今回の講義において、受講学生達の客席を自由にしたが、私語および居眠りが頻繁にあり、講義中断を余儀なくされたが、今後は指定席にすることも必要であろう。
教育実習A	田主	学生からはまずまずの評価を貰った。しかし、期待し、要求した水準を満たしているとは思えない。	学生評価と自己評価とのズレを感じる。より学生を多面的に捉え、理解し、指導方法も工夫が必要。	学生の思いや立場について理解する姿勢で関わることで、保育者になるための意欲を促すとともに、学生の学力に即した指導を心がけたい。学生に望むことについて具体的に確認し、意識のズレを修正する。
保育実習ＩA	山田	授業のﾚﾍﾞﾙや進行速度、教材、板書での点数が低い。授業の進め方をもう一度じっくりと見直す必要があると思われる。特に実習ということで、現場へ出すための様々な準備をし、熱意を持って関わったつもりであるが、学生もその気持ちはくみとってくれたように思われる。	学生が満足できる授業にはまだまだ至らないと思っているが、学生の点数が割合たかいので驚いた。実際、実習を経験して初めて事前指導が良かったかどうか分かると思うので、今後の学生の声を聞いてさらに改善していきたい。	この評価だけではなく、保育実習の訪問や先生方からの報告なども含めて改善点を考えたい。まず、内容についてはもっと具体的、実践的な物を取り入れていかねばならないと思われる。実習に即役立つ知識や技能を具体的に教えていく必要がある。また挨拶など基本的な振る舞いについてより具体的に指導する必要がある。また、わかりやすい授業というのを常に心がけ、理解度を測りながらすすめたり、ﾋﾞﾃﾞｵ、OHCなどの機器を活用し、より具体性をもって進めたりする必要性を強く感じている。
保育実習ＩA（保育所以外の児童福祉施設等の実習）	合田	学生の評価が16項目中、半数の8項目が教員の自己評価より上回っていると同時に、残りの8項目が自己評価よりも下回っている。この結果から判断できることは学生の学習効果があった反面、教員側が期待した効果とのズレが両者存在しているのではないかといえる。保育所以外の実習、いわゆる施設実習は、学生にとっても未知の経験であり、実習前の不安感は予想を超えるものがあると毎回、担当者としては感じている。よって、この結果を真摯に受け止めて、教員側の思いが学生達に鳴り響かなかった項目に関して、今後検討したい。	学生による授業評価の欄にも書いたが、教員側が意図して、組み立てた授業内容の効果が、若干学生に伝わっていない項目があるのが分かり、今後の参考にしたい。	施設実習を充実するための事前学習として、従来ならば対応できた学習内容を、今後改善する必要性があると認識した。ただ、実習の目的を損なわず、かつ受け入れ側と学生がの双方が納得いく内容を少しずつ検討したい。

付表2　教員による自己点検評価報告書（ライフデザイン総合学科）

科目名	担当者	学生による授業評価調査の集計結果について	教員による自己点検評価から見た集計結果につい	今後の改善点について
日本語表現法	石川	あまり良い評価は受けなかった。授業内容の説明などを急いでやっているためであろう。昨年までは通年で指導していたことを、現在は前期だけで終えている。急ぎ足の授業になっている。大いに反省すべき点である。	自己評価は「かくあれかし」という願いを込めてのモノなのでやたらに高い数字が出ている。必ずしも現状とピッタリとは言い難い。	テキストやプリント配布、説明し、取り上げた内容に即した問題を学生が解いていく。その間、机間巡視して指導する。質問が一人一人から出るので対応が不十分になる。学生が書き終えるのを見て、正解を配布し、赤ペンで修正させ、間違った漢字を3回書いて提出させる。一時間に配布するのはプリント4枚くらい。漢字検定3～4級くらいの力をつけようとして、無理をしているという反省がある。中間試験を実施しているが、これも学生の負担になっているかもしれない。指導内容を整理し、ゆっくりとした授業に改めるべきだろう。
日本語表現法	石川	学生からはきわめて悪い評価を受けた。前期の必修科目である。自分たちが30分以上遅れてきて、私が研究室に引き上げていると、翌日先生来なかったでしょうという。（その後男子生徒が現れたので、一人だけの授業を行った。）何とか助けてやろうとしたのが裏目に出た。	教育方法としては、様々なことを行った。ふつう期末の試験をすると20点くらいである。平均点が70点と80点の間くらいにあるから、私の指導を受けても分からなかったのだ。今後の指導としては、個人指導の面を一層強める以外無いだろう。	中学校から高校、高校から短大と進学する途中で、一度も入学試験を受けていない。漢字を覚えたりする、記憶力のいい時を逃してしまった。仕方がないから、個人指導の面を増やし、授業中に覚えてしまわせるようにしたい。
英語(英会話A)	ﾓｰﾙﾃﾞﾝ	The "Life Design" students were more satisfied than the "Nursery Department" students, but they had more interested in English.	My own scores were a little higher than the student's scores for questions.	Write more neatly on the blackboard, use more prints.
英語(英会話A)	伊藤佳	学生評価において比較的に数値が低いと思われるのは授業での話し方（声の大きさや速さ）及び授業内容に関してであると思われる。	声の大きさについては、授業における静かな環境づくりとの関連で、こちらの努力が必ずしも功を奏しなかった場合があったことは否めない。授業内容に関しては、授業の進度をシラバスに近づけようとしたため、理解度への配慮に少々欠く面があったかもしれない。テキストの内容にかなりレベルの高いものがあり、それが学習意欲を削ぐ一因となったかもしれない。	教師側の思いが必ずしも学生側に伝わっていない面があることが分かったので、今後、学生が英会話をもう少し身近に感じ、学習意欲を喚起できるよう、授業内容と授業方法に関して、なお一層の工夫をきてゆきたいと考える。
英語(英会話A,B)	柏木	今年も英語クラス分けの「に」クラスを担当し、英語が苦手な学生が対象でしたので、この程度の評価と予想していました。一部の学生を除き、学習意欲に乏しい学生に興味を持たせることには失敗したということでしょう。		学期の後半から座席指定にしましたが、それによって私語が少しは少なくなり、平常の学習態度もチェックしやすくなりました。今後は最初から座席指定にするつもりです。
英語（英会話A）	垣口	有効回答数が1と少なく、全問に対して5にマークされているため、適切な評価がなされたとは考えにくいが、少数の授業で十分な意思疎通が計れたことが、評価結果に反映されていると思います。	左記理由のため、分析は困難ですが、テキストと学生のレベルが上手くあっていたので、問13、14、16などにおいて自己点検結果以上の評価を得られたのではないかと思っています。	この科目は、学習者の個人差が如実に出る。今後、授業のレベルを下げることなく、この中で、習熟度別の課題を別途、考えることにしたい。
英語（英会話A）	伊藤	授業内容以外の評価に関しては、大体において学生、教師双方とも、大きな違いはないように見受けられる。	受講者の学力に極端な隔たりがあり、学期途中で一部の学生の欠席等で、授業内容を少し変更してシラバスに掲載されたもの以外に投げ込み材料として使用したものがあるので、問3のような評価が出たものと思われる。	シラバス通りに行うことも大事だと思うが、学生の実態を把握するなかで、ある程度臨機応変に工夫していく方が、学生にとっては有意義なのではなかろうかという気がする。今後、いろいろ考えてやってゆきたいと思う。
英語(英会話B)	魚住	初めて担当した英語の授業で、学生の全体的なレベルがよくつかめなかったため、授業内容や進行速度に問題があり、それがよく反映されている結果となっている。	「英会話」ということで授業をすべて英語で行なったことや、30人の学生数でペアワークなどの時に、全員に十分なフォローが行き届かなかったことが、授業の難易度や学生の理解度に影響していると思います。英会話にこだわらず、もう少し文法やリーディングなどを取り入れると良かったかもしれません。	学生の英語力やクラスサイズに応じて柔軟な指導ができるよう、工夫していきたいと思います。
英語(英会話B)	垣口	全体的に学内平均の前後であり、特に目立って悪い結果の設問はなかったので良かったと思う。しかし、授業内容の理解に関する問いに対し、そうは思わないと答えた学生が3.8%いるなど、他の問に比べ評価が低いのが気になった。	自己評価と学生評価を比較してみると、教師の授業に対する熱意などに関する問いでは自己評価が高く、学生の熱意等に関する問いでは自己評価が低いなど差が見られた。もっと学生の気持ちを理解する必要があると思う。意欲を持って取り組んでいる学生により良い授業を提供したい。	授業の難易度を少し下げ、理解できたと多くの学生が感じられるようにする必要がある。また、教材に工夫をこらし、学生の関心を高められるように努めたい。
情報基礎	畑野	ほぼ予想通りの結果だと思う。教科書の版が変わり、多少内容が難しくなったが、情報の基礎理論としては止むを得ない。理解できない学生もいて、本当に大変だったと思う。	学習内容は理系よりのものである。文系の学生に理解できるよう精一杯努力している。テキストを変えるのも一案かと思うが、もう少し様子を見てみたい。	教科書に沿って、全ての問題を解かせることにしているが、問題を抜粋して、できるだけ易しくし、自信をもたせる。
パフォーマンス演習	村井	学生評価の数値がほとんどの問において学内平均を下回っている。	授業が学生にとって難しいものであることを物語っている。	？
パフォーマンス演習	北村	問14の評価が最も低く、この授業の主旨から考えると、良くない結果。	自己点検評価と学生評価に大きな差がある。学生の質問などにも十分に対応できていない。	演習を少数の教員が担当しているためか、学生に十分な対応ができず、関心を引き出せていない。消極的な学生には、この演習は負担が大きいのではないだろうか。今後は、より学生の興味・関心を引き出せる授業作りが必要。
パフォーマンス演習	畑野	授業の進め方が難しい。担当分に関しては、3回で完結するため、欠席が一度でもあると、ついていくのが難しい。評価内容は、ほぼ予想通り。	大変な準備と労力を使うが、その割には評価の上がらない科目。	専門の教師に指導して頂くのがBestと思う。情報基礎などの科目とはなじまない。
パフォーマンス演習	中川	村井先生とともに3コマを担当し、①表現を身に付ける②ディベート実演を実施し、テキストは使わず、板書は多くなかったため、この2件について学生の評価が悪いのは当然です。	自己点検評価よりも学生による評価がいくつかの点で低いので反省しきりです。	ディベートの実演では、1クラス36名は多すぎるのではないかと思う。
モチベーション演習	石川			村井学科長の指導のもと、全員が協力、手分けして新しい学科に取り組んでいる。私自身が学生の前に立って説明する機会は少ないので、今学年が終わってから振り返ることになろう。学科の先生方の取り組みは真摯であり、皆が力を尽くしている。

モチベーション演習	奥田玲	何れの項目も学内平均より学生評価が低い結果となった。授業の性格上、やむを得ない部分もあると感じました。	自己点検評価は学生評価より高い結果が示された。今後、この結果を踏まえ改善をしていきたいと思います。	何れの項目も同程度の評価点であるため、全ての項目についてレベルアップをすることが大切だと思います。
モチベーション演習	北村	私が教壇で話す機会がほとんどなかったため、学生も評価しづらかったと思う。学生評価は学内平均を全て下回っているが、上記の影響ではないかと考える。	自己点検評価は学生評価を全て下回っており、自己評価を良い方に修正する必要があると感じた。	学生の関心が十分に引き出せていない。時間割を作る作業が多かったため、学生にとっては面白みのない授業になったかも知れない。授業や就職へのモチベーションを高める方法をさらに検討する必要がある。
モチベーション演習	柏木	8人の教員が熱意を持って色々工夫をして行なった授業だと思いますが、学生の評価が意外と低いのにいささか驚いています。このアンケートからは具体的にどういう点が不満だったかは分かりませんが。		
モチベーション演習	新田	授業の形態が一定でないため、学生評価も一様でないと判断せざるを得ない。	教員の個別の評価だけでなく、関わった教員全体の評価も必要であると考えられる。	授業の内容をより詳しく(何をしているか？)学生に提示する工夫が必要であること。
モチベーション演習	畑野	入学時の混乱から抜け出して、自らの時間割を組めるようになる過程を指導する。教員は十分な準備をして対処するが、受け入れる学生はこんなものだと思う。	同左	教室・時間割の適正化をはかる。
モチベーション演習	村井	学生評価の数値が全ての問において学内平均を大きく下回っている。このことは何を意味するのか？一考を要する問題である。	同左	？
モチベーション演習	中川	学生評価の高いことは学生の方向づけに役立ったものと思う。	いくつかの項目で自己評価よりも学生評価が上回っていることは、学生は満足したものと思う。今後とも一層の努力をしたい。	他の担当教員とも協力して、学生のモチベーションを高めたい。
ライフデザイン原論	村井	学生評価の数値が全ての問において学内平均を大きく下回っている。一考を要する問題である。	同左	？
ライフデザイン原論	奥田玲	全ての項目が学内平均をやや下回る結果であった。	問1～9で、自己評価と学生評価に1.3～1.5の開きが出た。	学生の望む進度、レベルに合わせる。学生の授業への関心を高める工夫をしていきたいと思います。
ライフデザイン原論	中川	総じて学生評価の低さに驚く。	毎回、村井先生と相談して作成したプリントを配布したが、学生はそれに安心したのか、板書を取る者が少なかった。	統計資料を適切に選択し、学生の授業に対する関心を高めたい。
ライフデザイン原論	黒石	先生方の熱意のわりには、学生の評価は低いというのが正直な感想である。授業内容が問題なのか、授業の運営方法が問題なのかを考えなければいけない。	4人の先生方が、自分の専門分野を担当し1人当り2～3時間の授業回数で運営されているのが最大の特徴である。学生がこのような授業形態に慣れていなかったことが大きく影響していると考えられる。	学生の授業の難易度の得点から見ても、授業内容に特に問題があるようには考えられないことから、授業形態に学生が少し違和感をもって挑んだのではないかと考えらる。最初のガイダンスの重要性がうかがえる。
世界の文学	石川	あまり良い評価は受けなかった。私的なアンケートでは、学生は高い満足度を示している。どちらも無記名とはいえ、目の前にいる指導者の批判は書きにくかったのだろうか。	自己評価は「かくあれかし」という願いを込めてのモノなのでやたらに高い数字が出ている。必ずしも現状とピッタリとは言い難い。マイクを使う授業で、地声でもマイクでも声の大きさには自信があって、自己評価では高い点数をつけたが、これも学生評価と外れた。	シラバスは10人以内の受講者を考えて作成したが、60人以上集まった。ゼミナール型の授業の方がよい科目なので60人を超える指導は難しかった。学生の評価は芳しいものではないが、私的アンケートの方を勘案すると、今年のような授業を望んでいると思える。ビデオが上手く再生できず時間の浪費があったりした。来期、60名も希望するとは思えないし、早くから教材・機材を充実させ、少人数の学生に世界の名作を味わってもらいたいと願っている。
日本の歴史	村井良	問5などの結果から、学生にとって内容が難しかったと思われる。また学生の自主性を尊重して、私語などはあまり注意しなかったが、問11などの結果を見ると、学生自身も私語が多かったという自覚があり、もう少し注意したほうが良かったと思う。	試験結果は想定した程度の点数をとっていたにも関わらず、学生が十分に内容を理解できていないと考えている。学生にとってハードルが高く見えたということであり、内容を丁寧に説明したと考えていたが、それだけでなく、学生の理解度をその都度確認し、理解できているという自信を与えることも必要だと思った。	なるべく学生の理解度を確認できるようにし、講義の進行をもう少しゆっくりする必要があると感じた。また私語などもなるべく注意し、学生に内容に集中させる必要があると思う。いずれも授業中の学生とのコミュニケーションをより増やしていくことで改善されると考える。
文化と人権	曾和	学生評価の平均値は相対的にハイスコア(？)かと思われるが、問14の項目の平均値のみ3点代(3.89)とロウスコアとなっている。	教員による自己評価と学生による授業評価との間に親和性が見受けられるのではないか。授業の難易度レベルを問う項目について、私自身やや難しいレベルの授業を行なったつもりであるが、学生が肯定的に評価したことについて、どう評価してよいか戸惑うところである。	“分かる授業”、“身につく授業”とは一体何なのか学生による授業評価と教員による授業評価から考えさせられた。地道ではあるが、教員に自らが研鑽によって(自らが変わることによって)分かる授業とは何かを考え、改善に努めていきたいと思う。
自分探しの心理学	北村	学生評価が学内平均より少し良い。特に授業の満足度が高かったことに安心した。	こちらが思っていた以上に学生の理解度、満足度が高かった。パワーポイントを使用していることが悪い評価につながっていないことに安心した。	楽しい授業を心がけているのだが、授業内容に関する関心が3.71で一番悪かった。興味をもってもらえる授業作りを心がけたい。
くらしと社会	中川	学生評価では「大きな声で聞き取りやすく」がトップ、ついで「授業は熱意を込めて」であることからも判断できるように、真剣に取り組んだが全員二年生ということもあり、フレッシュさに欠けるとともに欠席も多かった。	自己評価と学生評価の落差に驚く、プリントを配布するとともに、ノートとりを推奨したい。	講義だけでなく、統計資料を配布し、それをもとに思考力を養いたい。
くらしと政経	中川	受講者数が87名と多く、収容力最大の第6教室を使用しても、3人掛けの机となり、もちろん座席指定などの対策を講じたが、私語が多かった。そのせいもあって、真面目な学生たちの評価が低くなったものと思われる。	講義では、毎回、レジュメを配布し、統計資料も適宜配ったが、学生は私語に忙しく、板書をレジュメやノートに書き留める学生が少なかった。授業に集中していないのだから、低い評価になったのだろう。	ライフデザイン総合学科の学生の資質からみて、60名を越える授業は無理だと思われる。受講者が集中する(60名を越える)場合、急遽、二分割の手段を講じて欲しい。
くらしと数理	新田	おおむね良好な評価をいただいているようです。ただ、問14における･･･新しい知識や考え方、必要な技能を習得し、･･･は学内平均より下回っている点が気になる。	自己点検評価より学生の評価がよかった。問12～問14について、こちらが思っていたより理解や取り組みが良かった点が印象に残る。	授業の内容について、既知の事柄を工夫して別の見方･考え方で取り扱うこと。

くらしとパソコン	鈴木正　岡安	もう少し、学生から評価されていると予想していた。	いささか学生の評価が低いことに、納得できない部分もある。	学生に見合った授業の改良・工夫を試みたい。いずれにしても、学生のレベルを引き上げることを目標に、授業内容、方法の改善に努めたい。
くらしとパソコン	鈴木	学生から予想以上の高い評価を得た。しかし、授業の難易度、課題の量、課題に取り組む時間については、他の評定値に比して若干低い値が観られる。この科目の持つ特性にも因るが、再検討したい。	学生評価が全体的に自己評価を上回っていた。	この科目は、学習者の個人差が如実に出る。今後、授業のレベルを下げることなく、この中で、習熟度別の課題を別途、考えることにしたい。
日本国憲法	沼口	問1～16の全てにわたって、とりあえず学内平均を越えてはいた。(しかし、問1～4、問7～10、問15において私の評価の方がうわまわっているということは、私の評価基準を少し見直す必要がある。問5以外は、評定平均値は4を越えていた。問5の授業難易度のレベルが少し高かったようだ。授業の難易度のレベルを下げる必要はないが、分かりやすい授業をもっと心がけるひつようがある。	問1～4での中で4授業の準備と工夫はこちらの努力が生徒に十分伝わっていない。問7～10での9の熱意もこちらから比べるとこちらの努力が十分に伝わっていない。問16私の満足度は4で学生は4.33なので、学生が授業に満足してくれればそれが一番だが、私の満足度を高めるための自己内の努力が必要。	全体として特別の問題点はないと思う。私の熱意や工夫や準備が生徒の評価と異なってからまわりしないよう、いっそうの努力が必要だと思う。私が大学生として生徒に要求することと、いまの生徒たちの学力や知力の総体レベルの把握がずれていればば、私も生徒もともに不満足に終る可能性があるので、①お互いをよく理解し、そのバランスをとったところから授業を行い、②その授業の量と質を高めていくことが大切だと思う。
スポーツⅠ	黒石	保育学科の幼児体育Ⅰの実技種目とライフデザイン総合学科のスポーツⅠは、同じ実技種目の課題を与えたにも関わらず、保育学科の評価平均点が4.3であるのに対し、ライフデザイン総合学科の得点は4.8と高得点を示している。この差異は保育学科の受講生が28名であるのに対して、ライフデザイン総合学科のそれは約10名と少ないことが大きく影響していると考えられる。	ライフデザイン総合学科の高得点は、実技の総合得点で判定したのに対して、保育学科の場合は、各種目群で最低基準を決めたことによる差異ではないかと考えられる。保育の場合は、与えられた課題の各運動種目群で満遍なく得点しなければいけなかったことが、このような差異になったと考えられる。	ライフデザイン総合学科の場合は男女混合であり、中国人留学生が受講しているという特殊性があるので、このような評価方法が適切ではないかと考えられる。ただ、各人の苦手種目に対して、どのような動機付けを与えるかが今後の問題である。
スポーツⅡ	黒石	受講学生数が少なかったために一人一人に個別に指導できたことがこのような評価になったと思う。	実技のために体を思う存分動かせて満足したのではないかと思う。	バドミントンというスポーツ競技が女子学生に適していると思われるので今後も継続していきたい。
生活の科学	緑川	学生評価が分かって、今回の集計結果は、今後の参考になった。	さらに、向上の余地があることが分かった。	今まで独自に使用していた受講感想カードに、今回の授業評価を参考にして、毎回の授業の評価を記入しやすいように修正して用い、速やかな対応を目指したい。 また、学生についても、受講生自身の授業参加態度を見直してもらうような記入項目をもうけ、お互いの努力でより良い時間を作っていきたい。
衣服と生活	緑川	学生評価が分かって、今回の集計結果は、今後の参考になった。	さらに、向上の余地があることが分かった。	今まで独自に使用していた受講感想カードに、今回の授業評価を参考にして、毎回の授業の評価を記入しやすいように修正して用い、速やかな対応を目指したい。 また、学生についても、受講生自身の授業参加態度を見直してもらうような記入項目をもうけ、お互いの努力でより良い時間を作っていきたい。
住生活と快適空間	小倉	「このようなものなのだ」と言うのが正直なところです。非常にペースダウンさせた内容でしたが、これでよいと言うことになるのでしょうか	非常にペースダウンさせたので担当者としては物足りない内容となりました。受講成果が期待できなかった方もいらしたので申し訳なかったと思います。	漠然と履修選択、あるいは卒業単位のため、と言う目的の2年生と、関心をもって来られる1年生との差が浮き彫りになります。ほとんど2年生に受講態度について注意を促すことになりますのが残念です。
結婚と家族	中川	受講者数（45名）と教室規模の関係は適正であり、女性の関心が高いテーマであるので、集中して聴いてもらえた。そのわりには学生の評価が低いように思える。	新しい開講科目であり、講義の準備にかなり力を割き、「結婚」にウエイトを置いた。座席指定であり、学生の私語も少なく、気分よく講義できたが、学生の評価は期待したほどではない。	離婚率の上昇、超高齢化社会、パラサイト･シングルを悲観的にとらえるばかりでなく、結婚観、家族観の変化として講義するように努め、学生の価値観形成の一助にしたい。
ファッションコーディネート演習	本山	全体的に自分が思っていたよりも高い評価が得られ、安心しているが、問10が逆転しており、もっと授業内でのコミュニケーションが必要と感じた。 但し有効回答数が少ないのは残念だった。	課題の量は、自分では授業目標と照らし合わせて、もう少し増やしたいと考えていたが、適量という学生評価は非常に参考になった。	演習ではあるが、各自とのコミュニケーションを、まんべんなく取ることが難しく、やはり発言の積極的な者に集中してしまったが、視野を幅広く持ち、双方向のコミュニケーションがなるべく全員ととれるように改善すべきと感じた。
ファッションマーケティンク	本山	学生評価は全体的には学内平均を下回っており、授業として満足度があまり高くなかったことがわかる。また全ての項目で5.そう思うという回答が6割であるのに対して、1.そう思わないと回答している学生も2割いると言うことで、学生によるバラツキが見られている。	自己評価に対して学生評価が下回っている項目が多い。特に聞きとりやすさ、難易度、板書などの点で自己評価との差が大きく、学生の状況を冷静に掴めていなかった。熱意を込めていたつもりではあったが、空回りしていたことがわかる。	シラバスも重要ではあるが、授業のレベル、進行速度、板書などについて、学生の理解度を冷静に把握し、個別のコミュニケーションをより重視していきたい。ただ授業は講義だけでなく、一部実習形式も組み込んでいるので、欠席せず一つ一つのステップを理解できるような出席管理も、理解力・満足力を高めるためには重視していきたい。
ファッション販売	本山	有効回答数が少ないので、残念だが、もともと受講者も少なかったので、それぞれとのコミュニケーションを密に取りながらすすめられたので、実際にはシラバスとは異なる部分もあったのだが、学生の満足度が高かったのではないか、と考える。	自己点検に対して学生評価が高いものが多いが、内容についての確認をもっと取り、知識の積み重ねができていいたかどうか、試験以外でも行っていく必要を感じる。	同左
メイクアップ（ネイルｱｰﾄ・演習含む）	渡辺千	大多数の生徒が、私の想定していたよりも満足してもらえていたようであった。来年度は“そう思う”と率直に回答してもらえるような授業にしていきたい。 質問14について、“どちらでもない”と答えた生徒がいたので資料などを工夫し、満足度を高めていきたい。	幸いにも自己評価よりも上回る評価が多かった。質問9、10は逆転していたが、自分の気持ちとしては“5”を目指して授業に取り組む姿勢は変えないように生徒に伝えていきたい。 出席率の良い生徒はやはり意識も良く、授業態度も良かったが、そうでない生徒をひきつけるような工夫、取り組みが必要かと思われる。	自己アピールのきちんとできる生徒は質問も積極的にしてくるので、メイクアップも上達が早いが、おとなしい生徒はどうしても目が届かない所もでてきたりするので、特に実技の時に気をつけてフォローしていきたい。 出席率が悪い生徒に関しては、前半の手順の授業が終了すると中だるみの雰囲気がでてきたので興味を持ってもらえるような内容にアレンジしたり、資料、トークに工夫を加えたいと思っている。
色彩の基礎	吉真	ほとんどの項目の学生評価が5段階中4～5の間にある中で、問11、13、14の三項目が3～4の間である点に注目しました。これらは「授業に集中できる静かな環境を求めている」（問11より）、「授業をよく理解できた、授業への関心を高めて知識や技能が身についたという実感が少し足りなかった」（問13、14より）という学生の率直な思いを表していると感じます。	自己評価よりも学生評価の方が多くの項目で上回っていた結果は励みになりますが、一方で「授業に対する熱意・真剣さ」、「質問・発言に対する適切な対応」という点では、さらに高いレベルを要求されていることを実感しました。	「色彩の基礎」を受けて本当によかった！と思える学生が増えるよう、教材や授業の進め方にさらなる工夫を凝らしていきます。 具体的には、 「授業に集中できる環境作り」 「基礎知識や技能がどのくらい身に付いたかをチェックする機能の充実」 この二点を改善し、終了時には一人ひとりが「色彩の知識や技能を良い環境で学習・習得できた」と自信を持って言えるような授業を目指します。

色彩の心理	吉真	学生評価はどの項目も平均して4以上であった。「色彩心理＝色が人間の心身にどんな影響を与えるか」という身近なテーマに興味を持って真剣に取り組んでいる姿勢が反映されているものと思われる。毎回配布するプリントを殆どの学生が丁寧に仕上げ、自分なりの理解を深めているように感じた。それが集計結果にも表れていると感じる。	全ての項目について「どちらかといえばそう思う」という自己評価をしたのに対し、学生評価の方が上回っていた。但し授業の準備、進め方、教材などは毎回毎回少しづつの変化でも学生の取り組み方に違いが見られたことを考えると、まだまだ改善の余地があるように思われる。	全体の中で少し評価が低い「問11」について。さらに徹底する必要があると感じた。「私語などを控えたさらに集中できる環境」を確保するよう努めます。これからも「カラー」ならではの楽しい教材で学習意欲を上げ、理解を深められるよう工夫したい。
カラーコーディネート論	吉真	すべての項目で5段階評価中4以上という結果の理由に、「カラーコーディネート論」はカラーカードを貼る作業も多く自分で考え、積極的に取り組む学生の姿勢があったことが挙げられます。とはいっても「難易度が高かった」という声も時々授業内で聞かれ、アンケート結果（問5）にも表れているように思います。	教材や授業の進め方など全体的に自己評価と学生評価に温度差はなかったと認識しています。 問9、10に関しては、さらに力を入れるべき項目であると感じ、今後の課題として受け止めました。	カラーの授業にはどんな長い説明よりも実際に色を見る方がわかりやすい！という特徴があります。また流行色情報など常に新しい動きもあり、今後も見やすく時代に沿った内容や教材作りをすすめていきます。 作業中には周囲の人と意見を交わしながら自分らしい配色を考える「自由な雰囲気の時間」を設ける一方で、講義中には「集中して話が聞ける静かな時間」を…というようにメリハリのある構成で難易度にも配慮した授業を展開できるよう工夫・改善していきます。
カラーコーディネート演習	吉真	全ての項目で5段階中4以上の評価であった。カラーの「演習」ということで、次々と与えられるテーマの配色を考えたり、カラーカードを貼ったりと、課題の量は多かったと思うが、殆どの学生が自分のペースで消化できたと思う。授業の内容に関心を持って取り組めたことに加え、技能を習得できたと実感できた学生が多かった点がよかった。	プリントを多用しながら毎回テーマに沿った配色を考えていくという実践の繰り返しだった。時には個々の作業のスピードに差が生じていたように思う。難易度や速度の点を考慮して辛めに自己評価を行ったが、実際には学生の評価の方がかなり上回る結果となった。課題の難易度や速度に問題がなく、学生に適切なペースであったことを確信できた。	「問1」の評価結果から、さらに「聞き取りやすい話し方」を求められていることを実感している。「色」を扱う演習の授業としての情報の新しさ、楽しさを追求しながら、わかりやすく丁寧に伝えていくことにも努めます。「実生活でも役立つカラー！」を意識して授業を進めていきます。
シルクスクリーン演習	中路	おおむね良好な結果が出ているのは、人数が多いので、2ツに分割して、（火）（金）2クラス作った事がうまく行ったすべての原因か？と考える。 それでも、授業の進行速度、課題の量、取りくむ時間に問題があると生徒は感じている。 ※やはり、時間が足りない！もっとゆったりとした時間を！	あの教室では、一度に受講できる人数は、10名までしか不可能。クラスを2クラスに分けた事で、ていねいな、指導ができたと分析する。 それにしても、時間が足りないのが、問題点である。しかし、2クラスに分けた事で、遅れている生徒は、火・金両クラスに出席して、制作をこなせた事は幸いだったが…。それにしても時間が足りない。 一応授業終了時には何んとかシルクスクリーンを制作できるようにはなったが、生徒はそこからまだまだやりたいという欲求を持っている。	※とにかく時間をたっぷり与えてやって欲しい!! ※135分を最低でも180分授業に！して欲しい。 ※そして現在の1単位を→2単位にしてやって欲しい。 ※現在前期だけの半期授業だが、→通年の授業にして欲しい！ ↳12月に毎年、大学版画展が東京で開かれる。我校も出品するが、大切な後期に授業がない。その時期、個別に生徒を呼び出すしか今は解決策はない状況。 ※半期だけではシルクスクリーンを修得することは、不可能と言って良い。 できれば、通年で2年間通して時間をかけて修得して欲しい！
食生活と健康	奥田玲	授業の難易度、進度以外の項目は、全て学生評価が、学内平均を上回り、授業の行い方、満足度に高い評価が得られた事はよかったと思う。	何れの項目も自己評価が学生評価を0.4～1.4上回る結果となった。わかり易い授業を心がけ工夫した事は学生に伝わっているが、内容の理解度は、学内平均をやや上回るに留った。自己評価と学生評価の開きを知った事は今後の為に有意義だったと思います。	授業の難易度、進度を学生の求めるものに改善していきたいと思います。
食生活と健康	坂口	1時限目の授業であれば、遅刻、欠席がめだち、また授業中の私語がきわめて多い。また学力とくに国語力が不十分であるため、これが授業内容の理解を不十分なものとしている。これらの点をふまえて、本授業評価を再検討し、今後の授業に生かす必要がある。	問1、2、9および11については、できるかぎりの努力をしたにもかかわらず、学生にこちらの熱意が十分伝わっていなかったことはきわめて遺憾である。一方、問5、7、8，12，13，14については、学生による評価が予想以上に高かった。	授業は、主として授業はじめ、または事前に配布したプリントにそって進めた。大学入学以前の学力の向上が要求される。科目の内容に興味を持たせるためにどのような手法が要求されるか再考の余地がある。
食の歴史と文化	奥田玲	全ての項目で、学生評価が、学内平均を上回った。「学生が授業の内容を、よく理解できるように、丁寧に説明した事」が最も高く評価された。また、授業への満足度が高かった事はよかったと思う。	自己点検評価が、学生評価より高い傾向が示された。	
食の安全性	坂口	きわめて妥当な部分もある（とくに問3および問6）。一方、不可解な部分も多い。一部の学生の受講態度からみて*、評価能力が十分にそなわっているのかどうか疑わしいところがあるからである。 *授業中に私語が多い、遅刻者が多いなど（とくに2年次生）	授業する側と受ける側の評価が異なっていて、授業する側の真意が十分に伝わっていない。板書を多用するが、この長所が理解されていない。	教室内における学生の着席位置を指定する。 教科書の使用を検討する。
食の安全性	坂口	授業中の私語がきわめて多いので、これを防ぐため、また各人の記憶に授業内容が銘記されるため、声を大きく丁寧に説明し板書するが、十分に理解されていない。定期的に講義室内における学生の着席位置を変更する必要がある。	問1、2、5、8および9については、できるかぎりの努力をしたにもかかわらず、学生にこちらの熱意が十分伝わっていなかった。一方、問6、7、14および15については、学生による評価が予想以上に高かった。	授業は、主として板書により進めたが、ときおりカラーの写真、図表などを提示し、プリントを配布した。これらの補助的な教材は学生の理解を助けるために不可欠である。板書、説明、補助教材を組み合わせて授業内容への理解度を高めたい。
食品材料の基礎知識	坂口	集計結果は、妥当なところもあるが、不可解なところも多い。学生の受講態度、出席状況、試験の成績などからみて、評価能力がそなわっているかどうか問題である。	必要に応じてプリントも配布するが、基本的に板書を多用する。 これは手を動かすことにより、記憶力を強化すること、ノートが後々まで思い出の品となることなど、長所があるが、十分に理解されていない。	板書の長所を力説する。
食品材料の基礎知識	坂口	本科目は上記2科目よりも比較的教授しやすいものであると認識していたが、全般に内容の理解度が学内平均を下回っており、予想以上に悪い評価であったことはきわめて残念である。	問1、2、9および10については、できるかぎりの努力をしたにもかかわらず、学生にこちらの熱意が十分伝わっていなかったことはきわめて遺憾である。一方、問5、7、11，14,16については、学生による評価が予想以上に高かった。	授業は、主として板書により進め、ときおりカラーの写真、図表などを提示し、プリントを配布した。これらの補助的な教材は講義の理解を助けるために不可欠であるが、さらに製品の実物を手でさわらせて説明することが必要とされる場合が多い。板書、説明に加えて、これら補助教材を相互に組み合わせて授業内容への理解度を高めたい。
食空間のデザインと演出	潘	大学では初めての講義でしたので、どのように進めていけば良いのか分からず、不安な気持ちが学生たちに伝わり、高い評価を得ることはないと思っておりました。しかし、誠意と熱意はしっかり見抜かれていたのかと驚いてます。	自信のないまま素直に自己評価したつもりでしたが、少々過少しすぎた感がありますので、今後は自信をもってやっていきたいと思います。特に学生から自分への気持ちが伝わってきていなかったというのか、自ら壁を作っていたのではないかと反省。	学内平均以上の評価は頂いたものの、自分でも満足した講義ではありませんので、この度の講義を基にさらに工夫した興味深く又楽しいものにしていきたいです。新人だという気持ちを忘れて、少し厚かましいくらい図太く堂々とした姿勢で挑んでみようとも思います。

フードマネージメントメニュープランニング	潘	講義中、無表情無反応な学生が多く、(中には居眠りも)さぞかしと思っていたのに意外や以外の回答だったので、自分との評価の格差が大きく驚いている次第です。これはラストの回答からも伺える。	自分で一生懸命に指導したと思う部分は伝わらず、逆に自分では納得できないままだった部分が評価されていて、学生と私との考えにかなりのギャップがあることを不思議に思っている。学生の評価そのものは平均評価に近いので、自分が間違っているのかなとも思うが、決してそうではないと思いたい。	格好つけたり、力(リキ)んだりすると空廻りするようなので(決してそんなつもりはないですが…)。もう少し自然体にした方がよいのかなと思うが、今以上自然体に近づけると益々ダラダラした学生になってしまうような気もする。ただ一年目でかなり緊張していたのかも知れないので、今後は自分自身をリラックスさせた方が良策かも。
テーブルコーディネート実習	乾	全体に生徒が授業に対し、興味を示し、何らかの成果を得てくれたのではないかと思う。	集計結果を見せて頂いたところ、自分自身の評価より生徒評価が上まっていたので良かったと思う。	4月からの授業は時間がのびるので、実習メインにした授業を行っていきたいと思います。
調理の基礎と科学	石村	総体的な満足度は約70%程度である。問13の授業内容の理解に関する評価の低い者が約25%もいることは大変な反省点である。フードコーディネーターの資格取得に必要な内容をできるだけ多く教えたいと願うあまり、量が多く、内容も難しかったかもしれない。	教員評価と学生評価のズレが目立つ。例えば問3のシラバス通りという項目では、進度が遅れたために相当内容変更を行なったことで教員評価は低い結果にならざるを得なかったが、学生評価は極めて高い結果となっている。この項目の意味がきちんと理解できているのかどうかに問題が残ることを示唆する結果が見られる。	学習内容を絞り込んで少なくし、それぞれに時間をかけて丁寧に説明するように心がけたい。欲張って内容を多くしすぎ、授業の進め方に余裕がなかったことが学生の満足度が十分でなかった理由の一つになっていたと反省している。
製菓材料の基礎知識	石村	学生評価の4と5の占める割合は66.42%、1と2の占める割合が7.4%であることからみてこの授業への満足度は比較的高いと評価される。しか問6の授業の進行速度、問9の授業への熱意、問14の授業内容への関心度などについては3にあたる「どちらともいえない」の比率が高い。学生がどのような点をそのように評価したのかを分析し改善点を見つけたい。	問1の大きな声、問2のわかりやすい説明、問9の授業への熱意は学生評価に比べて自己評価が高過ぎたようである。毎回自分自身は授業には全力投球で臨んでいるつもりであるので、この学生評価との開きの原因を分析し、当方の熱意が伝わるような授業展開を図っていかなければならないと反省している。	授業には全力投球で、熱意をもって取り組んだにも関わらず、また問16の満足度が4.00と比較的高いにも関わらず、問9の「どちらともいえない」が40.9%も存在していることの理由が理解できない。今後学生が何故そのように感じたのかを把握することが先決と感じている。
調理実習Ⅰ(テーブルマナー含む)	奥田玲	学生による授業評価から、授業への取り組みや行い方には大体高い評価が得られていた。授業の課題の量についての評価がこの科目については最も低かった。	自己点検評価が学生評価を上回る項目が多く、学生の受け止め方に合わせて授業の行ない方を工夫していきたい。	課題の量は決して多すぎることはないと思うが、学生評価が低くなっている。別の要因の影響も含め、例えば説明にあてる時間を短縮する、実技指導をより多くするなど指導方法や時間配分などの改善を行なっていきたいと思います。
調理実習Ⅱ(調理機器を含む)	石村	本来調理の好きな学生が選択している授業であることもあって、全般的に何れの項目についても学生評価は高く、満足度の高い様子がうかがえる結果が得られた。	問1、3、4、5、6、9、12は学生評価も低くはないのであるが、自己評価が高すぎたのか学生評価を上回っていた。一方当方が余り高い評価を与えていなかった問2の丁寧な説明、問7の教材の使い方、問8の板書の適切さ、問16の授業に対する満足度などの評価は高く、学生の期待がどこにあるのかが示唆される結果が得られた。	4と5の占める割合が90%近い比率を示しており、学生が講義形式でなく実習形式の授業を好ましく思い、また積極的に取り組んでくれている様子をうかがうことの出来る結果が得られた。今後も実習内容を充実させ、学生の期待に応えていきたい。
製菓・ラッピング実習Ⅰ	清郷	一番評価の低かった問3については、決められたシラバスだけでは時流が伝えられないため、敢えて話題性の高い時代を捉えたものを取り入れたが(学生の希望を入れてのこと)、多数決によったため、少数意見を入れなかったためと思われる今後は変更を検討したい。	自身が本学出身のため、生徒が社会に出てから役立つように、社会生活において求められることをできる限り教えようという気持ちが先行していたと思う。あえて厳しいことも言ったが、以外に分かってくれたこともあったようで、嬉しい面もあった。	評価5を目標に、各項目について再考し、より学生にとってよい授業を心がけたいと思います。
製菓・ラッピング実習Ⅱ	清郷	学生からは自己評価及び学内平均に比べて良い評価を頂きました。その中で一番評価が低かったのが問3でしたが、これはシラバス通りではなく時流を取り入れた為と思われます。シラバスの内容が気に入って受講した学生も多いので余った時間で今話題のものを紹介し、来期はシラバスに従って授業を進めたいと思います。	問2、9、10を除き自己評価に比べて学生評価が上回っていましたが、この3点の評価を真摯に受け止めて来期はさらに高い評価を得られる様に努めます。	今回一番学生の評価が高かったのが問10、20でした、しかし問14の評価も考慮し、学生には難しいと思っていた新しい技術や知識について、来期は積極的に取り入れて分かりやすく指導したいと思います。
社会福祉概論	保科	特に学生との差を感じた問4は、今後検討を要する。	この考え方は理解できるが大変難しい。	教員として学生に興味をもたせる授業作りに関して、検討の余地はあるだろう。
社会福祉概論	保科	やや、自分の考えより厳しい評価？	もう少し全体的にレベルアップが必要。	学生が、授業をどの程度理解しているかは、時々、不安を感じる。学生の感じる「楽しさ」と、教える側の想いとのギャップをいかに埋めていくのかが課題であろう。
介護概論	井上	学生が授業科目に何を期待しているのかが不明。授業内容について、学生に迎合するつもりはない。	学生の評価(問8～6)は学生の評価が自己評価よりも高い	学生の目的意識が不明瞭。どのように明確にするのか。
介護概論	井上	学生の評価と自己評価の乖離が有り過ぎる。あるいは評価が逆の結果になっている。学生評価が学内平均よりも下回っている点が気になる。	問11を除いて、40～50%が4・5の評価であるので、可の評価になる。問1，2，8，9，15について、1の評価であるが、問1，2については、特に意識的に授業は行っている。問9は当然のことである。学生が何を求めて、授業を受けているのか、理解し難い面もある。	初回授業の際のオリエンテーションに工夫を要す。
公衆衛生学	植村	有効回答の割合が低く、その数(母集団)も少ないのが残念であった。取りまとめを考えると今回の方法で結構ですが、自由な記述欄をもうけてもよいのではないか。	学生の熱意(問12)の評価が2.29と低いのは残念であった。科目への関心(問14)ならびに授業環境の改善(問11)での低評価は、重要な反省点である。満足度(問16)は、1人が評価1と評定したが、それ以外は3以上であったので、総合的には、大体目標値に近い評価を受けていると判断した。	講義内容をより平易なものに改善したい。席を指定して、授業環境を改善したい。成績評価における、授業ごとの小試験、またはレポートの比率を上げ、授業への関心を高めたい。
公衆衛生学	植村	率直に受け入れたい。	担当者の意図するところと学生の望むところにズレがあることが分かった。問14の低評価は重要な反省点である。	次年度から教科書を指定して、学生に安心感を与えたい。(米国式の)授業も経験し、参考書にも目を通し、それなりに努力はしているが、理想どおりには進まない。[古宮昇著:大学の授業を変える←本学図書館にあり]。古宮先生のシラバスによると(P。169)、不可が35%で優が48%である。本学でこのようなことが通用するか考えてみたい。
医療事務総論	倉戸	この講義の後に医療事務演習、診療報酬請求事務演習(学外の認定試験)、実務に就いた時に有効な技能の習得までを視野に入れて進めなければならないため、講義時間を30分延長してもなお余裕のない状態で進めていますので、概ね予想していた評価だと思います。		今年度30分延長した結果、昨年度より理解度が上がったと思いますので、講義時間内で課題に取り組む時間をもっと増やすことでより理解度が上がると思います(宿題を出すことは最近ではあまり効果がないことが分かりました)。理解できていない所に気づき、その場で質問できる機会がないと分からないままに進んでいってしまうことになるため。ただ一人一人の質問にきちんと対応するには、今の受講者数は多すぎると感じています。

医療事務総論	倉戸	概ね予想どおりです	とくにありません	授業の理解度を上げるために、実例にそった解説をもっと多くすることを考えています。そのために教室の視聴覚器材をストレスなく使えるようにお願いします。(パワーポイントを新しいバージョンのものにしてほしい・前の時間の担当者の機器操作により？マイクが使えないことがある-特に北4　などです)
医療事務演習	倉戸	一部項目を除き、教員の認識よりは、良い評価がなされていると感じ、少し安心しました。	集計結果とは別に、演習科目にも関わらず、一人一人の学生への対応は人数が多すぎるため十分できていないと感じています。もう少し時間をかけて見てあげれば理解できるのではないかと思われる場合でもそれができないことが多いです。	20名以上では十分な対応はとてもできません。できれば2クラスにして人数を少なくして頂きたいです。15名くらいまでが理想です。
医療事務演習	倉戸	概ね予想どおりです	とくにありません	演習の科目ですので、できれば1クラスの受講者数があまり多くならないように柔軟に対応していただけるように希望します。
解剖生理学	奥田喜	問8で学生評価が最も低かった。理由は板書量が多かったためではないかと思われる。板書を各々のノートに書き写すことにより、講義への集中力を高めるのが目的だったのだが。	講義の方法について、私の認識と学生のそれとが結構ずれていると感じる。是正すべき点もあると思う。	この調査は、講義方法を教員と学生に問うものであるが、確かに教員の講義方法を改善するだろうと思う。学生の講義態度にも良い結果が出てくると思う。この学生の講義態度の向上に関しても調査の必要があると思う。
解剖生理学	奥田喜	講義の進め方は適切であったようであるが、肝腎の理解度が低いのが気になる。	講義の範囲が広く、時間的に無理があると感じる。	平均が高く、すべての項目で大きく落ち込んでいるのは、どういうことかと思う。
薬理学	木本	評価のほとんどが3に集中していた。これは言葉通りの意味にも受け取れるが、反面には学生の評価能力の危うさを反映しているようにも思われる。その元をたどっていくと結局学生の授業内容の理解のあいまいさに関連していくのかもしれない。それ考えれば学生の授業評価はおおむね納得できる。	一般的に身びいきになるきらいはままあることである。問1～4はもっぱら自己のこころがけと行いに関わるものであるので、思い入れのまま答えたため、いくぶん乖離が見られたがあとの問いについては想定の範囲内であった。問題点は学生の授業内容の理解度をいかに上げさせるかであろう。そのためには自己の教授法はもとより、学生が本教科の特徴的な内容を理解できるように生物学や科学、医学などの基本的な知識を平行してまんべんなく身につけさせることもひつようであろう。それよりも先決問題は、いかにしてあきらめさせずに授業に興味をつなぎとめさせるかである。	1．内容や説明を平易にするように心がける。2．授業内容を要約して学習量を少なくする。3．理論より実際面に重点を移していく。4．授業をインタラクティブになるように心がける。
薬理学	木本	今回学生からの評価は設問全般にわたって少しながら善傾向がみられた。しかし、ほぼ半数の学生の評点が3に集中していたことは授業内容の理解の曖昧さを反映している虞もある。一方、残りの2割ずつに2極分化が見られた。ことに評点の悪い方の原因が講義の授受のどちらに在るのか見極めていく必要がある。	自己の努力で評価の向上が望める設問(1～11)については、自己評価が学生評価を上回っていた。このことは自己の授業に対する思い入れほど授業内容が学生に理解され、興味をそそるものになっていたかどうか、反省の余地を残す。学生側にも責任がある設問の評価は、改善の必要があるが、両者で一致していた。	理解度と関心を高めるために　　1．内容や説明を平易にするよう 心掛ける。 2．医学と生化学の基礎知識を補いつつ授業を進める。　　3．授業内容を整理・要約し学習量を少なくする。　　4．薬理学の応用面に重点を置く　　5．授業がインタラクティブになるよう心掛ける。
医療秘書実務	東野	全体的には妥当なところだと思います。	楽しく分かりやすい授業を心がけております。ただし、授業中に私語をする学生に対しては注意を厳しくします。それに対し、他の学生から評価を高くもらい、少し安心しました。	授業の難易度は、正直なところ年々下げています。できるだけ興味や関心を持ってもらうことを心がけ、大切なポイントだけを繰り返し話すようにしています。それでも授業の難易度に不満があるようであれば、テキスト以外の教材やプリントにさらに工夫をと考えています。
医療秘書実務	東野	授業は大きな声で、板書は見やすくを心がけておりますので、評価していただいて良かったと思います。難易度のレベルの評価が悪かったのが残念です。	問11について、今年度は席を決めて下さったので、ほとんど学生に注意をしておらず、評価するのに困った。	授業中に学生から意見を聞き(または質問をしながら)、難易度を確認しながら授業を進めて行きたいと思います。
診療報酬請求事務演習	倉戸	一部項目を除き、教員の認識よりは、良い評価がなされていると感じ、少し安心しました。	集計結果とは別に、演習科目にも関わらず、一人一人の学生への対応は人数が多すぎるため十分できていないと感じています。もう少し時間をかけて見て上げれば理解できるのではないかと思われる場合でもそれができないことが多いです。	
診療報酬請求事務演習	倉戸	概ね予想どおりです	とくにありません	とくにありません
医療事務コンピュータⅠ，Ⅱ	倉戸			昨年度までの週1回2コマの講義と比較して、登録はしにくかったようですが、受講した学生の感想では、週2回の方が習った操作の仕方を忘れないので良いということでした。この講義についても15名を超えると十分な対応は難しくなります。人によって進度が異なり、全員対象の説明がしにくいので、説明をプリントで配布することを考える。
医療事務コンピュータⅠ，Ⅱ	倉戸	予想以上の評価でした	とくにありません	演習の科目ですので、できれば1クラスの受講者数があまり多くならないように柔軟に対応していただけるように希望します。
診療情報管理論	富永	2と3の評価がついた項目に注目し、授業の内容と進行度が良くなかったと反省し、今後、検定3級受験を目標とし、創意工夫をして考えてゆき、集中して興味深く学ぶ環境づくりをしてゆきたいと思います。前期は私語の多い生徒さんに対してもあまり注意しませんでしたが、前期での経験を基に注意して、授業に集中できるように努めていきたいと思っています。	時間的な問題もあり、シラバスに示した計画通りに進行できなかった点と初めて教えるという立場にたつ経験不足と要領が悪かったことが結果として現れたと思います。	後期はコーディングに集中し、説明と分類(コーディング)の実技をうまく組み合わせシラバスに沿った授業を進めていきたいと思います。12月にはコーディング検定3級受験合格を目指します。改善点:授業前の十分な準備と説明と学生が納得して、授業にのぞんでくれるよう、また満足感、達成感を味わうことのできる内容にすること。
ICDコーディング実務演習	富永	問4．5．6に関して「どちらかといえばそうは思わない」というところに意見があったことに注目しました。自分自身は十分な準備をして臨んだつもりでしたが、この評価をしっかり受け止め、来年度の授業の注意点としてさらに授業の工夫と努力の必要性を感じております。	シラバスに沿って授業の進行をするべきところを、3級技能検定対策も入ってきましたので、スピードを上げての授業でした。その中で学生がどれくらい内容を理解しているかに不安を感じておりました。授業中に私語の多い学生に対してあまり厳しく注意しなかった点は反省しております。	授業の始めにきっちりとおたがいに挨拶を交わし、当日の授業内容の予告を行います。私語の多い学生にはしっかり注意します。学生個々の授業内容の理解度の確認をし、遅れをとらない様に注意して進めてゆきたいと考えています。病院実習後のレポートの書き方についても指導してゆきたいと思っております。

アロマセラピー（演習含む）	倉津	授業の進行や内容については、概ね学生の希望に沿ったものだったようにうかがえる。内容の理解度については、やや自己評価が低く認定試験の受験率や合格率からもそれがうかがえる。	教員の自己評価に比べて学生評価が低くなっているのは、シラバスに沿った授業か、授業への熱意、質問に適切に対応したかであった（自己評価が5で学生評価が4.5であり、大きな開きはない）。シラバスの点については、研修会参加のため補講となったのが原因と思われる。熱意については、和やかに楽しめるように進めたのがかえってマイナスになったのではないかと思える。生徒の発言には個々人に対してなるべく時間をとって対応していたので、不満の原因としては時間の不足がある。また消極的な学生に対しての働きかけがさらに必要かとも考えられる。	①内容を基礎にしぼり、必要修得事項をさらに明確にし、理解度をあげる。②補講が必要になることは来期以降も避けられないかと思う。そのぶん可能な時間の枠内で進めていく予定。③来期はやや厳しめに進行することと併せて、実習を通して個人個人との接点を増やし、埋もれている疑問や質問に対応していきたい。しかし時間の制限もあるため、これまでのようにメールを通じてのコミュニケーションをいかすことになるかと思う。
リハビリメイク演習Ⅰ	かづき（本書記入：吉澤恵美）	集中授業を行っている最中及び全授業が終了した後に、多くの学生から「授業が楽しかった」という声を聞いていた。20項目において、学生の評価平均値は4.80と非常に高い数値を示しており、学生たちの満足度を知ることができた。試験（筆記及び実技）においても全員が高得点であったので、実りある集中講義ができたと思う。	昨年の経験を踏まえて、下記のような工夫をして授業の準備及び講義・実習を行った。 ●サブノートの活用：昨年はプロジェクターを使って授業の要点や図の説明をし、その後に学生のサブノートに記入させた。しかし、図を正しく写せない学生や、時間内に内容を写しきれない学生もいた。そのため、今年は授業のポイントをすべて記載したサブノートに変更した。 ●授業内容：集中講義のため、学生の集中力にも限界があるので、講義、メイク実習、リハビリメイクについてのビデオ使用とメリハリをつけて授業を行った。実習については、アシスタントの講師の人数を増やして個別指導ができるように配慮した。自己評価は問5は4、それ以外の19項目については5とした。学生の評価平均値は4.80であるということは、教える側と学ぶ側の両者にとってよい授業ができたと思う。また、問5については自己評価（4）よりも学生評価（4.62）が高いことは学生のレベルに適した授業ができたと思う。	2006年度から後期隔週授業に変更になる。今年度は実習内容の習得、自分の顔について考える討論会など、集中講義では時間的な制約があり、できなかったことも行っていきたい。また、短大での授業の意味は学生にとって単に知識の習得のみならず、卒業後の人生になんらかの影響を与える機会にもなりうると思う。本講座で学んだ内容を生かし、自分で納得する外観で自分で作る技術を習得し、自分の顔を好きになることができるようになり、就職を始め、今後の人生において自信を持って生きていくための一助になるような機会にして行きたい。
リハビリメイク演習Ⅱ	かづき（本書記入：吉澤恵美）	受講生は少なかったが、20の項目において、学生の評価平均値は5と満点の評価を得ることができた。学生たちに十分満足のいく授業ができたと思う。	昨年の経験を踏まえて、下記のような工夫をして授業の準備及び講義・実習を行った。 ●サブノートの活用：昨年はプロジェクターを使って授業の要点や図の説明をし、その後に学生のサブノートに記入させた。しかし、図を正しく写せない学生や、時間内に内容を写しきれない学生もいた。そのため、今年は授業のポイントをすべて記載したサブノートに変更した。 ●授業内容：集中講義のため、学生の集中力にも限界があるので、講義、メイク実習、リハビリメイクについてのビデオ使用とメリハリをつけて授業を行った。実習については、アシスタントの講師の人数を増やして個別指導ができるように配慮した。自己評価は全ての項目において5とした。学生の評価平均値は5であるということは、教える側と学ぶ側の両者にとってよい授業ができたと思う。	2007年度から後期隔週授業に変更になる。今年度は実習内容の習得、自分の顔について考える討論会など、集中講義では時間的な制約があり、できなかったことも行っていきたい。また、短大での授業の意味は学生にとって単に知識の習得のみならず、卒業後の人生になんらかの影響を与える機会にもなりうると思う。本講座で学んだ内容を生かし、自分で納得する外観で自分で作る技術を習得し、自分の顔を好きになることができるようになり、就職を始め、今後の人生において自信を持って生きていくための一助になるような機会にして行きたい。
性格の理解と把握	北村	学生評価が学内平均をほとんど上回っており、予想以上のよい結果だった。学生の授業の満足度が高く、よい授業ができたと思う。受講生の人数に対して、教室が狭かったため、この部分の評価が少し低くなった。	教員による自己評価を学生評価が全て上回っている。安心した。	教室が狭かった点、プロジェクターが暗く、教室の明かりを落として授業した点が評価を少し下げたのではないかと思う。改善できるよう、照明などを工夫する。
心理学研究法	近藤	人数が少なかったため、授業の全てにわたり、コミュニケーションがよくとれ、実験もスムーズに進んだため、このような評価になったと思います。	結構、困難なことも要求しましたが、学生によってはよくこなしていたと思います。私も楽しくできた授業です。	内容について、心理コースではなく、ライフの中の1科目なので、もう少し学生の興味をもつ内容に変えようかと思います。（ただ、編入希望者がいると、また内容が異なってきますが…）。
人間関係論	北村	学生評価が学内平均を上回っており、予想以上のよい結果だった。学生の授業の満足度が高く、よい授業ができたと思う。	教員による自己評価を学生評価が全て上回っている。	理解度が他の項目と比べて少し低いので、より深く理解できる授業作りをしたい。
社会心理学	田端	思っていたよりも好評価であり、努力の方向性は誤っていなかったと思えたので、後期も変わらぬ努力を続けたい。	期待するほどの効果の得られていない点があるので、その点の改善を図りたい。	講義内容の選択や例の充実などによって理解度とモチベーションの向上を図りたい。
社会心理学	田端	平均すると評定値4未満ぐらいであったことは，授業中の反応から予想した よりも低かった.	授業の難易度，進行速度，教材，質問への対応，これらは前期の授業評価を 踏まえて改善を行ったつもりであったが，学生の評価を見る限り目立った効果は なかったかもしれない.	教える量を減らさないようにしつつ，授業についてこれていない学生のフォ ローを含めた難易度と進行速度の調節を行うことで全体的な評価を高めることが できるのではないかと考えた．効率的に教えられるように教材を分かりやすくす る工夫を行う.
文化心理学	村井	学生からはすべての項目で予想以上によい評価を頂いた。とりわけ問12，問13，問14で自己評価より学生評価のほうが高得点だったのはいわば嬉しい誤算であった。	学生評価が全体的に自己評価を上回っていた。しかし、板書についての学生の評点が相対的に低かった。このことについて若干弁解めいた所感を述べることが許されるなら、小職の講義では授業内容の要点を比較的詳細に記述したレジュメと関連の参考資料を毎回作成して学生全員に配布するので、板書はなくても学生の理解が得られるものと思っていた。そのため、板書は講義時間短縮の意味合いもあって簡略化してきた。しかし、来学期からは板書については再考の必要があるようである。	学生評価の平均値が3.90と一番低かった問8（板書）については、来学期以降の改善が必要だと思う。
発達心理学	北村	学生評価が学内平均を上回っており、予想以上のよい結果だった。学生の授業の満足度が高く、よい授業ができたと思う。	教員による自己評価を学生評価が全て上回っている。	少人数で、よい授業ができたと思う。学生のモチベーションが高く、とてもやりやすかった。この調子で今後も授業を行いたい。
カウンセリング概論	鍛冶谷	平均値（1～16）から、良い授業評価を受けたことは言い難いので改善点を見出していきたい。	授業準備や話し方、板書等には、努力したつもりであったが、学生にどのように伝わっているのか（または伝わっていないのか）について、十分に把握できなかったと思われる。	授業内容と伝え方（教材の用い方等も含む）を見直したい。学生によって（本授業はライフデザイン学科と保育学科の両方の学生が受講）学習に対するモチベーションや理解力、表現力に違いが大きかったので、授業毎に学生からのフィードバックを求め、理解度の確認やモチベーション向上のための工夫と配慮を行っていきたい。

カウンセリング演習	鍛冶谷	人数が少なかったためか、前期の授業よりも少し高めの評価だった。講義中心よりもやはり演習形式の方が能動的にとりくむことができたのではないかと思われた。	教員自身としては最善の準備で臨んでいるが、学生の評価が最善といえない部分があることを謙虚に受けとめなければならないと思う。	実践的な活動のうらづけとなる理論や基本的な概念について、学生の興味（動機づけ）を持続させつつ教えるための工夫がさらに求められる。
ピアヘルパー演習	近藤	この授業は目的がハッキリしているので、受講学生にもやる気が感じられ、当然学生の評価も高いと思います。特に今年度の学生の動機づけはとても高かったと思います。	わたし自身も、学生ができるだけ興味を持つようなことを取り入れながら、受験への勉強するということを配慮しながら授業を進めた。この点は学生たちにも伝わっていたように思います。	ライフデザイン総合学科と保育学科の合同授業のよさをいかしつつ、より広い人間関係を持てることを目指しつつ、資格試験への合格をめざしたいです。
臨床心理学	奥村	全体的に自身が授業中に感じていた学生からの雰囲気や態度がそのまま反映されているように感じる。	特に問12～14において4と5と感じた学生が半数以下であり、こちらが伝えたかったことが伝えられなかったり、学生にキャッチしてもらえなかったのは非常に残念である。	学生の興味・関心を高め、維持していくことは難しい課題ではあるが、専門的な事柄をより分かりやすい表現で伝え、学生に体験してもらい、学生の知的好奇心や問題意識を刺激するように授業を進めたいと思っている。
臨床心理学	奥村	授業の難易度や理解度の点で難しいと感じている学生が若干名おり、知的な学びと体験的な学びのバランスを考えていきたい。	こちらの伝えたかったことを学生にキャッチしてもらえなかったことは残念である。また授業に対する関心を失った学生をいかに授業に入ってもらうかが課題となる。	授業内容を難しいと感じている学生がいるため、より学生が実生活の体験をもとに学べるように授業を進めていきたい。
家族心理学	森石	質問の内容によっては、バラつきが見られ、個々への対応はかなり難しいかと思われた。	学生の理解度について、一層把握する必要があると思われた。研鑽する所存である。	問11の静かな環境をつくる努力についての質問は、静かな環境づくりの主体が学生にはないように誤解されがちな内容と思われ、学生の依存性を一層増長することが懸念された。改善頂けたらと思います。
子どもの生活と文化	大方	学生からは、予想を越えた高得点の評価を頂いた。総平均が4.94であり、問3のシラバスに沿ってという項目が4.5、問7のテキスト他の使い方が4.5であり、それ以外は5.0であった。学内平均を超えており、安堵した。どちらでもないと応えた学生が3.1%であり、ひとりひとりに応じた内容を工夫したい。	学生評価が全体に自己評価を上回っていた。一致したのは、問1の大きな越えで聞き取りやすい速さと、問6の進行速度、問9の熱意である。特に、熱意において一致したことは何よりも嬉しいことであった。楽しい授業が毎回できたが、自己評価としては本務が多忙で十分とはいえない状況であった。	学生の満足度が5.0であることは、今後の大きな励みになる。ひとりひとりの学生の気持ちに添って、楽しくも質の高い授業を、今後、研鑽していきたいと思う。自己評価としても充実感があるように、更なる内容の確認を行い、、努力していきたいと思う。教材研究も必要と感じる。
幼児音楽	木谷	この授業は、人形劇や楽器の演奏など、実技の形態をとっている。少人数クラスで、一対一で指導する場面も多く、一人ひとりの能力に応じた課題を与え、密度の濃いレッスンができたことは、評価されているように思う。しかし、限られた時間内になしていかなければならない課題が多く、それが問6の評価に表れている。	授業はできるだけ分かりやすく、熱意をもって進めるようつとめたので、問1や問9の集計結果から見ても、こちらの思いと大きな差はなく、評価されている。ただ、授業の進行速度に関しては、こちらが思っている以上に無理があったようである。	一回の授業の限られた時間内で、ピアノ実技から声楽、人形劇、合奏など多くの課題に取り組み、学生には負担もあったと思われるが、幼稚園教諭を目指すにあたって、多くのことを学んだのではないかと思う。実技については、授業時間外の積み重ねなしには伸びていかないので、その心構え等も指導していくことが大切であると感じた。
幼児音楽	角野	授業に対する熱意は充分感じ取ってくれたように思われる。授業のレベルや進行速度に関しては、受け止め方に少しばらつきがあったようだ。板書はこの授業ではほとんど行っていない。	授業の難易度のレベルについては、学生1人1人の力量に応じて、見直すべき点があったかも知れない。（具体的にはピアノ独奏曲の選曲など）	2月の定期演奏会と、ぬいぐるみ人形劇の発表という大きな行事に向けて、限られた時間の中で、学生それぞれの能力や持ち味を最大限に引き出せるように、課題の選曲や授業時間配分を更に検討する必要がある。
幼児美術	木村			受講生が少なく、この調査から改善点を考えることはできない。
通信・ネットワーク論	畑野	テキストに基づいてほぼシラバスどおりに講義を行っている。内容はかなり専門的な知識を必要とする部分もあり、全ての学生が理解できない項目もある。選択科目なので10名程度の受講生と予測していたのに50名程度が受講し、学生たちは大いにがんばったと思う。評価は学生自身の理解度とほぼ比例する結果となっているものと思われる。	私の考える難易度のレベルや学生の専門度のレベルを考慮する時、適当な評価になっていると思う。ただし教員として少しでも理解をしてもらうための努力は惜しまない。	テキストのレベルを下げるのも一つの方法であるが、当面はあまり専門度の高い章や節を飛ばして講義を組み立ててみたい。
情報活用演習Ⅰ	新田	授業の進行速度によい工夫を要すると考えられる。	思いのほか総合的に満足してくれていることに気づいた。	受講の際の前提条件を明確にすること。
情報活用演習Ⅰ	新田	すべての項目について、学内平均を下回っていることが大変気になる。内容の取り扱い方、授業の進度について再検討を要する。	学生の評価は教員の評価より問3を除いて下回っている。一人一人の異なるニーズに対応が出来なかったためかもしれない。1年生も後期になると、パソコンのスキルも多様化しているようである。	一人一人のスキルの到達度を把握し、一人一人に対して適切な助言・指導をする。なかなかむつかしいですが・・・
情報活用演習Ⅱ	新田	予想以上に満足していることに気づいた。	教員としては、まだまだ工夫する必要があることに気づいた。	授業内容に対する学生の関心についてより深く考察すること。
情報活用演習Ⅱ	新田	授業前の予想に反して、良い評価を得ている。満足度も高いことに少し驚いている。	満足度という観点からみると、学生の評価は教員の評価を上回っている。しかし、難易度のレベルについては少し下回っている点が気になる。	授業のレベルを下げることなく、最終段階で、さほど難しくなかった、という評価を得られるように授業内容の提示を工夫する。
情報活用演習Ⅲ	新田	予想以上に満足していることそして本人たちが努力したことが伺われる。	教員としては、学生の授業理解に工夫する必要があることに気づいた。	学生の授業内容の理解を深めるために、提供教材の精選をする必要があること。
情報活用演習Ⅲ	新田	全体として学内平均より上回った評価である。とくに総合的満足が高いことに少し驚いている。	こちらも、学生の評価が案外良いことにびっくりしている。内容は少し込み入っている箇所があったのだがスキルの習得に満足している様子がうかがわれる。	どのような点が興味があったかを学生から聞くことによって、学生が興味を持つ内容をより深めたい。
マルチメディア論	畑野	この授業は、配布したプリントに従って講義する。プリントに多くの空欄があり講義はその空欄を埋める形で進める。板書が中心の講義なので当然そこに力を入れ準備している。学生の評価でその点が評価されないのは意外である。	かなり専門的な内容を出来るだけわかり易く噛み砕いて説明しているが内容的に多くの学生が理解するのは難しいと考える。したがって学生の評価はほぼ意図したとおりである。	内容を難易度を少し下げてスライドなどを用いたビジュアルな授業に変更していきたい。
マルチメディア表現及び技術	眞下	総じて平均より少し高い評価値だが、アンケートという事を考えると、実際はこれ以下の評価と予想できる。次期の講義はもう少し、良い評価が得られるようにしたい。	多少のずれはあるが、学生と同じ空気を共有して講義できたと思う。しかし、真剣さと熱意は受け止められなかったようなので、次期は更に頑張りたい。	学生と今まで以上にコミュニケーションをとり、もう少し臨機応変に講義に取り組みたい。学生が何をどう思っているのか、よく理解し、適切な説明をし、目標を設定したい。

情報倫理	浅羽	問14以外の項目について4を超えているという事実は、素直に嬉しく感じる。特に、問1と2に関しては、私が授業中に気をつけようと意識していたことであり、それらの平均値がトップ2であることは努力が報われたような感じがする。しかし問14の平均値が唯一4を下回っているという結果は反省すべきである。この結果を真摯に受け止め、フィードバックおよびフィードフォワードを心がけたい。	自己評価と学生評価の平均値を比較して1以上差のあった項目は、問2、4、6、7、8、11、12、16であり、半数の項目で大きな差があった。全ての項目において、自己評価より学生評価の平均値が高かったのは嬉しく思うが、この結果は私の自己評価力のなさ、自信のなさのあらわれだと思う。もう少し、学生の声をしっかりと聞いて、自分の評価に耳を傾けるべきだと感じた。	問14の平均値が唯一4を下回っているという結果は反省すべきである。新しい知識を多く教授したつもりではいるが、考え方や関心を高めるといった部分は少し弱いように感じた。今後は、授業中で教授した新しい知識を利用して、学生自身に考えさせるような演習を盛り込むなど、多くの工夫を導入したいと思う。そうすることが、学生の関心を高めることに繋がるのではないだろうか。
情報倫理	浅羽	全ての項目で、平均値4.00を超え、さらに学内平均より評価が高かったことに対して、嬉しく感じる。 その中でも、最も評価が低かった項目が、問5、問12、問14である。授業の難易度の高さ、及び講義形式による授業が多かったために、他の項目と比べて評価が低くなったと考えられる。この結果を真摯に受け止め、フィードバック、及びフィードフォワードを心がけたい。	自己評価と学生評価の平均値を比較して1.00以上差のあった項目は、問4、問6、問12、問13、問14、問16であり、学生との評価に差があった。その全ての項目において、自己評価より学生評価の平均値が高かったのは嬉しく思う。今後は、自己評価が悪かった原因と、予想以上によかった学生の評価の原因の差を熟考すべきであると感じた。	最も学生評価の平均値が低かった問5、問12、問14の評価を上げる努力をすべきであろう。 改善点として挙げられることは、授業の難易度のレベルである。授業の特性として、情報技術関連の専門知識が必要になるので、学生はややレベルが高いと判断したと予想する。情報技術関連の専門知識を、学生にいかに効率よく伝えられるかがポイントになるであろう。そのためには、大量の知識を学生に与えるのではなく、重要な知識に焦点を絞って授業を進めることが必要であると考えられる。
インターネット演習	浅羽	有効回答数が少ないせいか、全項目の平均値が非常に高いことが、第一印象である。中でも、問12が4.89と非常に高くなっており、学生が熱心に授業に取り組んでくれていたことが伺える。授業の特徴上、熱心に取り組まないと単位は取れないが、それを差し引いたとしても、この結果は嬉しい。	幾つかの項目で、自己評価と学生評価の平均値に大きく差があったことは、反省すべきである。特に大きな差があったのは問7であり、2以上の差があった。視聴覚教材の使い方は、私の都合のよいように頻繁に表示を変えた場合もあったので自信が全然なかったのに、評価が高かったのは意外だ。	学生評価が最も低かったのは問3と問6である。問3についてだが、私自身はシラバス通りに行ったつもりだったので、正直驚いた。学生がシラバスの内容を十分に把握していなかったかもしれないので、最初の授業でシラバスを配布し、解説する必要があると考えられる。問6についてだが、授業の進行速度も私なりに学生の顔、意見を見聞きしながら進行したつもりだったので意外だった。進行速度が速すぎたのか、遅すぎたのか、この質問項目では把握できないので、改善点を挙げるのは少々難しいが、随時、学生の声を聞きながら進行速度を調節したい。
インターネット演習	浅羽	学生評価の全項目の平均値が4.50を超えており、非常にその評価が高いことが第一印象である。中でも、問2の平均値が4.76と非常に高くなっており、学生は真剣に私の説明を聞いてくれていたことが伺える。この結果は、私にとって非常に嬉しい結果となった。	自己評価と学生評価の平均値を比較して1.00以上差のあった項目は、問4、問6、問7、問8であり、学生との評価に差があった。その全ての項目において、自己評価より学生評価の平均値が高かったのは嬉しく思うが、逆に言うと、自己評価が低いということは、それらの項目に対して自信が持てなかったということである。これは、授業中などで、学生の声を聞く努力をする必要があると感じた。	学生評価の平均値が最も低かった項目は、問3、問5、問7、問11、問15である。その中でも特に気になった項目は、問5である。問5は、授業の難易度を示す値である。本授業は、プログラミング言語のHTMLの基本を学ぶことを目標としているので、プログラミング言語に慣れていない学生たちにとっては、やや難易度が高いと感じたのかもしれない。それでも、難易度が高いと感じさせない授業方法があるはずである。今は具体的な計画を立てることはできないが、現在行っている授業方法を基本に、何らかの工夫を加える必要があるのかも知れない。
情報システム論	浅羽	全体的に非常に高い評価を頂いたというのが第一印象である。問1から16の平均値（4.53）を見ても、そのことが伺える。しかも、ある項目が突出して高い値だったり、低い値だったりしているわけではなく、大体同等の値だったことが一番嬉しく感じた。	幾つかの項目で、自己評価と学生評価の平均値に大きく差があったことは、反省すべきである。特に大きな差があったのは問3、5、8、11であり、2以上の差があった。自分の自己評価力のなさに、ただただ反省すべきである。しかし、今回の授業ではシラバスに示した授業内容が大幅に崩れて進行してしまったにも関わらず、評価が高かったのは意外だった。	学生評価が最も低かったのは問5と14である。問5に関しては、ある程度予想していた。授業開始前に学生の知識状況を分析したところ、シラバスに示した目標や授業内容は難しいことが分かり、それらを大幅に改善したものの、強引に進めた部分もあったのがその理由である。おそらく、問14の評価が低くなったのもそのことが原因ではないか。今後は強引に進めることなく、学生の知識状況はどうなのか、学生が何を勉強したいと思っているのかなどを分析し、授業を進めたいと考えている。
プログラミング	浅羽	学生評価のほとんどの項目の平均値が4.50を超えており、非常にその評価が高いことが第一印象である。しかし、問3、問5、問8、問11、問14に関しては、それを下回っているので反省すべき項目として挙げられる。	自己評価と学生評価の平均値を比較して1.00以上差のあった項目は、問3、問7であり、学生との評価に差があった。まず、問3に関しては、私はシラバスに沿って授業を進めなかったので、学生の評価はもっと低いと予想していた。シラバスに沿って授業を進めなかった理由は、この授業の担当は急遽決まったことなので、私がシラバスを作っていないこと、また学生のプログラムに関する知識がどの程度のものか全く分からなかったので、探りながら授業を進める必要があったことである。 次に、問4に関しては、前述した通り、この授業の担当は急遽決まったので、十分な準備はできなかった。そのため、学生の評価はもっと低いと予想していた。	学生評価の平均値が4.50を下回った項目は、問3、問5、問8、問11、問14である。これらの項目の平均値を上げる努力をすべきであろう。 問5、問14は、私の授業の準備不足である。学生は、プログラミングについての知識がどの程度あるのか、その知識にに応じて何を教えればいいのかがイメージできなかったので、授業を進める上で少し戸惑いがあった。今後は、授業前にしっかり診断的評価を行い、学生たちに何を教えるべきかをイメージしながら授業を進めたい。問3に関しては、既に述べたように、評価が低いのは当然であると感じている。今後、自ら作ったシラバスに従って、授業を進めたい。 次に、問11に関しては、特に授業態度の悪い生徒はいなかったと判断している。私は、この授業では静かな環境を作るより、議論する環境を作る努力をしたので、それが影響して評価が低くなったのかもしれない。また、前述の通り、議論する環境を作る努力をしたので、板書はほとんど行っていない。そのため、問8の評価が低いのも当然であろう。この問11と問8についての改善案は、今のところ考えていない。
情報機器利用プレゼンテーション演習	畑野	この教科は、情報機器を利用するため教室をパソコン教室に特定して進めた。高い評価を得られたのは時間割がうまく学生に受け入れられて10名づつ2クラスに分かれた少人数の授業を展開できたためである。学生一人一人の習熟度に合わせて指導ができ十分な理解が得られたものと思う。	授業はｼﾗﾊﾞｽに沿って進めた。情報機器を利用したプレゼンテーションの趣旨に従ってテキスト以外はスクリーンを利用して解説した。板書はファイルネームなどその都度変更の可能性のあることの指示にのみ使用した。概ね期待したとおりの評価であった。	最大20名程度の授業が設備やきめ細かい授業を展開する授業展開の上でも望ましい。もしもこれを上回る人数を受け入れた時の授業法についても検討を行いたい。
プレゼンテーション概論	畑野	資格をとるためには、全員「70点以上」の成績をとる必要がある。そのため学生も真剣に取り組んでいるし、教師も同様である。その観点から評価は適当と思う。	「プレゼンテーション概論」の授業は黒板はあまり使わない。したがって「板書は適切であったと思う」という質問項目は不要か？	良い課題を与えたい。
プレゼンテーション演習Ⅰ	福井	この授業は、プレゼンテーションの基礎として、自分の考えていること、意見などが人前で堂々と発表できるよう、言語表現、身体表現の演習を中心に授業を行ってきた。受講生が27名と比較的少ないことから、学生評価も4.32と、すべての項目で4以上だったのではないかと推測する。	「プレゼンテーション」という性質上、教員が手本を示して話さなければと、心がけたので、問1の教員の話し方の項目の自己評価に5をつけたが、学生評価は4.5であった。同じく問9、12の授業に熱意を込め、学生も熱心に取り組んでくれたという項目にも、自己評価を高くしたが、それぞれ4.43、4.21という結果であった。逆に自己評価を3とした問4の準備と工夫、問8の板書は適切かの項目では、もう少し丁寧に板書すべきかと反省していたが、いずれも4以上の評価であった。これは助手をして頂いた安東さんのきめ細かいフォローと成果のたまものと感謝するしだいである。	受講生が比較的少ないので、今後はより多くの学生にプレゼンテーションの必要性と魅力をわかってもらえるように努めたい。また人前で話すことに慣れるためにも、今後も、授業のはじめに身近な出来事からの一分間スピーチを取り入れたり、積極的に授業に参加できる雰囲気や体勢を整えていきたい。

プレゼンテーション演習Ⅱ	福井	受講学生が少ないためか、学生の評価は学内平均を上回っており、どの項目も4以上のよい評価を頂いた。特に問1、問10、問15の項目の平均値がよかったが、問5の授業の難易度のレベルが適切であったかどうかの項目が他と比べると、やや低いのが気になる所である。	学生評価と自己評価との差がかなりあったようだ。自分では、もう少し工夫すべきであったと感じた項目を低く評価し、プレゼンテーションという科目の特質上、最も心がけた項目については高く自己点検したが、必ずしも学生の評価と一致したわけではなかった。 ただ満足度が以外に高かったので一安心か。	自己評価でも感じたように板書をもう少し工夫して活用するよう心がけたい。また授業の難易度のレベルについては、そのつど学生からのフィードバックを考慮しながら、理解を深めてもらうよう努めていきたい。
マスコミ論	中川	板書の評価が2.67と最低である。板書は多かったが、ノートをうまくとれる能力と訓練に欠ける学生が多くなりつつあるようです。	学生評価との段差がありすぎる。講義内容を理解できるようにいま少し平易にしたい。	講義の一本調子を避けるため、資料を配布すること。
事務機器論	藤原	問16の結果では満足度を充分与えていない。理解度の差で、わかる学生とそうでない学生の2群に分かれたと思う。話し方、説明、板書など改善が必要だが、しかし、以上の3点も含み賛同を得た点もあるので、理解を難しくしたのは説明方法、難易度のレベル、進める速さにあると考えている。	自己点検と差が大きいが前半は講義で易しい。後半の品質管理手法、エクセルを使う問題分析と解決では統計の考えも必要で、日常見られない事例が多く理解し難い面があると思う。よく説明を聞き、手順を踏んで想像し、理解する必要がある部分がレベルが高いと思う。	情報処理のテーマと事務機器との関わりに触れながら進めている。情報処理の事例は文科系の学生に馴染みが少ないことが多く、難しい面があると思う。難解な点は、重ねて話す、確認するを心がけ、講義の全貌を掴む為、プリントでギャップを埋め、全員理解への努力をしたい。
事務機器演習	藤原	各問のヒストグラムは中央値がほぼ3で全体的には中庸と思うが、期待から言えば、評価5ばかりの右肩上がりにしたい？しかし、問5．6のデータに見えるように、数名の不得意学生には、もっと時間が必要に見え、難しいところもあります。今年から通年が半期となり、テキストは同じなので、進行速度は昨年の倍となり、速くなった分、教える側の不慣れ、的を得ていないところもあったと思う。その分、分かりにくかったかもしれないと思っています。	学生評価平均値との比較を見ると、自己評価がプラス側に偏っているように思えたが、自己評価の度合を全体として見た場合、学生のマイナス側評価の人89人（42．8%）、そうでない人は119人（58.8%）となり、学生の積極的マイナス評価の比率の方が低い。全体の定義：全体は16問、13人/問であり、その積をとって全体を208問・人の大きさとみることができる。各設問の学生のデータを自己点検評価と比較してプラス側評価の人45人、同じ評価74人が求められ、合計をマイナスでない評価の人とした。	大きな声、聞き取り易い速さなど、対話のイロハに一層注意し、板書のとき、後ろ向きで喋っていることもあり、気をつけたい。“理解できるように丁寧に”の命題と、説明する、見せる時間、速さ、デモの丁寧さのバランスをどうするかなど課題は多い。話すテーマの多さから速い進行が必要だが、丁寧すぎる面もあると思うのでバランスを考えたい。投射する画面と適時、プリントを使用して注意を集中させるように心がける。（キーポイント操作にしだすと注意が外れる。CRT画面に集中するので説明が耳に入らないなど、実技での悩みがある。）、等など、日々改善のテーマは尽きない。
コンピュータ会計	藤原	結果は平均的で、積極的肯定の人も多く、初めて簿記に接し、コンピュータによる財務諸表作成までを見ると、簿記理解度とは別に、再度簿記を志す時、必ず役立つと思う。結果からは、授業の進行が速い、内容が難しいことを表しているが、その他は熱心に取り組んだことを表している。	自己点検とのギャップは大きい。初めての簿記用語、仕組みが一杯の中で、学生経験しかない今、新しいことに直面してほぼ期待以上にがんばったと思う。特に新しい簿記の言葉は難解な特殊用語があり、説明にも手間取り、進み方は遅くなることが多い点今後も進行に工夫が必要と思っている。	会計での簿記の理解は難しいが、プリント、プロジェクタを使い、視覚的に全体像を見せて説明、わかり易くしたい。また、使用するエクセルの操作で困ることが多く、ややもするとエクセルの授業になりかねないので、ステップをわかりやすく、戸惑いをなくするよう気をつけようと思う。
事務文書管理	仁平	学内平均と学生評価の間で、大きな差のあるものがなかった点、安堵している。とはいえ、学内平均より低く、かつ絶対値が低い問12、13．14、16に関しては、大いなる反省の必要性を感じている。	難易度や学生の授業への興味、理解などで学生評価に対してやや懸念を抱いていたが、思ったより点数が高かった。学生に対して低い評価をしていたのは、一部の熱心でない学生に対する印象が強すぎた結果であり、多くの真面目な学生を客観的に評価できなかったことを真面目な学生に詫びるとともに、教育者として猛省したい。	テキスト・プリント等の教材の使用法、内容理解に対し、小生自身は未だ大いなる改良の余地があると考えているので、さらに改善を進めたい。また、前項で述べた学生に対し肯定的に評価する姿勢を持ち、より満足のいく効果的な授業になるように心がけたい。
事務文書管理	仁平	学内平均と比して、質問項目16中、教員の評価に直接関わらない問15を除く15項目中、満足できるのは3項目で他は相対的に低かった。個別に見ると、問2、問5、問13、問16を勘案すると若干矛盾するところもある。これは産する数が少ないことや感覚的に答えた結果であると思われるが、問16の結果が、学生評価平均値および学内の平均との割合との比較ともほぼ同じになっており、学生の評価は、基本的に妥当なものとして真摯に受け止めたい。	自己評価の観点からは、問12、問13、問14は授業中の学生の反応やこちらからの問いかけ、学生からの質問等、私自身の過去の経験、他所での授業等と比較して、学生から受けた評価は高すぎる観がある。問2、問7、問8等に学生の本音が見える気がする。	授業内容のうち経験、興味、基礎知識、学ぶ必要性などの点から再度授業内容の選別および教授法を検討した。特に、企業の組織、文書管理の箇所の専門的な部分を整理し、実習を伴う部分の拡充を図りたい。
ｵﾌｨｽﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ（経営学含む）	木村三	多くの学生が、授業の進め方に不満を抱いていないようなので安心しましたが、本当に内容が理解できているのかどうかが疑問に思えます。特に留学生が多い場合には、言葉の壁を越える難しさを感じています。	授業の進行速度等については、学生の状態に配慮しながら進めることになりますので、必ずしも予定したとおりには進みませんが、学生が授業に参加しやすい工夫を凝らす必要があると考えています。	なるべく多くの具体的事例等を用い、現実のビジネスの場を体感しながら、学生自身の身近な問題として理解し、学ぶことができるように授業を進めたいと考えています。
ｵﾌｨｽﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ（経営学含む）	木村三	学内平均について、演習科目と講義科目に分けて、集計して頂けると、より参考にさせて頂けると思います。	学生が授業に求めるものを的確に把握し、専門的な内容に入る前の気本に十分時間をかけるとともに、学生のニーズに応じた目標の設定を検討したいと思います。	近年の（企業の）業務の具体的な事例をビデオ等で示し、各学生が考える授業を試みてきたが、考える時間（作業時間）に遊んでしまう学生が少なくないようである。そこで、強制的であっても、楽しみながら思考を重ねていく仕掛けを盛り込みたい。また、全国大学実務教育協会が「オフィス・スタディー」科目のために編集しているビデオを本学科で使用する前に、他の科目をご担当されている先生が利用されたことにより、相乗効果が期待できない重なり方をした箇所もあったことから、今後、教材についても考えていきたいと思います。
ビジネス実務概論	畑野	学生が中心になって授業を進める新しい展開のため、評価は妥当と思う。	十分な準備のともなう授業である。よい結果だと思う。	陳腐化しない課題を常に準備し、きれのよい授業を心がけたい。
ビジネス実務概論	畑野	この教科は比較的少人数（18名）で開講できたので、学生一人ひとりの表情が把握でき、その理解度に合わせて進行ができたので高い評価を受けたものと思われます。しかし、受講生の数は必ずしも事前に把握できず、十分な準備にも拘らず最後まで学生を引き付けるのは極めて難しい授業です。	この授業に関しては、アシスタントを含めて十分な打ち合わせや準備が必要です。また授業の内藤を説明するスライドや映像などかなり入念な準備をして学生を迎えました。まあまあ学生の評価もそれに近い評価をいただいたものと思います。	受講生が多すぎたりした場合の定員制の導入など、学生に納得してもらえる授業の進め方を確立していきたい。
ビジネス実務演習	木村三	多くの学生が、授業の進め方に不満を抱いていないようなので安心しましたが、本当に内容が理解できているのかどうかが疑問に思えます。特に留学生が多い場合には、言葉の壁を越える難しさを感じています。	授業の進行速度等については、学生の状態に配慮しながら進めることになりますので、必ずしも予定したとおりには進みませんが、学生が授業に参加しやすい工夫を凝らす必要があると考えています。	なるべく多くの演習問題にあたり、現実のビジネスの場を体感しながら、知識として理解するだけでなく、演習をとおして楽しみながらスキルが身につく授業を心がけたいと考えています。
ビジネス実務演習	木村三	学内平均について、演習科目と講義科目に分けて、集計して頂けると、より参考にさせて頂けると思います。	学生が授業に求めるものを的確に把握し、専門的な内容に入る前の気本に十分時間をかけるとともに、ニーズに応じた目標とレベルを検討したいと思います。	ビジネスの基礎として協働していくための姿勢・態度・手続きマナーから授業に入るのではなく、日常生活態度まで遡って、無理なく、道徳性の向上にも配慮した指導を心がけたいと思います。
現代社会論	中川	受講者が少なく、学生たちが集中できたため、満足すべき評価を得た。	自己点検と学生評価がほぼ一致しており、まずまずの出来でなかったかと思う。	視聴覚教材を取り入れること。

現代社会論	中川	受講者は27名。教室も適正規模であり、あまり大きな声を必要をしなかったのだが、私の話すスピードが幾分速いこともあって、学生が講義についてこれなかったのではないかと思う。それが低い評価となって表れたのではないか。	一限目の授業であったためか遅刻する学生がかなりおり、しかも早々と居眠りする者も目立った。理解力に欠ける学生は講義についていけないので、眠気を催したものと思う。	講義内容はあれもこれもと欲張らず、ポイントを絞り、ゆっくりとしたスピードで学生の理解を深めることに留意したい。
国際関係論	村井	学生からはすべての項目で予想以上によい評価を頂いた。とりわけ問13で自己評価より学生評価のほうが高得点だったのはいわば嬉しい誤算であった。	学生評価が全体的に自己評価を上回っていた。問8(板書)についての所感は、前記のとおりである。	学生評価の平均値が3.69と一番低かった問8(板書)については、来学期以降の改善が必要だと思う。
国際事情	村井	学生からはすべての項目で予想以上によい評価を頂いた。とりわけ問13で自己評価より学生評価のほうが高得点だったのはいわば嬉しい誤算であった。	学生評価が全体的に自己評価を上回っていた。しかし、問9(授業の熱意・真剣)，問10(質問への対応)の項目で学生評価の平均値が学内平均より、たとえわずかであっても、低いのは、意外である。その原因が何かを突き止める必要がある。また、問8(板書)についての所感は、前記のとおりである。	問9(授業の熱意・真剣)，問10(質問への対応)の項目で学生評価の平均値が学内平均より、たとえわずかであっても、低いのは、意外である。その原因が何かを突き止める必要がある。また、学生評価の平均値が3.72と一番低かった問8(板書)については、来学期以降の改善が必要だと思う。
異文化間コミュニケーション論	村井	学生からはすべての項目で予想以上によい評価を頂いた。とりわけ問13で自己評価より学生評価のほうが高得点だったのはいわば嬉しい誤算であった。	学生評価が全体的に自己評価を上回っていた。問8(板書)についての所感は、前記のとおりである。	学生評価の平均値が4.04と一番低かった問8(板書)については、来学期以降の改善が必要だと思う。
比較文化論	村井	学生評価の数値がほとんどすべての問において学内平均を上回っている。	満足すべき結果だと思う。	？
比較文化論	村井	学生からはすべての項目で予想以上によい評価を頂いた。とりわけ問12，問13で自己評価より学生評価のほうが高得点だったのはいわば嬉しい誤算であった。	学生評価が全体的に自己評価を上回っていた。問8(板書)についての所感は、前記のとおりである。	学生評価の平均値が4.07と一番低かった問8(板書)については、来学期以降の改善が必要だと思う。
世界の中の日本文化	柏木	10名足らずの選択科目であったが、英語の苦手な2年生の学生も数名いて、内容の理解度が十分ではなかったようである。テキストが少し難しかったかもしれない。	予想以上でも以下でもない。	テキストを易しくすること。私語の多い学生の扱い。
Intensive Reading Ⅰ	魚住	学生間にかなり大きな学力(英語力)の差があるため、評価が二分すると予想していましたが、全体的に高い評価となり、少し驚いています。少人数のクラスでフォローしやすかったことがよかったのだと思いますが、例えば、理解度などは、必ずしも成績に反映されていませんので、アンケート結果を鵜呑みにせず、慎重に見極めていきたいと思います。	少人数のクラスながら、学生間に熱意の大きな差があったにも関わらず、全員が授業に満足していると感じているというのは信じ難いです。個人的にももう少し細かく聞いてみると、アンケート結果には表れなかった問題が見えてくると思います。	英語力や英語に関する興味に大きな個人差があり、それらをいかにして埋めていくかが大きな課題です。少人数クラスである強みを生かして、可能な限りきめ細かい授業をしていきたいと思います。
Intensive Reading Ⅱ	魚住	非常に高い評価を受け、満足している。少人数で、かつとてもモチベーションの高い学生ばかりだったことが高い評価につながったと思う。	予想した以上に学生の期待に応えられたようでうれしいが、欲を言えば、もう少し批判的なコメントがあれば、今後の参考になったとも思う。	少人数でとてもやりやすいクラスであったが、受講生が少ないことが授業の活気の低下につながることもあるので、学生とのやり取りを絶やさないようにするなどして、常にクラスの空気を回すよう心がけたい。
International Communication IA	ホスバック	I handed the questionare in without viewing what the students wrote. If the students knew I was going to view what they wrote, they might not answer honestly.		Lintening exercises were a little too easy for most students. I have raised the level of listening from beginner to elementary levels.
International Communication IA	ホスバック	A strong point of this class was the small number of students. This really helped to provide more one on one attention. Both classes were very good to teach and had good motivation.	I wish I could have used more visual aids such as with an OHC, overhead camera or more internet access.	Thank you for reading this. Good luck next year, I appreciate all your help and support.
Advanced International Commnication I A	ホスバック	I handed the questionare in without viewing what the students wrote. If the students knew I was going to view what they wrote, they might not answer honestly.		All exercises were about right level.
Advanced International Commnication I A	ホスバック	A strong point of this class was the small number of students. This really helped to provide more one on one attention. Both classes were very good to teach and had good motivation.	I wish I could have used more visual aids such as with an OHC, overhead camera or more internet access.	Thank you for reading this. Good luck next year, I appreciate all your help and support.
Media English Ⅰ	垣口	問5、問18の評価結果から、授業の難易度が少々高く、十分な理解を得られなかったことが分かります。それでも授業内容に対する関心を高め、総合的に満足を得られたという結果に安心しました。	自己評価に比べ、学生評価が低い設問として問8の板書に関する項目が挙げられるが、留学生のみの授業であることを考慮し、より丁寧な板書が必要であったと反省しています。	
Media English Ⅱ	伊藤紀	もともと2人しか受講生がいなかったのですが、二人ともアンケートに回答していたと思います。そのうち有効回答数が一名なので、この授業に関しては、あまりアンケートをとっても意味はなかったような気がします。	中国人留学生二人だけの授業で、しかも途中から開講という不規則なクラスだったので(五月半ばまで学生が登校しなかった為)、最初に予定していた教材も使用していませんし、内容もメディアイングリッシュからかけ離れたものになってしまいました。それでも二人が満足してくれたようなので、概ねよかったと思っています。	受講生のうち一人は、日本語も英語もあまり分からない状態だったので、少し苦労しました。もう一人の学生が昨年よりもずっと日本語の力が伸びていたので、通訳をしてもらえて助かりました。今後、日本語力の著しく低い学生には、まず徹底的に日本語の訓練をして頂き、あるレベルに達してから他の教科も受講するようにはできないでしょうか。
Travel English I	柏木	少人数の選択科目で、授業もほぼイメージ通りに出来たし、学生もかなり真面目に勉強したと思う。ほぼ期待通りの評価であった。	自己点検と学生評価にいくつかの点で若干ずれがあるが、内容理解と満足度でこちらの予想を上回っていたのは、少し意外であった。	もう少し学生に英語で答えさせる機会を多くしたほうがよりよかったという反省はある。
ホテル・レストラン学	小野	今後の課題にしたいのは、黒板の使い方が生徒にあまり好まれていなかったようです。プリントを配布するよりなるべく書いて理解をするようにと考えて黒板を使用したのですが、後ろの方では見難かったようです。 今後、パソコンのパワーポイントで改善して行くように致します。	私が思っていた採点基準と学生基準がほぼ同じです。理解が出来る速さで話したつもりが少し話し方が早かった箇所と熱意を込めて話したつもりが学生評価より1ポイント低かった所を今後の改善策に考量したいと思います。	今後はもっと現場の状況を動画配信にて何故そうする事が必要なのかを徹底して教えてモチベーションの切り替えの大切さや、自分の仕事がほかの人に与える影響、自分の仕事の社会的な意義や役割は何かと言うサービス業本来の人を中心としたビジネスの本質に触れて行きたいと思っております。
ホテル・ブライダル業務概論	小野	学生の興味がある分野であり一度はやって見たい仕事であると思います。もっと内容的に分かりやすくパソコンのパワーポイントで紹介して行きます。	黒板を今年は使用致しましたが評価からみて、今後は一昨年と同じもっと内容的に分かりやすくパソコンのパワーポイントで紹介して行きます。	学生の興味がある分野だけにブライダルアシスタントコーデネーター(ABC検定)資格を取らせられる資格認定教科に育て上げた。
旅行業務演習	西川	元来、国家試験受験という目的であったため、ここまでやらねばならない。ここは、端折っても、ここは特にという比重があるため、シラバスとの関係で若干食い違った面もあるのではないかと思うが、その点に関するフォロー等、一工夫が必要であると思いました。	学生の意欲を引き出しながら、興味が持て、いきいきと参加していける授業を行えるよう、再度点検してみたいと感じました。	板書、シラバスとの関係等、一層気をつけて授業を進めていきたいと感じました。

観光関連法規演習	西川	学生からはかなり高い評価を頂いたのではないかと思います。	この授業が常に万全ということはなく、常に自己点検して工夫を凝らしていきたいと思っています。	視聴覚教材の利用、プリントの改善など、普段から心がけていきたいと思います。
中国語会話Ⅰ	沈	学生評価が自己評価より良かったので、自分なりに一生懸命に頑張ったことが認められたと思い、一応安堵しました。	自己評価と学生評価の間に差があることが分かりました。その中で、特に授業の難易度レベルは適切と自分は思っていたけど、学生はちょっと難しいと思っているようで、その点については、今後、さらに2、3回のアンケート調査を見てから、教科書を変えるかどうか再検討するつもりです。	①自己評価が学生評価より少し高い項目に、よく注意して授業を行うこと(問2、10、11)。②今の授業に対しては、学生が満足している様子ですが、今後、一層努力して実績に踏まえて、授業の効果を高め、学生をより満足させたいと思っております。
中国語会話Ⅱ	沈	学生評価は4.5が82%、4が18%です。予想以上によい評価を頂いた。すべての項目の評価は学内平均を上回っているまたは同じになっています。	自己評価は50%学内平均と学生評価を上回っていた。しかし授業の難易度、進行速度、教室の適切項目に対しては、自己評価が学内平均を下回っております。	自己点検の結果は学生より高いところに注意して授業を行い、授業の難易度、進行速度を再検討の上、授業を進めて行きたいと思っております。
韓国語会話Ⅰ	金	思ったより学生の満足度が高く、よかったと思います。	授業の難易度のレベルに関して評価が低かった。	もう少し、ゆっくり進めて行った方が良いと思いました。改善致します。
韓国語会話II	金	すべての項目において学内平均及び自己評価より高い評価をしていただきました。学習に対する学生のモチベーションが非常に高かく、一生懸命に取り組んでもらった結果であると思います。	すべての項目において学内平均及び自己評価より高い評価をしていただきましたが、学生の学習意欲が高く注意する必要がなかったため、自己評価が低い結果となりました。なお、板書やシラバスの編成においては改善する必要があると考えます。	学内平均値より高い評価をいただいたものの、シラバスの進度の編成が高く設定されているため、問題3の回答がこの科目において一番低い評価となったと考えます。改善する必要があると思われます。
日本語表現法B演習Ⅰ	魚住	少人数クラスで、学生はみな熱心でモチベーションが高く、かついつも朗らかな雰囲気に満ちた授業なので、学生と教員の満足がよく表れた結果が出ていると思います。	特に問題はありません。	これからも少人数クラスである強みを生かして、さらにきめ細かい授業をしていきたいと思います。
日本語表現法B演習Ⅱ	魚住	非常に高い評価を受け、満足している。学生がとても熱心だったことが高い評価につながったと思う。	予想した以上に学生の期待に応えられたようでうれしいが、欲を言えば、もう少し批判的なコメントがあれば、今後の参考になったとも思う。	少人数のクラスであれば、一人一人に指導が行き渡り、高い評価にもつながると思う。
International Commnication Ⅱ B	房	特になし	特になし	特になし
Advanced International Commnication Ⅱ B	房	特になし	特になし	特になし
社会人としての自己表現とマナー	奥田玲	授業の進行度、理解度、満足度共にバランスよく、比較的よい評価を頂いた。 伝えたいこと、指導したい内容を学生は熱心に受け止めていたと理解した。	学生評価が全体的に自己評価を上回っていた。理解度、満足度の向上に今後も努めていきたい。	現在の学生の状況、社会情勢に合せ、より現実にフィットした新しい内容も取り入れていきたい。 学生の興味を高め、さらに理解度満足度の向上に努めたい。
社会人としての一般常識	中川	高い評価を受けたと思う。	日本語の能力に欠ける中国人が4名もいたので、授業の進行が少し速かったと思われる。	特になし。
社会人としての一般常識	村井、柏木、畑野、石川、中川、新田、奥田、北村、	すべての項目において学生評価の平均値(3.46)は、学内平均を下回っている。この原因が何であるのか、今後の検討課題である。	この授業は、本学科の専任教員全員が総掛かりで実施する形態をとっている。それだけに重要な授業だとの認識で実施に当たっている。しかし、この授業に対する学生の評価は、他の授業に対するそれと比べて相対的に低い。これは、教員の意識と学生のそれとの明らかな乖離である。	来学期も、同様の方式でこの授業の実施を計画しているが、実施に先立ち抜本的な実施内容等の再検討が必要である。後期の実施に先立つ夏期休業中での再検討を計画している。
社会人としての日本語	石川	教養学科の時は、通年必修であったので、理論編半分、漢字等の演習編半分であった。今は、漢字力が当時より落ちているので、理論編が少なく、演習が多い。国語が苦手の学生にはよいだろうが、よくできる学生は物足りないだろう。学生の受け止め方も、この程度かなと思う。	私の期待したほど、指導が学生に入っていないことが分かった。板書については、一日に2回ほど全面を埋める。このようなことに慣れていないのだろう。少し減らし、ポイントが板面に残るようにしたい。	板書について、一番評価が低かった。異次元の授業で2回ほど黒板を使う。学生にとっては多すぎるのかもしれない。工夫したい。また、学生間の学力の開きも大きい。個別指導の必要がある。
職業の心理	北村	学生評価が学内平均を上回っており、予想以上のよい結果だった。学生の授業の満足度が高く、よい授業ができたと思う。	教員による自己評価を学生評価が全て上回っている。	少人数で、よい授業ができたと思う。学生のモチベーションが高く、とてもやりやすかった。この調子で今後も授業を行いたい。
日本語概論	工藤	教員の考える所よりも高い評価が出、少し戸惑っている。当初留学生に絞った授業を計画していたが、日本人の受講希望者が多く、受け入れざるを得なくなった為、日本人学生の満足度は低いものと思っていたためだ。確かに留学生の方が、知識量が豊富な部分もあったりし、日本人にも留学生に的を絞った日本語学習が有効なことがデータからも分かった。	日本人と留学生では同じ試験で所要時間に差がでるのが当然だが、それを同一授業でどのようにクリアするかが難しかった。①日本人の問題数を増やす、②日本人に他の課題を与える、③留学生のテスト時間の短縮、いずれも試してみたが、いずれが満足度が高かったかは、集計結果からは分からず、今後の検討課題である。	本授業のように留学生と日本人が混在するものについては、それぞれのアンケート結果を別に提示して頂ければ、更に改善点、学生のニーズがつかみやすくなると思われる。
日本語表現法AⅡ	工藤	授業評価は概ね良く満足のいく結果であった。しかし、シラバスに沿って授業が進んでいるかどうか、学生は授業開始以後、シラバスを見ているだろうかと、いつもながら疑問に思う。	学生が授業に満足しているという点が、教員の評価を上回っていたことが喜ばしい。次年度に向けての大いなる励みとしたい。	教室の大きさなどは今後の移転により改善されると思われる。肝心なのは学生のやる気をさらにどのように引き出せるかである。作文は好き嫌い、得意不得意がはっきりする科目なので、受講者の動向をみて、探っていきたい。

別紙１

「学生による授業アンケート調査」（平成 17 年度前期分）実施要領

先に依頼の通り、先生方の担当授業ご研鑽の一助としていただくことを目的として、学生による授業アンケート調査を実施いたします。

本調査の実施は各授業担当者にお願いしております。　実施に際しましては、下記の手順に従ってご進行下さいますようによろしくお願い申し上げます。

調査用紙（調査票とマークシート用紙）の確認

1. 調査票とマークシート用紙を同封した封筒の表紙に記載されている授業科目名と担当者名をご確認下さい。
2. 表紙に記載の赤の三桁の番号は授業科目と担当者を示す識別番号となっております。

実施手順

1. 調査時間は 15～20 分程度を予定しておりますが、授業科目の性質や受講者数によって多少異なってくることが予測されます。時間に余裕をもって開始して下さるようにお願い致します。
2. 設問項目は調査票に示した通りです。それぞれの設問に対する回答は、マークシート用紙に鉛筆で黒くマークさせて下さい。
3. 授業評価に先立ってまず授業科目欄（番号欄）に、授業科目と担当者を示す識別番号（封筒の表紙に記載の赤の三桁の番号）をマークさせて下さい。次いで学年（年欄）、所属学科（クラス欄）、出席回数（D欄）をマークさせて下さい。以上の項目について記入漏れがないかどうかの確認の後、次の授業評価に移って下さい。
4. 授業評価項目は問 1～問 20 で構成されています。講義･演習科目は問 1～問 16 まで、実技・実習科目については問 1～問 20 までとなっています。それぞれについて 5 段階評価の該当する数字にマークするようにご指示下さい。

調査終了後の取り扱い

1. 調査終了後、学生を指名して調査票とマークシート用紙を回収させて下さい。その後学生自身により調査票とかいとうマークシート用紙を元の封筒に収納させテープでしっかりと密封をさせて下さい。自由記述用紙は別に回収させ、先生御自身でお受け取り下さい。

   回収にあたっては、できるだけ学生個人が特定できないようにご配慮下さい。
2. 封筒を学生から受け取り、授業終了後直ちに**別添えの先生ご自身が回答された「授業の自己点検評価用紙」と共に**事務局の担当者までお届け下さい。

集計結果のお知らせと「自己点検評価報告書」（ご意見）ご提出のお願い

1. 集計結果は、先生にご提出頂いた自己点検評価用紙を添えて 9 月上旬に先生方まで個別にメールボックス（専任教員）、または郵送（非常勤講師）にてお届け致します。
2. 同封の報告書に集計結果の分析、問題点の所在、改善策など先生のご意見をご記載の上、9 月末日までに表記宛ご提出下さい。

別紙２

授業についてのアンケート調査票（平成17年度前期分）

この調査は授業の改善に役立てるために無記名で実施するものです。みなさんの成績評価とは関係ありません。率直に、かつ真剣に回答して下さい。

※回答はマークシート用紙に鉛筆で黒くマークして下さい。

授業科目名

学年　1．1年生　2．2年生　3．その他（留年生、科目等履修生など）

所属学科　1．保育学科　2．ライフデザイン総合学科

授業出席回数　1．毎回　2．2／3以上　3．１／2以上　4．１／2以下

評価は次の5段階でおこないます。問1～問16、および問17～問20（実技、実習科目のみ）について、該当する番号に一つだけ○をつけて下さい。

5　そう思う
4　どちらかといえばそう思う
3　どちらでもない
2　どちらかといえばそうは思わない
1　そうは思わない

問1	教員は大きな声で聞き取りやすい速さで話してくれた。	5	4	3	2	1
問2	教員は授業内容が良く理解できるように丁寧に説明してくれた。	5	4	3	2	1
問3	授業はシラバスに示された目標や内容に沿って行われた。	5	4	3	2	1
問4	授業は充分な準備と工夫がなされていた。	5	4	3	2	1
問5	授業の難易度のレベルは適切であった。	5	4	3	2	1
問6	授業の進行速度は適切であった。	5	4	3	2	1
問7	テキストやプリント、視聴覚教材の使い方は適切であった。	5	4	3	2	1
問8	板書はわかりやすかった。	5	4	3	2	1
問9	教員の授業に対する熱意や真剣さが伝わってきた。	5	4	3	2	1
問10	教員は学生の質問や発言などに適切に対応した。	5	4	3	2	1
問11	教員は授業態度の悪い学生に注意し、授業に集中できる静かな環境をつくってくれた。	5	4	3	2	1
問12	授業に興味をもって熱心に取り組むことができた。	5	4	3	2	1
問13	授業の内容を良く理解することができた。	5	4	3	2	1
問14	授業により新しい知識や考え方、必要な技能を習得できもっと深く勉強したくなった。	5	4	3	2	1
問15	この授業の教室の大きさや設備（視聴覚機器や教材など）は適切であった。	5	4	3	2	1
問16	総合的にみてこの授業を受けて満足している。	5	4	3	2	1

《問17～問20は実技や実習科目のみ回答して下さい》

問17	教員の技能や実技の指導は適切に行われた。	5	4	3	2	1
問18	この授業で課せられる課題の量は適切であった。	5	4	3	2	1
問19	与えられた課題に取り組む時間は充分にあった。	5	4	3	2	1
問20	授業の内容は技術や実技の向上に役立つものであった。	5	4	3	2	1

別紙３

担当教員による授業の自己点検評価

今年度から学生による授業評価に並行して「担当教員による授業の自己点検評価」を実施させて頂くことになりました。ご多用中誠に恐縮ではございますが、下記項目にご記入の上ご担当科目についての「学生による授業アンケート調査」実施終了後、回収用紙の入った封筒と共にご提出下さいますようにお願い申し上げます。

※一授業科目について1部ご提出ください。
※複数担当者によるオムニバス形式の授業につきましてはその中の代表者がご記入下さい。

ご記入日	2005年　前期　　(　　)曜日　(　　)時限
授業担当者	
授業科目名	
総受講生数とご担当コマ数	名　　コマ

評価は次の5段階でおこないます。問1～問16、および問17～問20（実技、実習科目のみ）について、該当する番号に一つだけ○をつけて下さい。

5　そう思う
4　どちらかといえばそう思う
3　どちらでもない
2　どちらかといえばそうは思わない
1　そうは思わない

問1　授業では大きな声で聞き取り易い速さで話すように心がけた。	5	4	3	2	1
問2　学生が授業内容を良く理解できるように丁寧に説明した。	5	4	3	2	1
問3　授業はシラバスに示された目標や内容に沿って行った。	5	4	3	2	1
問4　授業には充分な準備と工夫をして臨んだ。	5	4	3	2	1
問5　授業の難易度のレベルは適切であったと思う。	5	4	3	2	1
問6　授業の進行速度は適切であったと思う。	5	4	3	2	1
問7　テキストやプリント、視聴覚教材の使い方は適切であった。	5	4	3	2	1
問8　板書は適切であったと思う。	5	4	3	2	1
問9　授業は熱意をこめて真剣に行った。	5	4	3	2	1
問10 学生の質問や発言に適切に対応した。	5	4	3	2	1
問11 授業態度の悪い学生に注意し、授業に集中できる静かな環境をつくる努力をした。	5	4	3	2	1
問12 学生は授業に興味をもって熱心に取り組んでくれた。	5	4	3	2	1
問13 学生は授業の内容を良く理解することができたと思う。	5	4	3	2	1
問14 学生は授業により新しい知識や考え方、必要な技能を習得し、授業内容に対する関心を高めてくれたと思う。	5	4	3	2	1
問15 この授業の教室の大きさや設備（視聴覚機器や教材など）は適切であった。	5	4	3	2	1
問16 学生は総合的にみてこの授業を受けて満足していると思う。	5	4	3	2	1

《問17～問20は実技や実習科目のみご回答下さい》

問17　授業中の技能や実技の指導は適切であったと思う。	5	4	3	2	1
問18　この授業で課した課題の量は適切であったと思う。	5	4	3	2	1
問19　学生が与えられた課題に取り組む時間は充分にあったと思う。	5	4	3	2	1
問20　授業の内容は技術や実技の向上に役立ったと思う。	5	4	3	2	1

別紙４

教員による自己点検報告書（ご意見）
―学生の授業評価より―

ご提出日　　2005 年　　月　　日
授業担当者名（　　）
授業科目名　（　　）
総受講生数（　　）名　（内訳：１年次　　名、２年次生　　名、その他　　名）

1．学生による授業評価の集計結果について

2．教員による自己点検評価と学生による授業評価について（分析と問題点）

3．今後の改善点について

授業評価報告書

－よりよい授業への改善をめざして－

©2006 年 7 月発行

編集　　四條畷学園短期大学 FD 委員会
発行　　四條畷学園短期大学
〒574-0001
大阪府大東市学園町 6-45
Tel　072-876-1321
Fax　072-879-7231

Edited by Shijonawate Gakuen Junior College

Gakuen-cho, Daito-shi, Osaka 574-0001 Japan

Tel: 072-879-7231

http://www.shijonawate-gakuen.ac.jp/jc/